

My GARDEN

マイガーデン

「庭を見る・つくる・考える」そして幸せな暮らしへ

山口・津和野・宇部

ミステリーローズを探す旅

平戸から始まったミステリーローズ探し

「平戸ミステリーローズの会」

その後の活動

ガーデンツーリズムを楽しむ

8 福島編

のどかで豊かな日本の

農風景を楽しむ旅 福島

深町貴子流

ハーブを使って
眺めるだけじゃない
植物の楽しみ方

赤城自然園

森の妖精 レンゲショウマと
深き緑に抱かれる、夏

美と健康をかなえる ファンケル 銀座スクエア



2F 壁画ギャラリー
入場無料



世界的に活躍する壁画家
田村画伯の女神の壁画を
眺めながら、優雅なひとときを
お過ごしください。



田村 能里子 たむらの りこ

武蔵野美術大学卒業。インド・中国・タイなどに通算8年間滞在し、アジア・西域の人々をモチーフとした素描、油彩画を中心に意欲的に制作。西安のホテルにある60メートルの大壁画をはじめ、客船「飛鳥」、北里大学病院、ファンケル銀座スクエア、これまでに手がけた壁画は62作にも及び、世界を舞台に活躍中。

お問合せは 2F 壁画ギャラリー Tel.03-5537-2549 OPEN 11:00~19:00

各フロアには、先進の美と健康が詰まっています。



Beauty

3F ファンケルビューティショップ



無添加スキンケアやメイクが自由に楽しく試せます。簡単な肌チェックもお気軽に。

4F ファンケルビューティショップ
～パーソナルカウンセリング～



スキンケアやメイクアップを実践で身につける、レッスン形式のカウンセリングフロア。

Science

5F ファンケル
研究技術ギャラリー



無添加化粧品や、身体に届くサプリメントのしくみや力を発見できるサイエンス体験フロアです。

Organic

B1F 泥武士キッチン



こだわりの野菜と生パスタ、ヘルシースイーツが楽しめるオーガニックカフェ。

Health

6F ファンケルヘルスハウス



ファンケルのサプリメントが全て揃う専門店。セルフで血圧や血管年齢がチェックできます。

7F ファンケルヘルスハウス
～パーソナルカウンセリング～



管理栄養士が身体をすみずみまでチェック＆カウンセリング。

Science

8F ファンケル
予防医療ミュージアム



無料でさまざまな測定や、気になる脳年齢・ストレスチェックなどセルフで体験できます。

9F レストラン ぎんざ 泥武士



素材はもちろん、調味料にまでこだわったオーガニック料理で身体の中からおいしくヘルシーに。

ファンケル 銀座スクエア

FANCL GINZA SQUARE

〒104-0061 東京都中央区銀座5-8-16 TEL.03-5537-0231 (代表)
地下鉄銀座駅A3出口より徒歩1分
営業時間 11:00~20:00 (フロアにより異なります)

<http://www.fancl.jp/sq/>

ファンケル銀座スクエア

検索



フランス メイアン社から『マイガーデン』誌に贈られたバラ

MyGARDEN



写真／フランス国立園芸協会SNHF（マイガーデンNo.56号より）

雑誌『マイガーデン』創刊10周年を記念して、フランスの名門ナーセリー メイアンインターナショナル社からマイガーデン誌に贈られたのがバラ「マイガーデン」です。繊細な色彩、豊かな香り、美しいフォルム。日本の様々なお庭で今も美しく、しかもたくましく咲き誇っています。このバラをマイガーデン誌と共に末永く愛していただきたいと思います。

●系統HT ●半直立性1.5 m ●四季咲き ●大輪 剣弁高芯から丸弁抱え咲き ●強香

フランスグラーズの調香師から「パワフルなロサ・センティフォーリア、シトラス、パルマローザの香り」と評されたとても豊かな香りのバラ。2006年バーデンバーデン国際バラコンクールカジノ賞、2008年ADR、2012年モナココンクールHT部門金賞受賞、2013年AARS（オール・アメリカン・ローズ・セレクションズ）賞受賞など数々の栄誉ある賞を受賞している高貴なバラ。

※バラ「マイガーデン」は京成バラ園芸で購入できます

季節の花鳥風月

日本画と文 山本富雄 ランドスケープアーキテクト
東京農業大学客員教授

アドバイザー＝濱野周泰（東京農業大学教授）



アジサイ (写真＝濱野周泰)

第6回 あじさい（紫陽花）

アジサイの名は、あづ（集まる）と、さあい（真・青い花）という、青い花がかたまつて咲く様子から名付けられたとされています。漢字を「紫陽花」としたのは、平安時代の歌人であり学者であった源順です。中国の白楽天の詩に登場する「紫陽花」がアジサイに類似していることから、この漢字を当てましたが、アジサイは日本原産であり、誤りであると指摘されながらも、時すでに遅く「紫陽花」が定着しています。

アジサイは落葉低木で、現在はアジサイ科アジサイ属に分類されています。もとは花序の周辺を縁取るように萼が並ぶ額咲きのガクアジサイを母種として日本で生まれた園芸品種で、広く栽培されています。花は6月から7月に茎の先に球状で大形の散房花序（手まり咲き）をつけます。花に4～5個ある萼片は大型で花弁状の装飾花となっています。花色は、土の酸度がひとつの要因となつてアルカリ性の土壌で赤くなり、酸性で青くなるとされています。茎は根元から叢生して高さ1.5m位、古く太い茎の表皮は灰褐色となり若い茎は緑色、枝の分岐は少ない。葉は対生で葉柄があり卵形で厚く光沢のある濃緑色で先端は尖り、縁には鋸歯があります。

アジサイは、日本に古くから存在している植物で、奈良時代の「万葉集」に記録があるにも関わらず、花としての人気がほとんどない時代が続きます。その要因は、花の色が変化することを移り気とられ、不道徳であると考えられたと言われています。

ようやくアジサイが表舞台に登場し始めたのは、第二次世界大戦後になります。鎌倉の明月院や長谷寺が有名ですが、観光資源として注目されたことがきっかけで、観光名所として地域の集客効果の向上に大きく貢献しています。また、海外では、江戸時代に中国を経てヨーロッパに渡り、品種改良されたセイヨウアジサイ（ハイドランジア）が世界中で愛好され人気が上がリ、桜や椿と並んで日本を代表する花として知られるようになり、日本に逆輸入されたこともアジサイ復権の一助になったと考えられます。

近頃では、小さな花が集まってひとつの花に見えることから、一家団欒や家族のつながりを象徴しているといったイメージが定着して、母の日のプレゼントに利用されるなどしています。雨の中に咲く花に風情があり、梅雨の花の代名詞ともいえるアジサイの魅力が評価されていることは喜ばしい限りです。

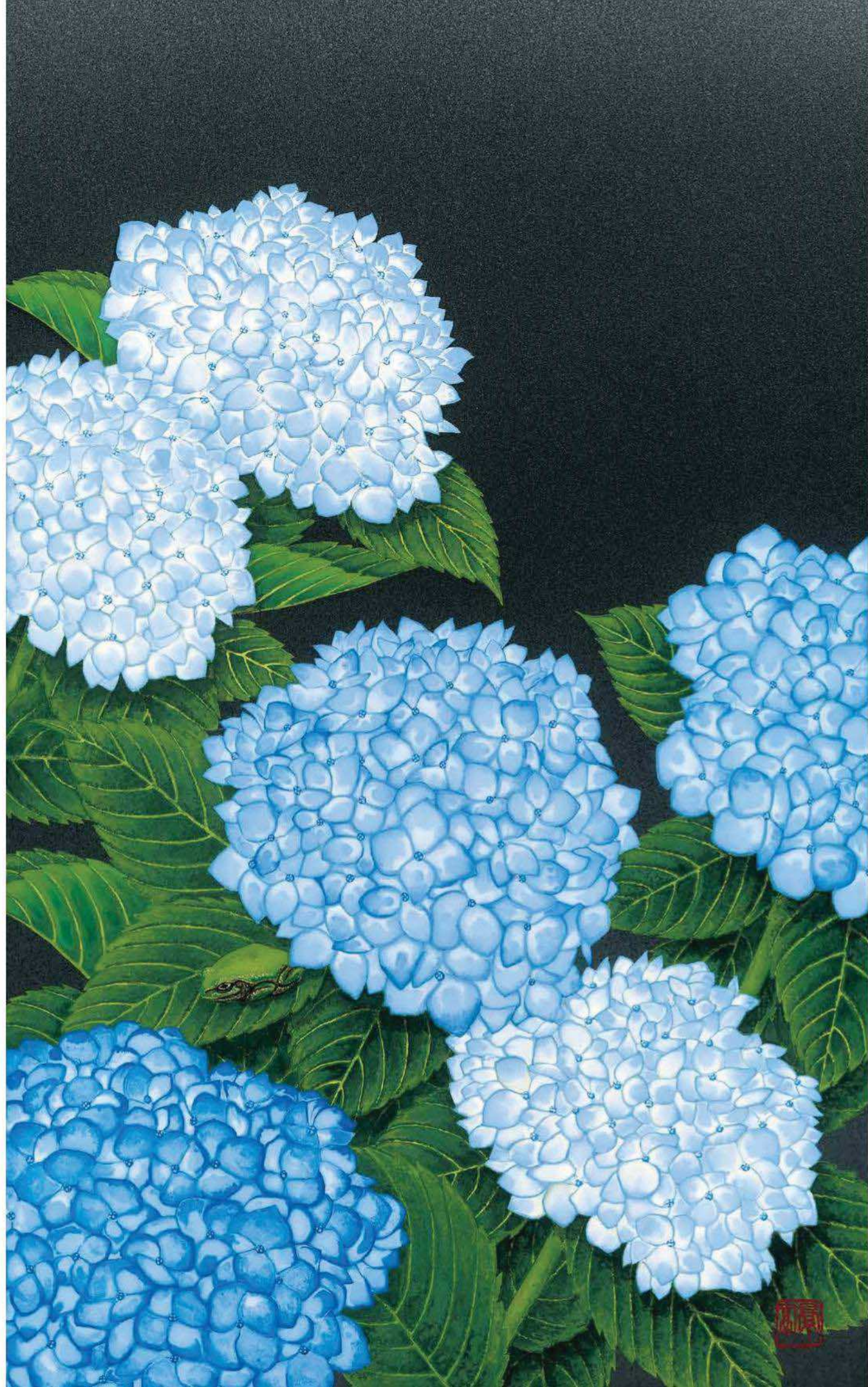
【画題】天色の花

毎日 毎日

青い空を忘れるくらい

雨が降ると

地上に青い花が咲く



002

季節の花鳥風月

第6回 あじさい（紫陽花）——山本 富雄

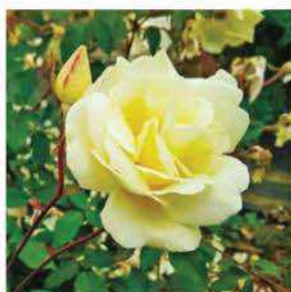
006

山口・津和野・宇部

ミステリーローズを

探す旅

構成／編集部
解説／白砂伸夫、国司淑子
協力／白砂知穂子
写真／編集部、白砂伸夫、
三富浩信



024

平戸から始まったミステリーローズ探し

「平戸ミステリーローズの会」

その後の活動

文・写真／大曲淳子
取材協力／長崎県立北松農業高等学校
たひら昆虫自然園
浜崎さわか
有限会社森酒造場



030

God is in the detail 神は細部に宿る

きのこの写真家

大作晃一さんがバラを撮ると

写真／大作晃一 文／御巫由紀

034

マイガーデン＋クラブツーリズム花めぐり
ガーデンツーリズムを楽しむ
Vol.8 福島編

のどかで豊かな

日本の農風景を楽しむ旅

～福島県～

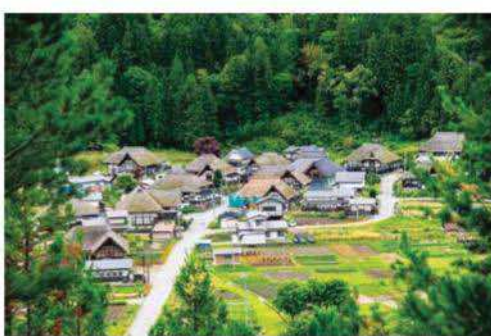
052 044 034

前沢曲家集落

佐藤梨園 薔薇と梨園

オープンガーデン 執行邸

構成／編集部
文／阿部民子
旅行企画実施／
クラブツーリズム株式会社



060

赤城自然園

森の妖精 レンゲシユウマと
深き緑に抱かれる、夏

構成・文／編集部
話／国兼貴行
撮影／野呂希、編集部、赤城自然園



MyGA

CONTENTS

068

「第20回」国際バラと ガーデニングショウ

アニバーサリーガーデン
バラとガーデニングコンテスト
国際バラとガーデニングショウ
20周年の感謝を込めて（スペシャルトークショー）



082

銀座・天空の庭で 色香に包まれ 安らぐひと時を ファンケル 銀座スクエア



086

深町貴子流
ハーブを使って
眺めるだけじゃない
植物の楽しみ方
企画・構成／深町貴子＋編集部
協力／養命酒製造株式会社



092

羽村は、花と水のまち 農家と市民の想いがつくる「チューリップまつり」

096

オープンガーデン前線、を追いかけて 東京都羽村市 「オープンガーデンはむら」



100

命の息吹きを感じる 都会のオアシス

― 森田さんのオープンガーデン ―



104

Happy Garden Life

ガーデンライフ in 小平

108

【最終回】大使、大使夫人による 10カ国のガーデニング

112

榎原八朗さんのガーデンデザイン講座 第8回「観賞本位の蹲踞②」つくばい

116

園芸文化をつくったひとたち⑦ 大隈重信は「花と緑の文明開化」 の先導者、園芸政治家

118

古城大陸さんのDIYの庭作り 第4回

125

アクロス・ザ・ガーデン NEW GOODS BOOKS INFORMATION

〈今月の表紙〉
■佐藤梨園
(写真／牛尾幹太)

山口・津和野・宇部

ミステリーローズを

探す旅



津和野のバラ栽培家 小川次郎が発見したバラで、ジローズローズ「No.3」と呼ばれる
ジローズローズにはいくつかの種類がある（**）

構成／編集部

解説／白砂伸夫（ランドスケープアーキテクト）

国司淑子（山口庭園都市文化研究所所長）

協力／白砂知穂子

写真／編集部、白砂伸夫*

三富浩信**

黄色いミステリーローズがある！

黄色いミステリーローズがあると聞いて、身を乗り出した。

今年の2月にオールドローズとつるばらのクラブで講演した時に、
会員の三富さんから津和野に黄色いミステリーローズがあると伺った。

黄色い現代バラの誕生は新しく、1900年にフランスの育種家、
ジョセフ・ペルネ・デュシエがロサ・フェティダとの交配により作出した
「ソレイユ・ドール」である。

それ以前に、日本にどのような黄色いバラがあったのだろうか。

白砂 伸夫（しらすな のぶお）

神戸交際大学教授・ランドスケープアーキテクト。
第33回全国都市緑化よこはまフェア統括アドバイザー。建築、
ランドスケープデザイン、ガーデンデザインと幅広い分野で
世界的に活躍。特に、ローズガーデンのデザインでは世界から
認められ、日本造園学会賞、アカオハーブ&ローズガーデンは
世界バラ会連合から優秀庭園賞を受賞している。
主な作品：愛媛大学キャンパスランドスケープデザイン「グ
リーンプロムナード」、よこはまフェア：日本大通り「フラワー
フェスタ」、ハウステンボス「グランドローズガーデン」、花フェ
スタ記念公園「世界のバラ園」など





ジローズローズ「No.3」(**)

日本の古いバラに、黄色い花があるというのは半信半疑だった。なぜなら、日本各地でミステリーローズを探してきたが、今まで黄色いミステリーローズに出合ったことがなかったからである。

江戸時代に黄色いバラが描かれている絵を何枚か発見しているが、果たして、それが本当に黄色いバラを描いたものなのか疑ってモいた。なぜなら当時の絵師の描き方は、写生画をもとに構図や配置、あるいは色彩をも決められていて、自然風に描かれた絵画であっても、リアルな自然の描写ではなく、絵師の芸術的感覚により、あるいは絵画の表現形式に従って自在に構成され、実際の花の色とは異なった色彩に描かれる例もあったからである。

例えば、伊藤若冲の金毘羅宮の中段の間の「花丸図」に描かれているバラは同じ下絵をもとに、方向や色合いを変えて描かれていた。江戸時代後期の女流画家、平田玉蘊は1800年の前半には黄色の大輪のバラを描いているが、同時に、当時としてはありえない薄紫色のバラも描いており、同じ色彩で紫のボタンも描いている。実際のバラの色を描写したものが疑問であった。であるから、津和野に黄色いミステリーローズがあると聞いた時は本当に驚いた。

その黄色のミステリーローズは、津和野の多胡家老門の裏にあるというので、マイガーデンの丸茂さん、山口県で幅広く活躍されている国司さん、私の妻の四人でさっそく津和野を目指した。心弾ませて多胡家老門を訪ねたが、残念なことに、そこにはすでにバラはなかった。

津和野の黄色いミステリーローズは、津和野在住であったバラ栽培家の故小川二郎氏が報告されたものであり、「ジローズローズ」と呼ばれているものの一つである。今回の旅行では発見できなかったものの、古いタイプのバラの収集家である三富浩信氏が栽培されている写真をお借りし掲載させていただいた。

このバラと平田玉蘊が描いた花鳥図の大輪の黄色いバラを比較すると、花弁の中心が黄色く、外側ほど白っぽくなるという特徴と赤みを帯びたステムが一致した。また、咲き方も似ていて、平田玉蘊の描いた黄色いバラそのものではないかと考えている。系統としてはティーだろつ。

文／白砂伸夫

山口・津和野・宇部にもあつた ミステリーローズ

解説／白砂伸夫

この淡い色合いのティーローズは、津和野の西周（1829～1897、哲学者、思想家）の旧居の門の横のアカマツの根元のあつたもので、これも「ジローズローズ」と呼ばれているバラの一つである。庭は丁寧に管理されていて、このバラも剪定されているようで、自然な樹形がわかりにくい。花も一輪しか咲いていないので、ティー系だと思われるが、それ以上のことはわからない。



西周の旧居に咲いていた白いティー系のバラ。波打つ白い花びらはやさしげな雰囲気が漂う



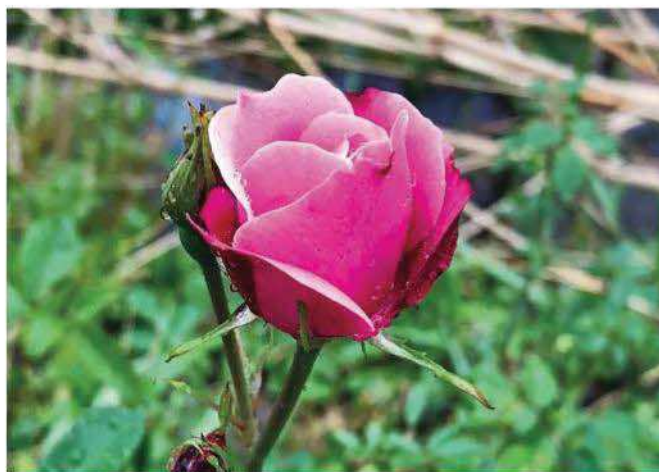
西周の旧居の倉の前に咲いていたピンクのチャイナ系のバラ



同じ西周邸の蔵の前にあったピンクのバラ。まとまった樹形（剪定されているのだろう）に濃淡のピンクの花が美しい。津和野周辺にはこのピンクのバラが多い。系統はチャイナ系であり、京都周辺でよく見かけるピンクのミステリーローズと同じように見えるが、京都のものは、花はこのようなグラデーションにならず、まったく同じものではないかもしれない。中国から何代にも渡って渡来してきたバラだろうから、全くの同一品種とはいえないかもしれない。



小川次郎さんのバラ園を、雨の中を探して回った。聞いてきた場所にはすでにバラ園はなく、石畳の園路だけが残っていたが、すでに菜園になっていた。それでも菜園の横の土手に小川次郎さんを偲ぶかのようにこのチャイナ系のバラが残っていた。



上中下／ピンクのチャイナ系は各地で見られる。津和野のものは咲き始めは色が濃く、やがて薄くなり、咲き進むにつれてまた濃くなってくる（*）



白いティー系のバラ。西周の旧居にあったものとは別種のように思われる（*）



上／白と黄色のモッコウバラ 下／赤いチャイナ系のバラ（*）

山口市の国道9号線沿いの古い農家の庭から白いティー系のバラが擁壁の上から垂れ下がっていた。このバラは京都、平戸、福山にある白いティーローズと同じではないかと思われる。平田玉蘊はこれに似た白いティーローズを尾道の浄土寺の板戸に描いていて江戸時代から栽培されていた品種であると思われる。

赤いバラも、国道沿いの住宅の雑然とした植え込みの中に忘れられたように生えていた。山口から宇部の古い家にはモッコウバやナニワイバラがいたるところに生えていて、これらのバラも江戸時代に渡来したバラであり、山口の歴史を物語っているともいえる。



私と国司さんは宇部市「ガーデンシティ」のアドバイザーを務めていて、会議の後でミステリーローズの話をしていました。宇部市役所のガーデンシティ担当の安部さんが、さっそく見つかったと、津和野に出かける直前にこのバラの写真を送ってくれた。最初は、赤いチャイナ系のよくある品種かと思っていたが、実際に見ると、今までに見たことのないバラでこれに類似した品種は思い当たらない。赤紫の大輪で廃屋の前に3m以上の大株に育っており、大輪の花をたわわに咲かせた見事なバラである。

ミステリーローズを探す楽しみは、このように今までに出合ったことのないバラに巡り合うことにある。

上下／チャイナ系の品種と考えられるが、花色が紫を帯びた赤色と、今までに見たことがない花色のバラ。「宇部ミステリーローズ」とでも名付けたい(*)



山口ミステリーローズ ロードへの旅

解説／国司淑子（山口庭園都市文化研究所 所長）

ミステリー。

神秘、不思議、謎という意味の言葉。

ミステリーローズ。

名前や由来がわからなくなってしまったけれど、

その地域の気候に合って長く栽培されてきたバラ。

ミステリーローズロード。

ミステリアスな、バラの来た道・バラとの交流の道。

そんなイメージに魅かれて、わがまち山口周辺のローズ文化を

新発見する旅をスタートしました。

【山口編】

■古の物語■

「西の京」と呼ばれる山口。中世、大内氏はここを本拠地とし、石見（島根県）、安芸（広島県）、博多（福岡県）等を統治。西国一の守護大名として幕府に迫るほどの勢いを持ちます。大陸に近いという地の利を生かし、明や朝鮮との貿易で蓄えた莫大な富をもとに、京の地形に似た山口の地に、都を手本とした「四神相応」のまちづくりを進めます。大陸文化や貴族文化を積極的に取り入れるとともに、

画僧の雪舟や連歌師の宗祇ら文化人を多数招聘し、書物の出版にも力を注ぐなど、絢爛たる大内文化を築きました。

また、スペインの宣教師、フランシスコ・サビエルにキリスト教布教を許し、日本初のクリスマスをとりに行っています。サビエルのカトリック本部宛の書簡からは、「日本国内でいちばん栄えている山口」「この地の戸数は一万戸以上」など、当時の繁栄の様子をうかがうことができます。

※山口では、「サビエル」と濁らず、「サビエル」と称します。



京都ではよく見かける赤いチャイナローズ。雑然とした植え込みの中にあった

風土に根づく メンテナンスフリーのバラ

一五五二年のサビエルの書簡には、「山口では、私の生涯でこれほど霊的な満足を受けたことは決してなかった」と記されています。丘の中腹に建つ「山口サビエル記念聖堂」のほど近く、新山口駅から車を15分程度走らせたところで、助手席の白砂知穂子さんが、「見つけた」とつぶやきました。古い民家の生垣のなか



国司淑子（くにしとしこ）

山口庭園都市文化研究所 所長
山口県を中心に活動するガーデンシ
ティプランナー。“学ぶ・繋がる・拡
がる”を愛言葉に、植物とともにある
生活スタイルを提案。森林セラピスト、
ガーデンセラピスト、ハーバルライ
フコーディネーター。下関・宇部・
山口ガーデニングカレッジ学長。



国道からあふれるように咲くバラが見えた

で、ホワイトに淡いピンクがかったバラが、春のやわらかな陽光のもとで花の盛りを迎えていました。

園芸種のバラたちはまだ固い蕾だというのに、山口で巡りあった「ミステリーローズ」は、たおやかにステムを伸ばし、たくさんの花をつけていました。「ティー系のミステリーローズだと思う」と、白砂伸夫先生が同定。例外はあるものの、そのポイントは五つ。

一、園芸種に先駆けて、春先に開花するものが多い。

二、風雪にも病害虫にも耐え得る強健種が残っている。

三、チャイナ系の品種は株元から叢生した伸びた軸が緑色をしているものが多い。

四、チャイナ系の品種は一般的に、羽状複葉の小葉がやや細長いものが多い。

五、古い系統のバラなので、現代バラのような華やかな色彩はない。

その他、花びらや葉にワックス分が少な



白いティー系のバラ



育て主の磯部尚子さん

く、やわらかな表情を持つ。ふくよかな香りを持つものが多い。一季咲きだけでなく、四季咲きのものもある。などなど多様な性質を持ち、同定には知識や経験が必要だと実感しましたが、現代の園芸種にはない「ミステリーローズ」の優しげでのびのびとした樹形や花色の美しさや香りに、ひとめで魅了されてしまいました。

育て主の磯部さんにお話を聞きました。

「このバラは、私がお嫁に来る前からここに植えられていたもの。五十年以上



ミステリーローズはこのような農家の一角に咲いていることが多い



1・3・4 / 農家の生垣にまぎれて咲いていたピンクのチャイナ系のバラ 2 / 山口市内を流れる一の坂川



は春も秋も花を咲かせ続けているのではないかしら。バラの花が好きで、いろいろ植えたけれど、みんな枯れてしまった。結局残ったのはこれだけね」

無農薬でもメンテナンスフリーでも時代を超えて生き続ける、てまひまらずの強く美しいバラがここに息づいています。

それにしても、緑深い生垣に寄り添うように咲く花を、動く車のなかから見つけてしまう知穂子さんには、サビエルのいう「霊的な」感覚が備わっているのではないかと感じずにはいられませんでした。その後も知穂子さんは、「ミステリーローズ」を次々と発見していくことになります。

5 / ミステリーローズの多くは、農家のこのような生垣の中にひっそりと咲いている
6 / 育て主の光永さんに話を聞く





常栄寺「雪船庭」。山口の
歴史的・文化的奥行を感じさせる見事な庭園



大陸の系譜をまとうバラ

山口は、画聖と賞された禅僧・雪舟が庵を結んだ地。京都・相国寺で修業したのち山口に移り、大内氏の庇護のもと、遣明船に同乗して中国に渡り、水墨画を学びます。帰国後、数々の傑作を残しますが、「四季花鳥図屏風」（国宝）のなかには、コウシンバラが描かれています。雪舟は、その赤いバラをどこで写生したのでしょうか。原産地の中国か、あるいは山口に持ち帰った後に描いたのか、興味は尽きません。また雪舟は命により、大内氏の別邸、後の常栄寺に築庭も行っています。その雪舟庭にもコウシンバラを配したのでしょうか。花鳥図のなかのバラに問いかけてみたい気持ちになります。

アジアを中心に古地図を見ると、当時の大内氏の所領は、中国からとても近い隣国。海の道を経て、ローズロードが山口にも伸びていたと想像するのは楽しいことです。おそらく植物や文化の伝播は、一方ではなく、多面的であったはずだから。

さて、知穂子さんの「見つけた」が続きます。年代を経た古民家の門扉のそば。チャイナ系のピンクのバラです。

育て主の光永さんは、「昔からここにあるの。ほったらかしで肥料もあげないのに、晩秋までよく咲いてくれるのよ。これから大切にしなければね」と笑います。堀の前まで区画整理が行われ、ぎりぎり生き延びたバラ。出合えてよかった。

【津和野編】

和と洋の融合した

街並みに調和するミステリーローズ

山口から車で小一時間。山あいの小さな盆地に、赤い石州瓦と白壁の街並みが美しい小京都・津和野が広がります。殿町に佇む「津和野カトリック教会」。聖母マリアに捧げられたバラ窓が迎えてくれました。ここは、長崎キリシタン配流の地でもあり、「乙女峠マリア聖堂」がその悲劇を伝えています。聖母マリア像の前には、紅白二本のバラが植えられていました。バラは慈愛と清純の象徴。この地ではどんなミステリーローズに出逢えるのでしょうか。



津和野カトリック教会



乙女峠マリア聖堂



小京都と呼ばれるだけあって、津和野はいたるところに花が飾られ、人々のまちへの温かい思いが伝わってくる



赤い瓦の屋根が特徴的な津和野のまち



一両編成の電車が津和野に行く



街角につくられたミニガーデン



鉢にはハナシヨウブが植えられ、コイが水路を泳ぐ。津和野を代表する風景



上／西周旧居
左／森鷗外の旧宅

明治の啓蒙思想家・西周旧居で ティー香を放つバラ

西周は、哲学・心理学・芸術などの訳語を考案し、近代日本の思想の礎を築いた人。旧居前では、薄ピンクのバラが、甘い紅茶のような芳香を漂わせて開花していました。繊細な枝ぶりと、花の重みで垂れ下がったステムが、楚々とした風情を漂わせています。

彼が勉学にいそしんでいたという土蔵の近くには濃ピンクのバラ。

薄ピンクのバラはティー系や濃ピンクのチャイナ系のバラに由来する風姿が伺え、東洋のバラならではのつつましやかさで、日本家屋や和の庭にもみごとに溶け込んでいました。

これらの花たちを、西周も愛でたのでしょうか。いつ頃から植えられていたのか、地域の方たちに訊ねても、その答えを知る人はもういませんでした。

軍医で文豪の森鷗外旧宅の庭は、薬草園

西周旧居の向かいは、森鷗外旧宅。彼らは親戚同士で、鷗外が東京で学生時代を送ったときには一時、政府高官になった西周宅に寄食していたといいます。

藩医の家柄だった森鷗外の旧宅の庭は、薬草園として整備されており、ハマナスの赤い花が咲き誇っていました。バラの品種改良において、耐寒性や耐病性などの獲得に重要な役割を果たした原種のひとつです。





門の横の、白いティー系のミステリーローズ



座敷の向こうにピンクのミステリーローズが咲いていた





植物好きの自転車屋さんのバラ

津和野郵便局の前に、たくさん植木鉢が並んでいました。そのなかにあったピンクの濃淡のバラと、黄色いバラ。白砂先生も知穂子さんも、興味深げです。局員の方に訊ねると、向かいの「オートサイクル大庭」のご主人が接ぎ木し、育てたバラを置いてもらっているとのこと。

大庭さんは、津和野在住で、著名なオールドローズの収集・栽培家で、華道家でもあった、故・小川次郎さんと交流があったということです。

「親木のことは、もう名前も由来もわ

からないけれど、古いバラだと思う」

大庭さんに、小川さんのバラ園のあった位置を地図に落としてもらい、訪ねてみることにしました。が、小川さんが亡くなり、バラたちは枯れ果て、その後、実り豊かなキッチンガーデンへと変貌していました。

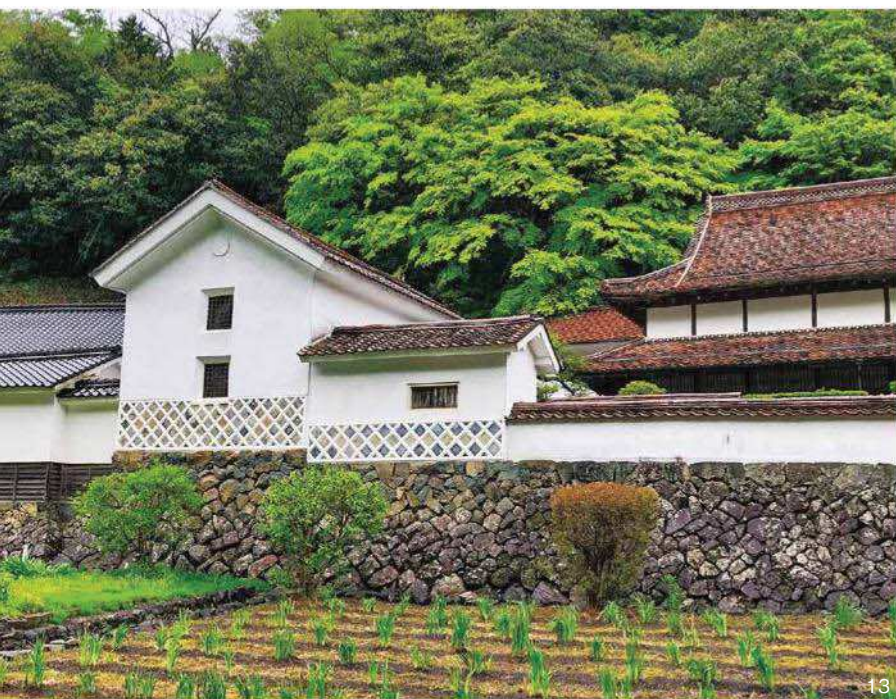
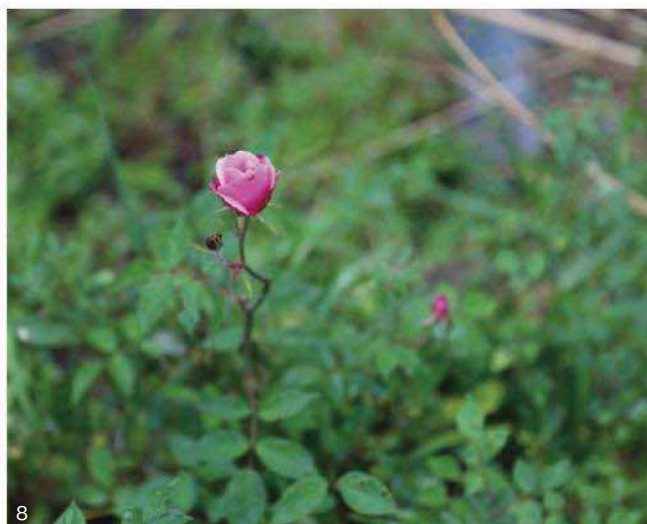
花園の名残りの石畳みがセンスよく、オールドローズたちの美の饗宴を彷彿とさせるものでした。路傍に咲くピンクのミステリーローズに、かつての記憶がとどめられている、そんな気がしました。

- 1 / 多胡家の家老門。この内側にミステリーローズがあったらしいが、すでになくなっていた
- 2 / 黄色いミステリーローズと期待したが、1960年代のフロリバンダ系のバラと判明
- 3 / ピンクのチャイナ系のバラ
- 4 / 取材先で左から白砂知穂子さん、大庭重男さん、筆者、白砂伸夫さん、大庭婦人
- 5 / バラの香りに魅せられて
- 6 / 山野草の鉢が並んでいたオートサイクル大庭店





7 / このハマナスも小川次郎さんが栽培されていたものだろう。かろうじて、土手で生き延びていた
 8・9 / 菜園の横の土手にあったピンクのチャイナ系のバラ
 10 / 移植され生き残ったピンクのバラ
 11・12 / 小川次郎氏のバラ園のあったところは菜園になっていた
 13・14 / 旧堀家庭園



【宇部編】

旅の終わりに遭遇した、
最大級の宇部ミステリーローズ

山口ミステリーローズロードの旅の終わりは、ガーデンシティを標榜し、緑と花と彫刻のまちづくりを進める宇部のまちへ。空の玄関口・宇部空港も、宇部を代表するときわ公園も、まちなかも、名花「宇部小町」をはじめ、さまざまなバラの花で彩られています。

圧巻は、宇部市総合戦略局ガーデンシティ推進グループの安部さんが、街角で見つけたというよりも、出逢ってしまったというほうがふさわしい奇跡のミステリーローズ。

廃屋の二階にまでツルが伸びて、半八重で赤紫色のみことな花をこぼれるほどにつけていました。強健で早咲きだからこそ、温度や湿度が上がってから繁殖する病害虫たちにむしばまれることもなく、健康な葉や花を保っていられるので

しよう。高温多湿のこの地域でのバラ栽培の新たな可能性にふれたような気がしました。

フロール系にややブルーな香りをはらみ、花びらを口に含んでみると、さくさくとした歯ごたえとともに、芳香が広がります。そう、食べてもおいしいのです。やがて建物は取り壊され、さら地になる運命だったこの場所で、無言でレスキューを待っていたかのようなけなげなミステリーローズ。

関係者との協議は緒に就いたばかりです。できれば、ときわ公園の一等地に移植して、風土に育まれたその強靱さ、その花色の麗しさを多くの人に愛でてもらいたい。そんなことを思い描いていたら、ときわ公園・うべ花いっぱい運動記念ガーデンのボランティアスタッフの村田ムツミさんが、「うちにもあります」というではありませんか。情報が地域に広がれば、さらに多くの発見があるかもしれない。ミステリーローズを巡る旅は、これからも続きそうな予感です。



右／宇部市ときわ公園のバラ 左／壁面を覆うメイクイーン





上・下左／廃屋の前に大きく育つバラ
下右／発見者の安部達也さん

平戸から始まったミステリーローズ探し

『平戸ミステリーローズ』は
本誌71号、77号でも紹介しています

「平戸ミステリーローズの会」 その後の活動

文・写真／大曲淳子



大曲 淳子（おおまがりじゅんこ）

江戸時代からの庭がある家に住む。庭の保存活動を通じ、平戸市出身の園芸家・油屋吉之助氏と出会い、古くからあるバラの調査に関わるようになった。平戸ミステリーローズの会代表。

取材協力／長崎県立北松農業高等学校、
たびら昆虫自然園、浜崎さわか（写真家）、
有限会社森酒造場

平戸出身の園芸家・油屋吉之助氏の
「平戸の旧家に残る古いタイプのバラ
が気になっているのです」という言葉
で始まった平戸ミステリーローズの活
動。今年度からは、新たに市内の農業
高校の正式教材となり、若い人たちが
関わってくれるようになりました。

平戸ミステリーローズの調査や保存活
動が始まって12年が経ちました。今8名
が中心になって活動していますが、皆
バラは素人。平戸に古くから残っている
バラに魅力を感じて集まったものの、実
はこうしたらよいのか右往左往しながら
時間だけが経っていたように思います。

そのような昨年の春、平戸市田平町に
ある北松（ほくしょう）農業高校に油屋
吉之助さんの御次男・油屋靖生さんが教
頭先生として赴任してこられました。

天国におられる油屋吉之助さんが、進展
の無さに専門家である息子さんを送り込
んで下さったとは思えない展開でした。

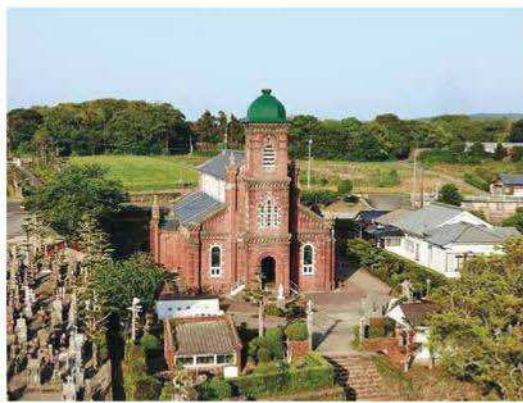
それから1年の準備期間を経て、今年
4月から生物生産科植物科学コース草花
専攻の生徒さん達が平戸ミステリーロー
ズに向き合ってくださいています。

皆バラは初めて。でも若いエネルギー
は吸収力も旺盛です。何もわからないま
まに始まったバラの授業は、芽接ぎから

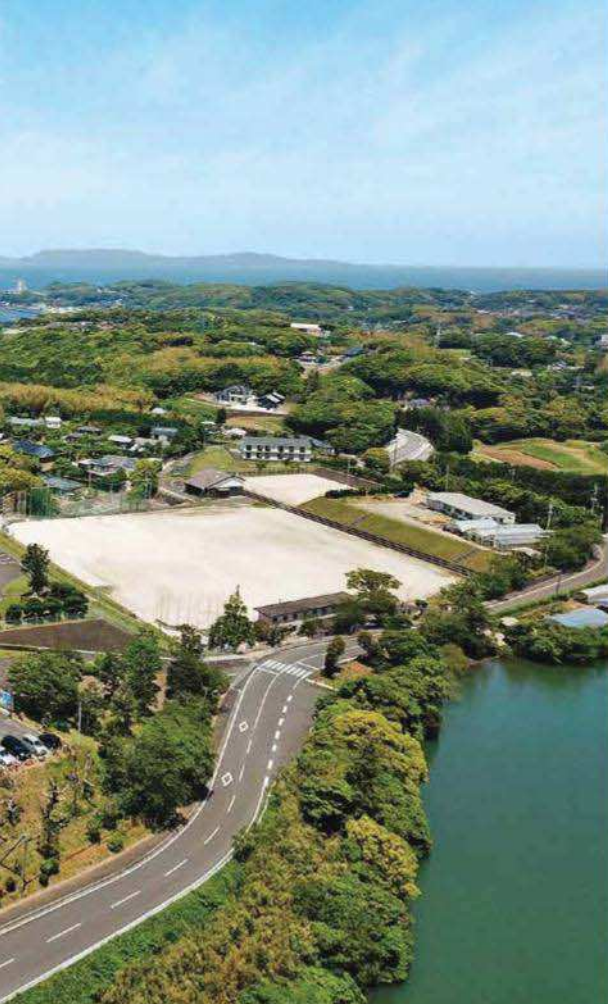
でした。近くの佐世保バラ会の御指導の
もと、初めはぎこちなかった作業も1時
間後にはどんどんこなせるようになってい
きました。4月下旬には、同じく田平町在住
の写真家・浜崎さわかさんからバラの写
真の撮り方を学びました。

生徒さんたちは学年末には平戸ミステ
リーローズ図鑑の作成を目標にしていま
す。大変な作業になると思いますが、生
徒たちがバラに向ける優しく真剣なまな
ざしを見ていると、きつと良い図鑑がで
きあがるだろうと期待を寄せています。

平戸市田平町は、平戸島対岸の九州本
土側にある町です。古くは、長崎県外海
（そとめ）地区から多くのキリスト教徒
が移り住んだ土地で、信徒が苦勞の未建
立した田平天主堂は現在国の重要文化財
に指定されています。北松農業高校は、
田平天主堂のすぐ近く、田園風景が広が
るのどかな環境の中にあり、約250名
の生徒が学んでいます。



田平天主堂



北松農業高等学校全景、奥に見える
赤い橋・平戸大橋を渡ると平戸島へ



今年は「紅の舞」が盛大に咲きました

左・右／紅の舞 HM01



春に行った芽接ぎ株と共に、平戸ミステリーローズに取り組む6名の生徒さんたち





毎日見ているとはいえ、実際に計ってみるとその成長に驚きです



春に接いだ芽の生長具合を観察しノートに記録しています

初めての芽接ぎは想像以上に上手くできました！



爪の先ほどだった芽がどんどん育ち、今や背丈ほどにまで伸びたものもあります。バラの生命力に皆驚くとともに、一層の興味が平戸ミステリーローズに感じているようです



上／芽接ぎの成功率は3割ぐらいでした。初めてなので上出来です
左／芽接ぎ後花が咲いた株もあります。平戸紅 HM05 が咲いた株

平戸ミステリーローズに寄せる思い

文／油屋 靖生

昨年、転勤で平戸に赴任し、大曲敦・淳子ご夫妻と出会いました。8年前に逝去した父のミステリーローズへの思いを初めて知り、運命的なものを感じつつ「平戸ミステリーローズの会」への協力を喜んで受けることになりました。

「平戸」は日本に現存する多様な欧州の歴史的遺産の宝庫です。北松農業高校では地域の伝統文化や産業に触れることにより、郷土を愛し、地域の発展に貢献しようとする意欲を育むことを教育目標の一つとしています。平戸が古くから世界と交流してきた奇跡として、平戸ミス

テリーローズを平戸の人々が受け継いできたことに、園芸文化としての価値があり、その保護活動に参加できることは、本校草花専攻の生徒たちにとっても願ってもない機会となりました。

生徒たちの活動内容は次のとおりです。「バラの生息・生態調査を行い、保存資料を作成すること」「バラにスタディーネームをつけること」「本校で3年間保護・増殖をすること」「3年後に保存園に移管すること」。この保護活動を通して高校生活が充実したものになり、将来、平戸でミステリーローズを継承してくれることを期待しています。

油屋 靖生（あぶらややすお）



2017年より長崎県立北松（ほくしょう）農業高等学校教頭 油屋吉之助氏の次男。暖かい長崎でも育つラベンダーを研究開発。作出された優良株は農林水産省により品種登録され、「2008-2009 ジャパンフラワーセレクション」を受賞。



芽接ぎ株に咲いた唐衣 HM13



芽接ぎ株に咲いた絹香 HM09



旧武家屋敷に咲く唐衣 HM13



浜崎 さわこ（はまさきさわこ）

長崎県生まれ。日本写真家協会（JPS）会員。'89年初個展「花に旅して」を開催して以来、ネイチャーフォトを軸に作品を発表。近年では写真展「Rose」が注目された。



平戸の旧武家屋敷に庭にて



同じく旧武家屋敷の庭で光をコントロールする方法を学んでいます

プロの写真家に初めて会いました
田平町在住の写真家・浜崎さわこさんからバラの写真の撮り方を学んでいます。カメラに付いている様々な機能の使い方、強い光をパラソルで調整する方法、邪魔な枝の整理の仕方など、すぐ使えるプロのテクニックに生徒さんたちは吸い込まれるように聴き入っていました。



雨の中に咲く五島列島北端の宇久島からやって来たバラ（たびら昆虫自然園にて）



説明をする泊さん（左）。お父様からこのバラを大切にと言われたそうです

昆虫園での校外学習

農業高校近くにある「たびら昆虫自然園」での校外学習。園内には、五島列島北端の宇久島より田平町の泊（とまり）家に移植されたミステリーローズの挿し木株が育っています。

同園の解説員として92歳の高齢ながら元気に勤めておられる元小学校教諭の泊さんが、バラの由来の説明をしてくださいました。あいにくの雨でしたが生徒さんたちは熱心にお話を伺いました。

油屋吉之助氏について



平戸市出身の園芸家。1927～2010
長崎県総合農林試験場（現・長崎県農林技術開発センター）蔬菜・花卉部長 平戸ツツジ・雲仙山系ミヤマキリシマの研究 諫早市樹木医

平戸市生まれ。幼少期を平戸で過ごした中で、ピンクや紅色に咲く昔からあるバラが気になっておられたようです。成人して園芸の道に入りましたが、忙しいお仕事の中でバラを思い起こす暇はなく、再び平戸に古くからあるバラに思いを寄せたのは、退職後のことでした。

平戸には平戸ツツジが植わる古い庭がいくつも残っています。庭の所有者が油屋氏をお招きして平戸ツツジの手入れ法を学び始めたのは15年ほど前。その時すでにご病気が進んでいたにもかかわらず、大変な熱意で何度もお住いの諫早市から平戸に通いご指導くださいました。その折に、平戸に残る古いバラを調べてみては、と提言されたのです。

一方、油屋氏は、主治医でもありバラに造詣の深い満岡剛太郎氏に相談され、満岡氏を通してバラの研究者・御巫由紀先生へと繋がっていきました。

平戸ミステリーローズの会

酒造メーカーの蔵裏に流れる川を美しく飾りたい。そのような思いでミステリーローズを植え始めています。まだ始まったばかりですが、平戸ミステリーローズは強健で手入れをしやすく1年中咲くタイプが多いことから、きつと平戸の美しい景観と成るだろうと期待をしています。



撮影者を含め8名で活動をしています



上／平戸ミステリーローズの会。酒蔵裏での作業風景 左／旧武家屋敷をアーチのように飾るバラ（撮影：浜崎さわか ※本誌71号表紙より）

「HM15のバラに「薄香」というスタディーネームが付きました」

HM15という武家屋敷に咲く赤いバラに「薄香（うすか）」というスタディーネームが付きました。薄香はこのバラがある地域の名で、平戸藩第9代藩主・松浦清公（号は静山1760～1841）によって記された随筆集「甲子夜話」にもその名の由来が見られます。

「梅の香が薄く香る地」という優美な名が、武家屋敷の格調ある佇まいと重なって、このバラの原点を末長く伝えてくれることを願っています。





「絹香」 HM09



HM12

「絹香」 HM09

平戸の旧武家屋敷の庭に咲くバラです。大人が両手を広げるほどの大きな株に育っていて、毎年沢山の花を咲かせます。絹のような淡いクリーム色に微かなピンク。花首が弱く下向きに花を咲かせる風情もいとおしく感じられるバラです。

まだ名前が無いバラ HM12

「絹香」と同じ庭に植わっているクリーム色とオレンジがかったピンクのバラです。芯がやや乱れるのが特徴。1年中咲きますが、特に冬の花が蠟細工のように美しい。

「きのこの写真家 大作晃一さんがバラを撮ると」

写真／おおさくこういち 大作晃一
文／みかなぎ ゆき 御巫由紀

「God is in the detail. (神は細部に宿る)」という言葉があります。フランク・ロイド・ライト (アメリカ 1867～1959) やル・コルビュジエ (フランス 1887～1965) と並ぶ近代建築の三大巨匠、ミース・ファン・デル・ローエ (ドイツ 1886～1969) が好んだ言葉で、「美しい建築作品を完成するには、細部をおろそかにしてはならない」というような意味で用いられるのが普通です。

でも植物の花や実をルーペで拡大して見ると、細部の造形のあまりの美しさにふと、この言葉を出してしまいます。バラの花に顔を寄せて香りを楽しむことはあっても、めしべやおしべ、花弁の質感、枝の腺毛や葉の鋸歯の鋭さなどをじつと

見つめることは、そう多くはないかもしれませんが、ふだんなかなか目に入らない自然の細部の美しさを、深度合成という技法で切り取って見せてくれる写真家、大作晃一さんの作品をご紹介します。

大作さんはきのこの写真家として有名ですが、ここ数年はきのこのだけでなく、シダや花の咲く植物、貝殻などに撮影の幅を広げています。深度合成によって、写真の隅々まで焦点があつた、人間の目では絶対に見ることのできない世界が生まれます。創意工夫に満ちて他の追従を許さない、とびきりの技術で撮影されたバラは、息がとまるほどの美しさ。思わず「God is in the detail.」とつぶやきたくなります。



佐倉草ぶえの丘バラ園にて撮影中



タマゴタケ *Amanita caesareoides* / 苔むした森の中で、真っ赤なタマゴタケはよく目立ちます。夏から秋に採れる人気の食用きのこですが、よく似た毒きのこ、ペニテングタケには要注意。「きのこを記録するときは必ず、味とにおいを調べることになっているんです。きのこことバラの共通点はおいを嗅ぐことですよ」と大作さんに教わりました。



ナニワイバラ *Rosa laevigata*

春、バラのシーズン最初に咲くのがナニワイバラです。中国南西部の野生バラですが日本でも古くから栽培されていて、江戸時代の書物には「金罌子」など、実を薬用に用いる場合の名称とともに記されています。

バラ属植物の分類では、めしべや萼筒(がくとう)内部などの構造が重要な手がかりになります。細心の注意を払って精密に撮影された大作さんの写真は、ルーペで実物を見るよりはっきり特徴を見せてくれていて、美しいだけでなく学術的にも貴重です。

花

野生のバラの花弁は、ふつう5枚です。園芸品種のバラでは半八重咲き(5~10数枚)や、八重咲き(約20枚以上)が多くなっています。

おしべが花弁に変化することで、花弁の数は増えていきます。それにともなって生殖能力は低下し、タネを作る力が減りますが、もともと園芸品種はタネを播いても親と同じ花は咲きません。売られている苗はすべて、接ぎ木や挿し木で殖やされたもの。園芸品種のバラの花は、人の目を楽しませるためだけに咲いています。



タカネバラ
Rosa nipponensis

高山に咲く野生のバラで、日本の固有種です。至仏山、富士山、四国の東赤石山などで見ることができます。



‘レダ(Léda)’

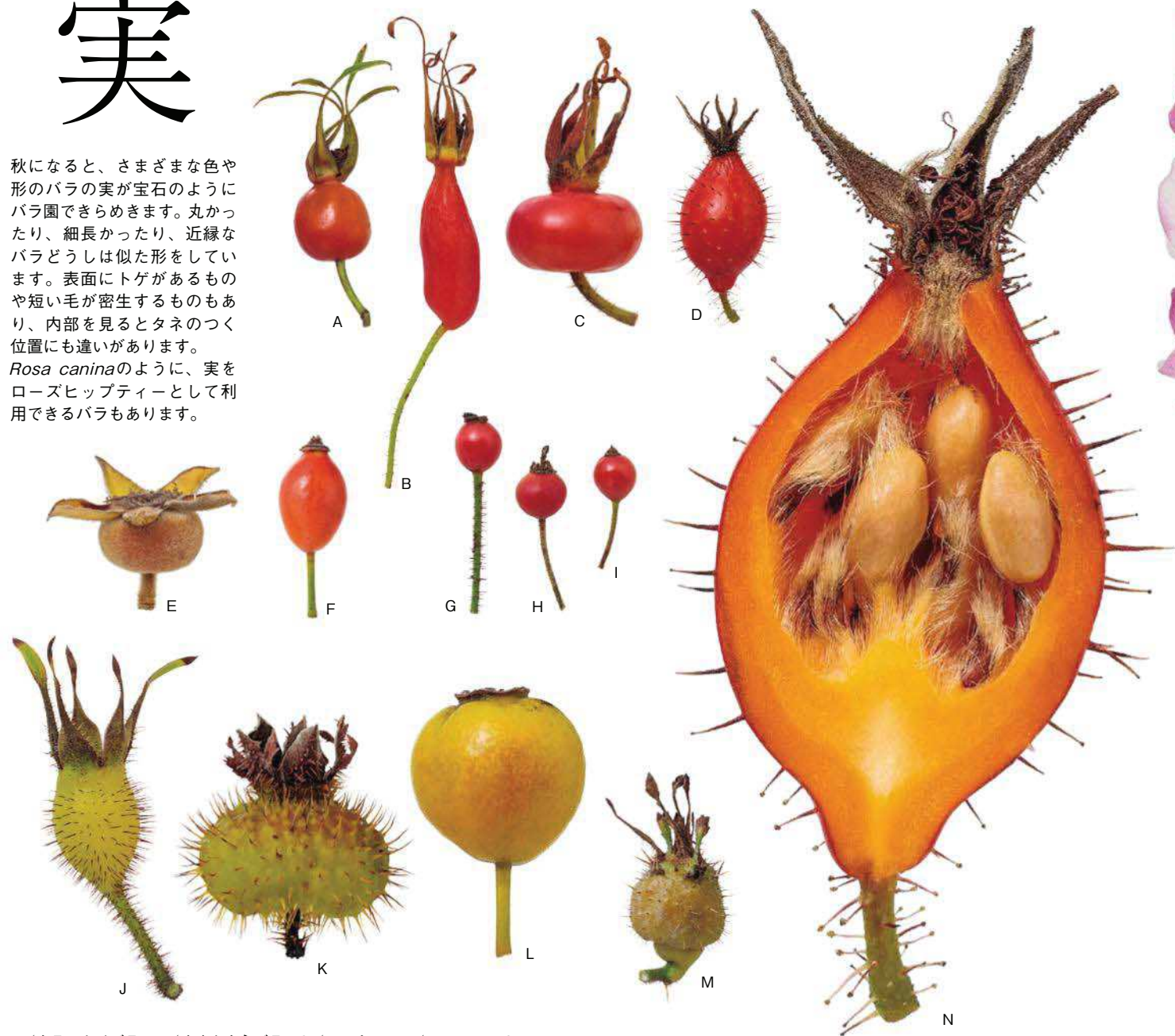
1827年以前からイギリスで栽培されていたバラです。白い花弁に赤い縁取りがあるのがチャームポイント。花を上から覗き込むと、たくさんの小さな花弁がめしべをぎゅっと取り囲んでいます。ボタンアイと呼ばれる、オールドローズの魅力のひとつです。



実

秋になると、さまざまな色や形のバラの実が宝石のようにバラ園できらめきます。丸かったり、細長かったり、近縁なバラどうしは似た形をしています。表面にトゲがあるものや短い毛が密生するものもあり、内部を見るとタネのつく位置にも違いがあります。

*Rosa canina*のように、実をローズヒップティーとして利用できるバラもあります。



A/カラフトイバラ B/オオタカネバラ C/ハマナス D/*Rosa pomifera*
E/カヤンバラ F/*Rosa canina* G/ツクシイバラ H/ヤマイバラ
I/ノイバラ J/ナニワイバラ K/サンショウバラ L/*Rosa gigantea*
M/*Rosa stellata mirifica* N/*Rosa pomifera*

撮影協力

佐倉草ぶえの丘バラ園
国営越後丘陵公園
浜寺公園ばら庭園
木村卓功
山崎淳子



「魅惑のオールドローズ図鑑」

世界文化社 2018年3月10日発売

柔らかな輪郭と色彩を持つ伝統のバラ「オールドローズ」100種類を、ボタニカルアートのように美しく撮影し、それぞれのバラの由来や魅力を伝える物語を添えたオールドローズ図鑑です。

大作晃一さんの最近の書籍

『小学館の図鑑 NEO花』 小学館 2014年6月18日発売

『くらべてわかるきのこ 原寸大』 山と溪谷社 2015年9月11日

『おいしいきのこ毒きのこハンディ図鑑』 主婦の友社 2016年7月23日

『小学館の図鑑 NEOきのこ』 小学館 2017年11月27日改訂版

『美しい小さな雑草の花図鑑』 山と溪谷社 2018年2月2日

『魅惑のオールドローズ図鑑』 世界文化社 2018年3月11日

『野ばらハンドブック』 文一総合出版 発売日未定

ガーデンツーリズムを楽しむ

マイガーデン・ナラフツーリズム花めぐり
旅行企画実施／クラブツーリズム株式会社

Vol. 8 福島編

クラブツーリズム
「花めぐり」

マイガーデン

のどかで豊かな

日本の農風景を楽しむ旅

～福島県～

古くから国内有数の農業県である福島県。

その風景には、私たち日本人の心の琴線に触れる

農と人との営みがあります。

植物と人との寄り添いながら暮らす

究極のオープンガーデンである農風景を探しに

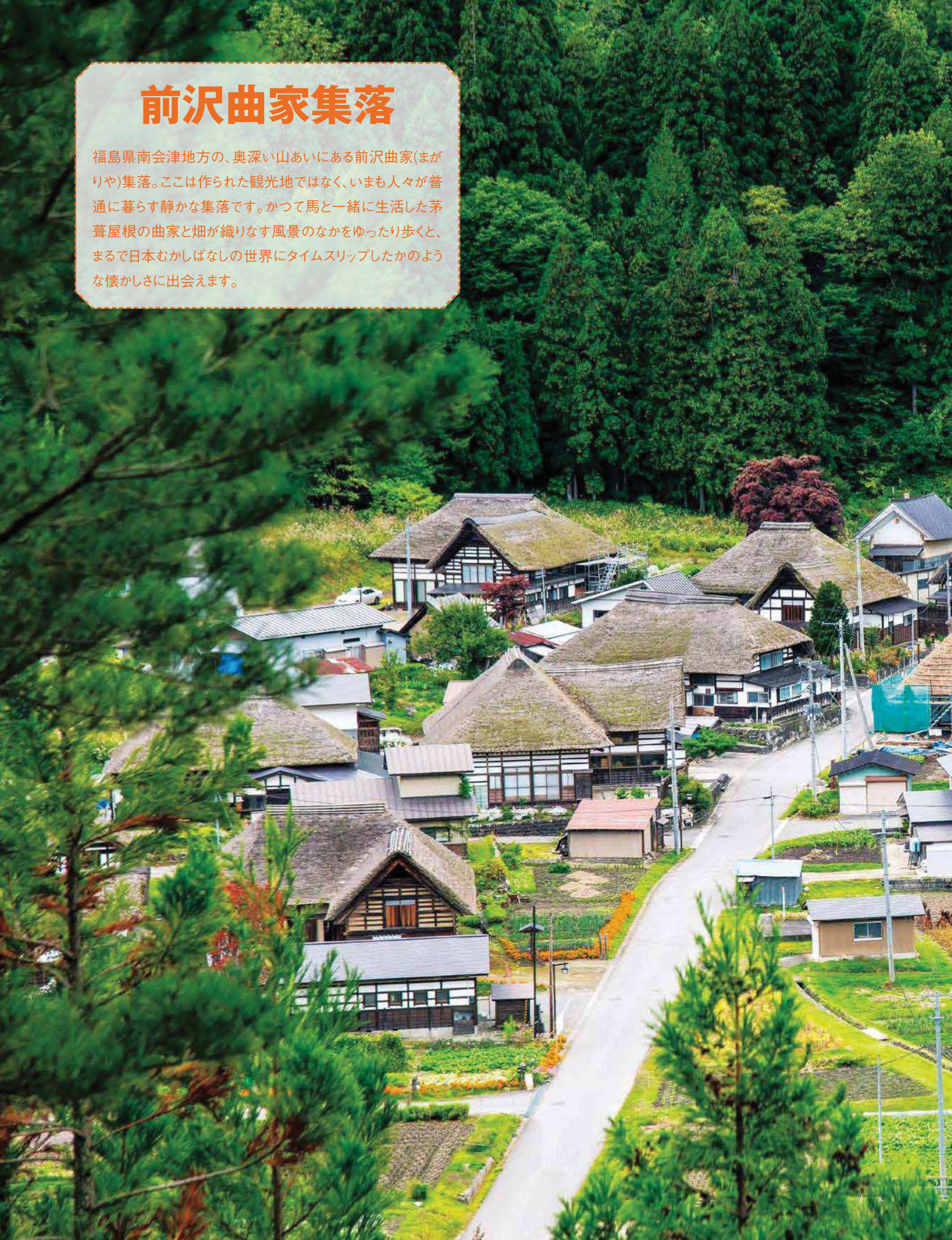
福島を巡る旅へ出かけましょう。

文・構成Ⅱ阿部民子 写真Ⅱ牛尾幹太 取材日Ⅱ2017年10月5日～8日

協力Ⅱ前沢景観保存会、佐藤梨園、執行邸

前沢曲家集落

福島県南会津地方の、奥深い山あいにある前沢曲家(まがりや)集落。ここは作られた観光地ではなく、いまでも人々が普通に暮らす静かな集落です。かつて馬と一緒に生活した茅葺屋根の曲家と畑が織りなす風景のなかをゆったり歩くと、まるで日本むかしばなしの世界にタイムスリップしたかのような懐かしさに出会えます。





家族同様の
おんまさんと一緒の住まい。
農作業のときも、雪深い冬も
共に過ごして助け合い、
ひとつ屋根の下で暮らしてきた。



冬の雪に耐え

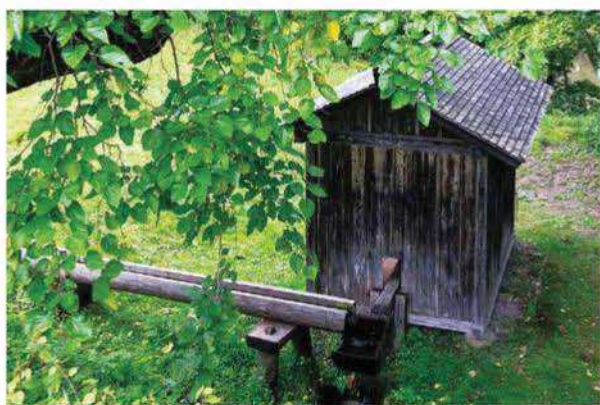
夏には涼しさをもたらし

雨音を防ぐ茅葺屋根。

昔は、自分の畑で育てた萱を使い

百年以上もの間、守り続けてきた。





【上】切妻と呼ばれる形の茅葺屋根の曲家。【左】木造の小さな小屋はバツタリ小屋と呼ばれ、集落内を流れる水をししおどしのように貯め、いっぱいになったときの反動で杵を動かし、粟やひえ、玄米をついていた。小屋の名前の由来ともなった杵の音は、うつくしまの音30選にも選ばれている。

集落の風景の
あちこちに
昔の暮らしが
息づいて



集落のシンボルツリーともなっている、3本の桑の大木。(写真=前沢景観保存会)



どの家の庭先にも季節の花が植えられ、集落全体の美しい景観をつくっている。

日本の農風景の原点が残る のどかでおだやかな 曲家集落

南会津の山あいを通り抜けてたどりつく^{なたいわ}館岩地域。尾瀬と那須連山を結ぶ帝釈山脈系にある、標高670mの緩やかな斜面に位置しているのが、前沢曲家集落です。重要伝統的建造物群保存地区に選定されたこの集落は、もともとは中世会津武士の祖ゆかりの、誇り高い落人集落でした。

その歴史は、文禄年間（1592～1595）に遡ります。横田城主・山内氏勝（只見川流域を拝領した、幕府・鎌倉山の主）の家人、小勝入道沢西が、主家が滅んだ際に移り住んだのが始まりとか。集落の前に沢（川）が流れていたことが、地名の由来とされています。

静かな集落は、明治40（1907）年、全戸が焼失する大火に見舞われます。その後、すべての家が一齐に同じ構法で再建されたことから統一感のある集落ができ、築110年以上たつたいまもそのままでの姿で残されています。

前沢曲家集落の家屋の特徴は、曲家と呼ばれる建築形式で建てられていることです。家の中に農耕用の馬が暮らす厩があり、家族と馬が同じ空間で、まさに家族のように暮らしていました。

「おんま（お馬）さんはいまのトラクターの代わりで、おんまさんがいないと農作業ができなかったんです。しかもここは雪深いんで、同じうちに住まないと、世話するほうもされるほうも大変なんです。それで、昭和30年頃までは、ずっと母屋と厩が一緒のうだったんです。いまはおんまさんと一緒に住んでいる家はなくて、みんな中を改造して暮らしています」と教えてくれたのは、集落の世話役を務める小勝周一さん。現在、集落には19戸の家が残（1戸は空家）、どれも普通の民家として実際に使われています。

前沢曲家集落には、国道352号線から、イワナやヤマメが棲むエメラルド色の館岩川を渡って入ります。最初に現れるのが、バツタリ小屋と呼ばれる木造りの小屋です。

集落の中には山からの湧水が生活用水として流れており、集落内には7つの水場があつて炊事洗濯や薬仕事など、日常生活に使われているほか、各戸には水道水のほかに、湧水の蛇口もあるのだとか。バツタリ小屋はそうした水の力を利用して精米などをした小屋で、その名は玄米を打つ杵の音から名付けられたといいます。

以前盛んだった養蚕の名残である大きな3本の桑の木を見ながら進むと、集落のメインストリートにぶつかります。典型的な曲家を移築保存している資料館や、お杉と呼ばれていた推定樹齢800年の杉を祀った大杉跡などを眺めながらゆるやかな坂を上ると、小さな薬師堂。眼病への御利益があると言われ、4月8日のお祭りでは、集落総出でいわなの塩焼きやうるち米の団子、甘酒などがふるまわれます。さらにその先、杉林の中の山道を上ると、集落を一望できる巖島神社に辿り着きます。

「この集落の中の家は、どこも普通の民家で、店も畑の野菜などを売る無人販売所が数件あるだけ。作られた観光地ではないので、来られた方は静かでいいと言ってくれます。私が子供の頃はちょうどベビーブームで、集落だけで同級生が100人もいましたが、いま入学する子供は年に3、4人。住民も、いまは36人ですが、住民票だけの人もいるので、もっと少ないですね」と小勝さん。茅葺屋根と庭先に植えられた花、家々と小さな畑の中を縫って続く道と山からひいた清らかな水路…どこを切り取っても、まるでタイムスリップしたようにのどかで懐かしい日本の農風景に、心がほっと安らぎます。



【左】集落の世話役を務めている小勝周一さん。小勝家4代目として、伝統的曲家に暮らしている。



【右】典型的な曲家を移築した資料館内部。母屋に通じる土間通路に面して厩があり、生活しながら、いつでも馬の様子を見られた。



【上】昔の暮らしを再現した、曲家資料館の内部。下縁(したえん)と呼ばれる部屋は、炊事や食事など日常生活の主空間。【下右】煮炊きをし、暖を取る囲炉裏は、大家族が食事や夜なべをするなど、家族団らんの中心でもあった。【下中】栗おこわに瓜の浅漬け、茗荷の甘酢漬け。どれも集落で採れたもの。【下左】囲炉裏の上には、藁づとに焼いた川魚を挿して保存食に。昔は、出汁用に産卵前のはやがよく使われた。



【右】エツさんが作ったミニわら草履と、一輪挿しとしても人気の麦の茎で作った虫かご。【左上】集落に自生しているオトギリソウを陰干しして焼酎に漬けこんだ手作りの痛み止め。ハチや蚊に刺されたときのほか、打ち身にも愛用しているそう。【左下】山で採れるヒロコという野草を乾燥させて編んだミニかご。昔は大きな背負いかごを作って弁当などを入れ、山仕事に出かけたという。



小勝エツさん

**おんまと一緒に暮らしを知る
集落の生き字引、小勝エツさん**

今年86歳になる小勝エツさんは、集落の生き字引。昭和38年に前沢に嫁いだとき、集落には馬を飼っている家が2軒あったそう。

「実家は湯の花温泉の近くだったけど、父親がおんま大好きで、仔もとってた。赤ちゃんはめんけえもんだったよ。おれも子どもときから、おんま引いて畑仕事したもんだ」。いまでも朝は集落の新聞配達をして、カラス対策のラジオをかけながら畑仕事。集落のお土産品として人気のワラ小物作りなどにもいそしんでいます。

前沢曲家集落の四季

写真Ⅱ 前沢景観保存会

夏・アヤメ



標高670mの緩やかな斜面に位置する前沢曲家集落は、四季の移ろいも鮮やかです。

春には、長い冬を越して花々が斉に咲き、雪解け水の水車の音がのどかに響きます。夏には集落内にある前沢ふるさと公園のアヤメ、シャクヤクが見頃に。水車やバッテリー小屋が並ぶ小川には、蜩も飛び交います。

秋は真っ白なソバの花と周りの山々の紅葉、冬は一面の雪景色に覆われて、日本の原風景のような四季の美しさが堪能できます。

秋・そばの花





晩秋の里風景



冬の里風景



前沢集落について

前沢集落は、平成23年6月に「南会津町前沢」として国の重要伝統的建造物保存地区に選定されました。集落内には、中門造り(曲家)13棟を含む伝統的な家屋が19棟あります。曲家の玄関部分、中門にはかつて農耕馬が飼われており、家族同様に大切にされてきました。前沢集落は、現在も人々の暮らしが息づいており、本物の日本の原風景を今に残しています。

〔前沢集落散策マップ〕



1.へや(部屋)／開口部が少なく閉鎖的で、世帯主夫婦の寝室や出産にも用いられました。2.ざしき(座敷)／床の間、仏壇があり格式の高い部屋です。儀式や行事、大切なお客様に用いられました。3.ちゅうもん(中門)／下縁と上縁をつなぐ位置にあり、以前は大家族などで寝室に使われていました。4.うわえん(上縁)／寄り合や結婚式、葬式に用いられてきました。5.したえん(下縁)／炊事(いろり)、食事、近所の人との対応など日常生活の中心でした。6.ごえん／床は畳が敷かれ表側の一間に「ごえん」と呼ばれる床板がありました。7.どま(土間)／昔は農作業空間であったうえ、便所、馬屋、風呂桶がありました。8.すいじばながし(炊事場流し)／下縁の右側に炊事場が並び、古くは土間が回り込んでいて、ここに水屋(みんじゃ)、かまどが置かれていました。9.むかしのうまや(昔の馬屋)／曲がりの間口をほぼ2分した奥行きを持ち、間口は2間〜4間で1頭または2頭の馬を飼っていました。土間より少し掘り下げて、わらを敷いて肥をつくりました。

年間行事・イベント

4月上旬 … 案内所・資料館オープン
5月上旬 … 薬師まつり
8月 … イワナつかみどり
9月 … 田島祇園歌舞伎上演
10月下旬 … 前沢まつり
11月中旬 … 案内所・資料館クローズ

前沢曲屋集落お問合わせ先

■ 前沢景観保存会
〒967-0306福島県南会津郡南会津町前沢83
TEL/FAX.0241-78-2219(小勝週一)
■ 案内所・資料館
オープン期間／4月中旬〜11月中旬、入場料300円(一人)
■ アクセス
【鉄道の場合】東武鉄道「会津高原尾瀬口」より路線バスにて前沢向バス停下車(約37分)。【車の場合】東北自動車道「西那須野塩原IC」もしくは「新白河IC」から90分



佐藤梨園

～薔薇と梨園～

バラ好きの奥様のために、梨園の一角で始めた小さなローズガーデン。20年たったいま、バラの品種は650を超え、ダリアやナチュラルな宿根草までが咲き誇る、見事なローズガーデンになりました。特に、たわわに実った梨と秋バラとの饗宴は、ここで見られない光景。豊かな農風景に心打たれます。



バラと梨



整然とした美しさを感じる梨畑。剪定は吉則さん、枝縛りはとも子さんの担当で、12月から3月まで続く。



「バラがあると作業も楽しい!」と、バラ友達が梨作業もお手伝い。



梨畑を取り囲むようにバラが植えられた歩道。



あぜ道に花を植えるように 梨畑にバラを植えるー 楽しむ農業の姿がここに

整然と剪定・整枝された枝からたわわに実る黄金の梨。その畑を縁取るように咲き誇る、色とりどりのバラー佐藤梨園を訪れた人は、いままで見たことのないような、梨とバラとの饗宴に心を奪われます。

福島市で梨園を営んで5代目になる佐藤吉則さんが、梨園の一角にバラを植えるはじめたのは、いまから約20年前。バラ好きの奥様のために、と1本ずつ手植えをしていたのが徐々に増え、いまでは約3000㎡以上のローズガーデンに650種以上のバラや100種以上のクレマチス、数え

きれないほどの宿根草が咲き誇るほどになりました。最初は知人だけに公開していた「秘密の花園」も、口コミで少しずつお客様が来るようになり、いまではピーク時には1日3000人以上の人が訪れるほどに。

「梨とバラは、消毒も施肥も同時にできるから効率がいいんです。作業してても、バラがあると楽しいしね。面白くなってどんどん植えていったら、こんな規模になっちゃって(笑)。でもバラを始めたおかげで、梨園だけではできない友人が全国にできて、夫婦でそうした人やガーデンを訪ねるのが楽しみです」と吉則さん。奥様のとも子さんも「バラを通じてできた花友達が、ガーデンと梨の作業も手伝ってくれてるんです。自分の庭で育った花を持って来てくれたり、梨作業の間に草むしりしてくれたり…家族みたいな付き合いで、助けられています」。

ガーデンにさらなる花を添えるのが、とも子さんが描い



「バラを育てたおかげで、いろんな人とつながりができたのがうれしい。『My GARDEN』から送っていただいた種も花を咲かせています」と佐藤さんご夫妻。

た手作りのボードです。「花がない時期も楽しんでもらえればと思って」と花や鳥、妖精などのかわいらしいボードが、ガーデンを華やかに彩ります。

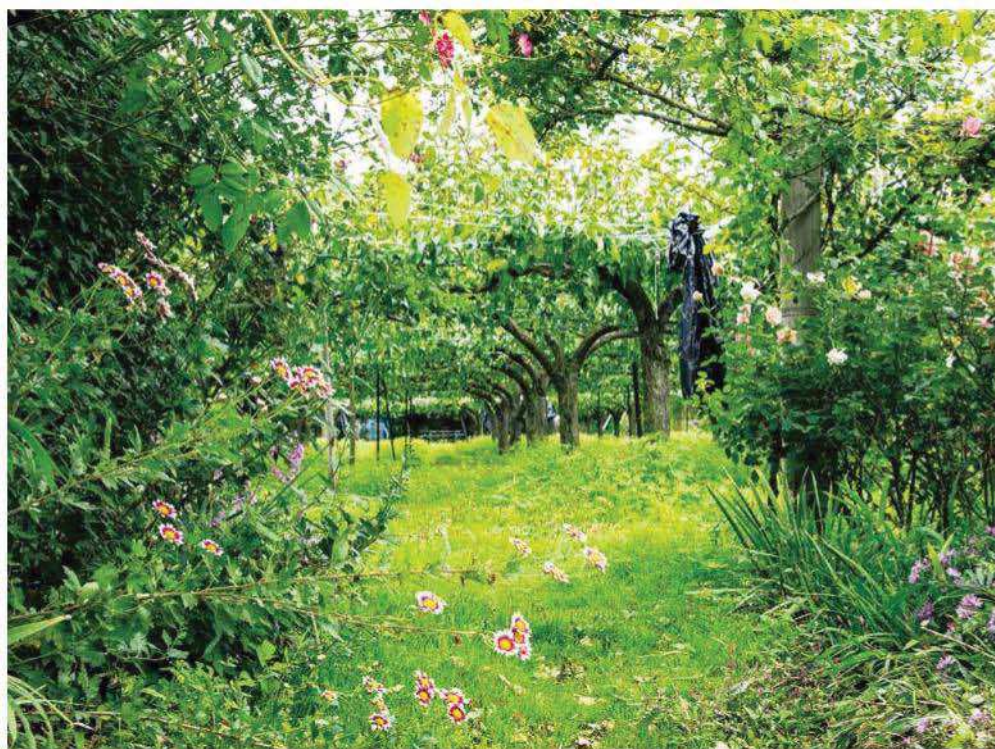
「震災のあった年、海岸に近い浪江町あたりから避難して、人が『バラを見ると癒される』って、たくさん見に来ていたんです。ここで再会したり、友達になったという話を聞いて、とてもうれしかった。被災した双葉ばら園のガーデンも、ここでまた復活させようと専属ガーデンナーの高橋さんが頑張ってくれています」。

吉則さんの意志で無償開放されているのも、このバラ園ならではの。近所の人が毎朝散歩に來たり、苗を持ってきてくれる人がいたり、多くの人の憩いの場になっています。「私達は毎日見ている光景だけど、喜んでもらえればうれしい」とご夫妻。お二人の温かな心を感じる、手作り感あふれるガーデンです。



梨とバラ、とも子さんの描いたボードが楽しめる佐藤梨園のローズガーデン。動物や童話のストーリーなど、見て歩くだけでも楽しい。

豊かな実りの梨畑と美しいバラ 歩くだけで心満たされて



【上】「絵は全て自己流。最初はバラばかり描いていたから、主人に違うものを描いたらと勧められて」ととも子さん。【下】幸水から始まり、豊水、あきづき、南水、新高、と梨の収穫は8月から10月まで続く。【左】春には数えきれないほどの宿根草も咲く。

いままでバラバラに咲いていたダリアを、今年1か所に集めて作ったダリアガーデン。梨とバラ、ダリアが同時に見られるのも、秋のガーデンならではの醍醐味。

築団地の中間から、約10年前に完成した団地の一角が、春の青い空と緑の葉のコントラストの中で、地下水で自然から採取した水と、排水、加水を2〜3週間繰り返して、自然乾燥させて乾燥させている。

佐藤梨園の花の景

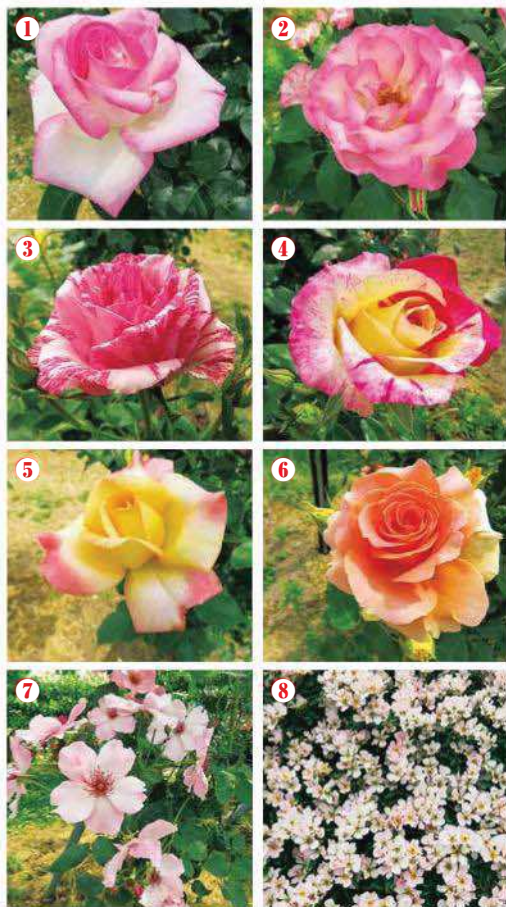
東日本大震災で避難した方の見学が増えたことをきっかけに、ローズガーデンの手伝いを始めた高橋正さん。いまでは専属ガーデナーとして、つるバラの剪定・誘引や構造物の製作まで、ローズガーデンになくてはならない存在になっています。庭仕事の傍らカメラを構え、年間で3000枚以上の写真を撮影。その中から、春に咲く純白の梨の花や、満開の春のローズガーデンの様子など、選りすぐりの作品を紹介していただきました。【撮影：高橋正】



(写真＝編集部)



佐藤梨園の花カタログ



- ① プリンセス・ドウ・モナコ
- ② ストロベリー・アイス
- ③ ピンク・インテュエーション
- ④ カミュー・ピサロ
- ⑤ ダイアナ・プリンセス・オブ・ウェールズ
- ⑥ プラスバンド ⑦ デンティベス
- ⑧ のぞみ ⑨ イエスタディ



佐藤梨園 見ごろ／5月下旬～6月中旬、8月下旬～10月下旬

■ ナチュラルガーデン

ハート仕立、アーチ、スタンダード仕立、行灯仕立、フェンス仕立、立木仕立バラ、宿根草、ダリア

■ こごみの里

桜、桃、つつじ、雑木、野草(こごみ)、草花

■ 自宅周囲(ウェルカムガーデン)

フェンス仕立、アーチ仕立バラ、宿根草

■ サークルガーデン

アーチ、スタンダード、行灯、立木、ウィーピング仕立、ガーランド仕立バラ、宿根草

■ ローズロード

12連アーチ、フェンス、立木仕立バラ、宿根草、雑木

■ フレンチガーデン

フレンチローズ、フェンス仕立、スタンダード仕立、野バラのウィーピング仕立、宿根草

■ バラ園

アーチ仕立、フェンス仕立、立木バラ

■ ダリア園

各種ダリア、宿根草、野バラのウィーピング仕立、スタンダード仕立、立木バラ

■ 梨園

幸水・豊水・あきづき・南水・新高・新興などを栽培(8月下旬から11月上旬)



【住所】福島県福島市下野寺字新田北7

【TEL・FAX】024-591-1661【携帯】090-9038-4991

【ホームページ】URL:baraen.jp/

または「佐藤梨園ローズガーデン」で検索



オープンガーデン ～執行邸～

40年間暮らした関東を離れ、生まれ故郷の福島に新たな家と庭を作った執行さん。雪深い地に再現したのは、長年親しんだ武蔵野の雑木林でした。庭のあちこちには、夫婦で一緒に出かけた海外の風景も散りばめて。人生を共に歩む夫婦の思い出がいっぱい詰まったガーデンです。



夫婦共同作業での庭作り。 庭を通して新しい友人ができ、 夫婦共通の楽しみも増えました。

執行さんご夫婦が、奥様秋子さんの生まれ故郷である福島に戻ってきたのはいまから約10年前のことでした。

「新しい家を作るにあたり、長年暮らした武蔵野の雑木林のような庭にしたいくて、まずは木をたくさん植えまし

た」と秋子さん。季節になるとバラで囲まれる洋風の外観から庭に入ると一転、シックな緑あふれる空間が広がります。4本あるアオハダやヨーロッパナ、銅葉のパープレアなど、1本1本に思い入れがある木立の中の小道を歩くと、まるで雑木林の中を散策しているような気分が味わえます。

お庭のもうひとつのモチーフとなっているのが、お二人で巡った旅先の風景です。たとえばリビング前に広がるウッドデッキ。パリの裏通りで目にとまったレストランのテーブルセットが印象的で、帰国してすぐに同じパープルにペイントをしたとか。ほかに、カナダのレイクルーズで見かけた花馬車を再現し、ヨーロッパの街でアクセントになっていたブナを植えるなど、お庭のそ



執行さんご夫妻

ここに二人の楽しい思い出が散りばめられています。お庭作りも、仲良く共同作業で。デザインと植栽、ペイントは秋子さん、パーゴラやフェンスなど構造物の製作はご主人の担当。山の上という立地から、冬は雪が積もって西風も強く、霜柱が上がって植物が枯れる

ことも。急に寒くなるので冬支度にも早めにとりかかり、降雪前の12月にバラは短く剪定し、誘引も全て済ませるなどの苦労はありますが、その分春の美しさ、喜びは格別なのだと思います。

「40年ぶりに故郷に戻ってきたものの、主人には縁のない土地で知り合いがいなかったんです。でも、お庭が縁で自然と共通の友人ができて、いまは夫婦ぐるみでお付き合いする方も増えました。体調が悪いときや長年飼っていた愛犬が亡くなってペットロスになりそうだったときも、お庭に出ると次から次へとやるべきことがいっぱい、辛いことも忘れられた。本当にお庭をやっていると、夫婦でのお庭作りを楽しんでいます。」



木立の中を巡るレンガの小道を通して、庭をぐりと散策できるようにデザイン。



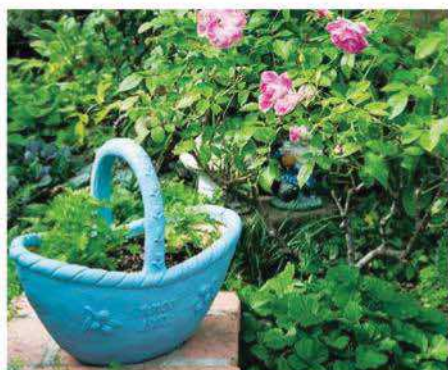
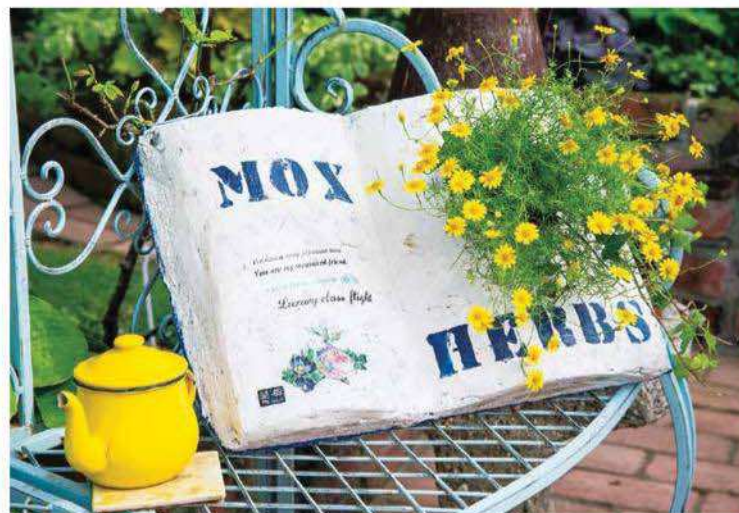
株立ちの樹木の間の小道を通して訪れる執行家のエントランス。



印象的なパープルのテーブルセットは、バリの裏通りのレストランをイメージしてペイントしたもの。(写真＝執行さん)



初夏の執行邸の庭。ブルーのデルフィニウムなどで華やかな中にも落ち着いた美しさが印象的。(写真＝執行さん)



お庭のテーマカラーは 緑に合うブルー

「ペンキ塗りが大好き。アンティーク風にするなど、塗り方もいろいろ工夫しています。仕上がったときの満足感が最高!」と秋子さん。テーブルや鉢のほか、ご主人が作ったフェンスなどの構造物も、南仏風のスモーキーなブルーでペイント。お庭全体の統一感を出すのにも成功しています。



額縁風（下段中）や花車（下段右）は、秋子さんのリクエストでご主人が作成。最近のブームは流木を使ったオブジェ作り（中段右）。

華やかな庭に憧れたこともあるけれど、
いまは雑木林のような心安らぐ庭が
心地よく感じます。

（執行さんご夫妻）



ガーデンツーリズムを楽しむ

マイガーデン+クラブツーリズム花めぐり
旅行企画実施/クラブツーリズム株式会社

Vol. 8 福島編

ガーデンツーリズムの魅力。マイガーデンコラボ企画を振りかえつて

〔文写真〕 船山純（花旅コーディネーター）

マイガーデンの読者の皆様は花好き、ガーデン好き。きっと何かしらの植物を育てていらっしゃるのではないのでしょうか？今は素晴らしいお庭をつくっていらっしゃる方もおそらく最初は、一輪の花が咲いた時「見て、見て！」と心が浮き立ちだれかに見せたいと思ったことでしょうか。

そして、バラや草花が好きで花の開花の便りが聞こえてくると、むずむず、わくわくしてきて、どんなに遠く辺鄙な場所にあるお庭でも探しあてて訪ねたくなるのではないのでしょうか。その「見て、見て！」と「見に行きたい！」気持ちでガーデンツーリズムの原点なのだと思います。全国各地、世界各国の美しいガーデンや花の自生地、丹精込めた個人のお庭を訪ねるガーデンめぐりのツアーや山野草ウォッチングのツアーを始めて20年が立ちました。

花には人を惹きつけ、呼び寄せる大きな力があります。そして花好きさんが集まればすぐに花友達になれますし、さらにお庭を訪問する方、お庭を公開して下さる方がSNSなどを通じてその輪は全国に広がっています。私自身、フェイスブックやインスタグラムで花友さんの世界を共有させていただいています。

花の季節ともなるとご自身のお庭のオープンと花友さんや全国の美しいガーデンを見にミツバチのように飛び歩き、これはもう誰にも止める事はできません。それまで、普通の住宅地であった場所がいつの間にか有名な人気の地域になっていたたり、一軒のお庭のきれいなお宅の影響で町全体が美しい街並みになっていき、人々が訪ね町が元気になる。それがガーデンツーリズムなのであり、2年間記事連動掲載して参りました企画です。

また、そういうお庭を訪ねてみたい花好きさんのお手伝いをしているのが、クラブツーリズムの「花めぐり」なのではないかと思っています。プロの造るガーデンではプロの技に見惚れ、個人の方のオープンガーデンではそれぞれの無限大の個性や工夫が参考になるようです。キラキラ目を輝かせてガーデンを見学するお客様と迎えて下さるお庭主の方との花談義や質問、さらには一緒に記念写真を撮ったりと楽しい時間を共有し、いつまでも私たちに手を振ってバスを見送ってくださいます。そのような光景を見られることがこの仕事の醍醐味でもあります。「楽しかった！」「嬉しかった！」というお声を聞いて、ホッとしながら帰路につきます。そんな皆様の生の声に次の道しるべがあり、それを頼りに進んできたような気がしています。

自然に咲く可憐な花々は文句なく美しい。人が手を加えた思いと物語のあるお庭では、つくった人に会う魅力がプラスされます。ガーデンは生きていてどんどん進化していきます。

同じ季節に訪ねても毎年違う姿を見てくださいし同じ場所が春・夏・秋と全く違う花風景となります。そんな美しく魅力あふれるガーデンツアーで皆様にお会いする事を楽しみにしております。



北海道上野ファームで上野砂由紀さんと。



愛知のプライベートガーデンめぐりで庭主さんと。

～ガーデンツーリズムを実践する福島在住のご夫婦～

高橋さんご夫妻お薦めの福島ガーデンスポットを巡る旅

今回のマイガーデンの記事は福島を特集しています。

その福島に私の提唱するガーデンツーリズムを正に実践しているご夫婦がいらっしゃいます。

プロの私でも季節ごとにここまで、旬のガーデンや花の名所を巡ることはなかなかできません。

今年のGWも福島から名古屋、大阪、鳥取、京都、和歌山、そして横浜へと花めぐり。

本当に驚くばかりです。今回の福島の旅はそんな高橋さん夫妻のお勧め力所を散りばめた旅です。(船山 純)

【写真＝高橋さんご夫妻】



高橋広明さん、知加子さん

関西出身の私たちが福島に来て12年になります。
自宅の庭を楽しむだけでなく、素敵なガーデンやお店
を見つけては計画を立て、たとえ数百キロ離れていても車を走らせます。福島は「花の王国」とも言われる
ほど、お花の見どころが豊富にあります。また温泉も
沢山あり素晴らしい所です。



ローズガーデン(佐藤梨園)。



【上】佐藤梨園に咲くバラと【下】ダリア園。

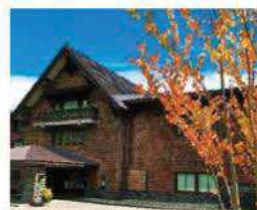
クラブツーリズム×マイガーデンコラボ企画

～秋の風を感じて自然豊かな福島へ～
裏磐梯高原ホテルからの眺望とランチ
花の王国福島の秋バラとダリアを楽しむ旅

■コース番号／02761-686 ■出発日／10月5日(金)※1泊2日

■旅行代金／おひとり(2名1室)49,800円 ※1名1室4,000円増し

■添乗員同行 ■最少催行人員15名 ■1名様より受付 ■相部屋可能 ■バス会社／郡山中央交通同等



裏磐梯高原ホテル



裏磐梯高原ホテル

1 東京(7:30～8:00発)■上野(新幹線)■郡山■*もりのかぜ・ラボ(里山風景の中の古民家のショップ)＝*裏磐梯高原ホテル(高原の美しい
風景とランチ)＝*五色沼自然研究路(湖沼群を散歩)＝裏磐梯レイクリゾート(泊)

☐昼夕

2 裏磐梯＝*浄土平(約30分の木道散歩)＝*佐藤梨園(秋バラとダリア見学、梨のお買い物)＝福島競馬場(癒しのローズガーデン)＝
福島(新幹線)■大宮■上野■東京(18:30～19:40着)

朝昼☐

*印は高橋さんご夫妻お薦め。 2日目の福島競馬場(癒しのローズガーデン)はマイガーデンNo.86 P.114にて紹介しています。

《行程内のマークの見方》 ■JR、●バス、…徒歩、朝食、昼食、夕食、弁当、食事なし



【資料請求・お申込み・お問合せ】

旅行企画・実施／クラブツーリズム株式会社 テーマ旅行センター

Tel.03-5323-5590(月～土 9:15～17:30 ※日曜・祝日は休業)

〒160-8308 東京都新宿区西新宿6-3-1 新宿アイランドウイング4F(総合旅行業務取扱管理者:中村朋広)

官公庁長官登録旅行業務第1693号一般社団法人 日本旅行業協会正会員 旅行業公正取引協議会会員 管理番号:80818

クラブツーリズム 花めぐり



※ 旅行条件・ご案内資料をご用意しておりますので、事前にご確認のうえ、お申込みください。詳しいパンフレットをご請求ください。

※ 同行講師・現地ガイド・添乗員は、急な体調不良やその他の理由により同行できなくなる場合がございます。予めご了承ください。※ 写真はすべてイメージです。

赤城自然園

森の妖精 レンゲシヨウマと
深き緑に抱かれる、夏

構成・文／編集部

話／国兼貴行（赤城自然園 運営管理責任者）

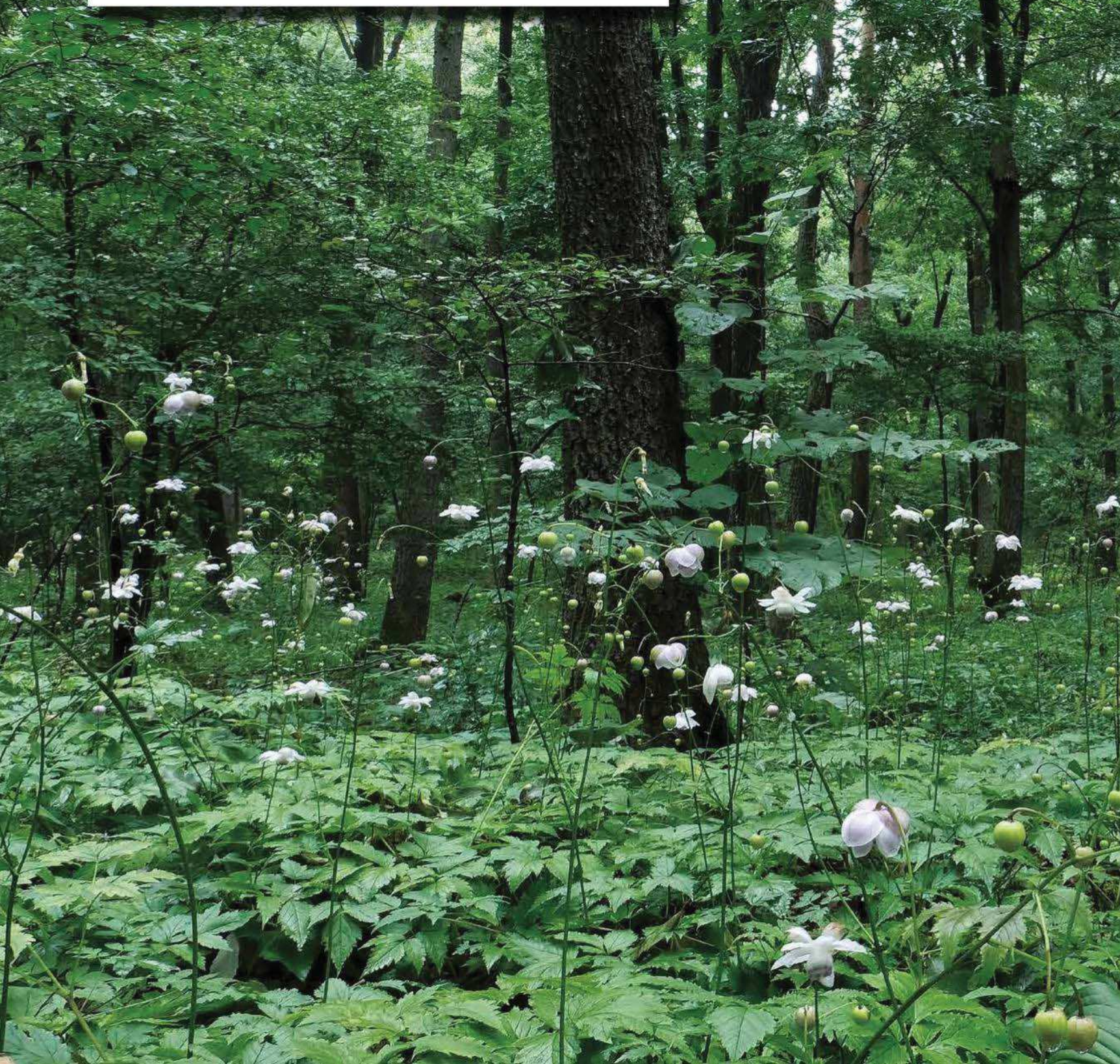
撮影／野呂希一（編集部＊ 赤城自然園＊）

手書×モ（左頁） 諸田進一（赤城自然園 植栽管理）

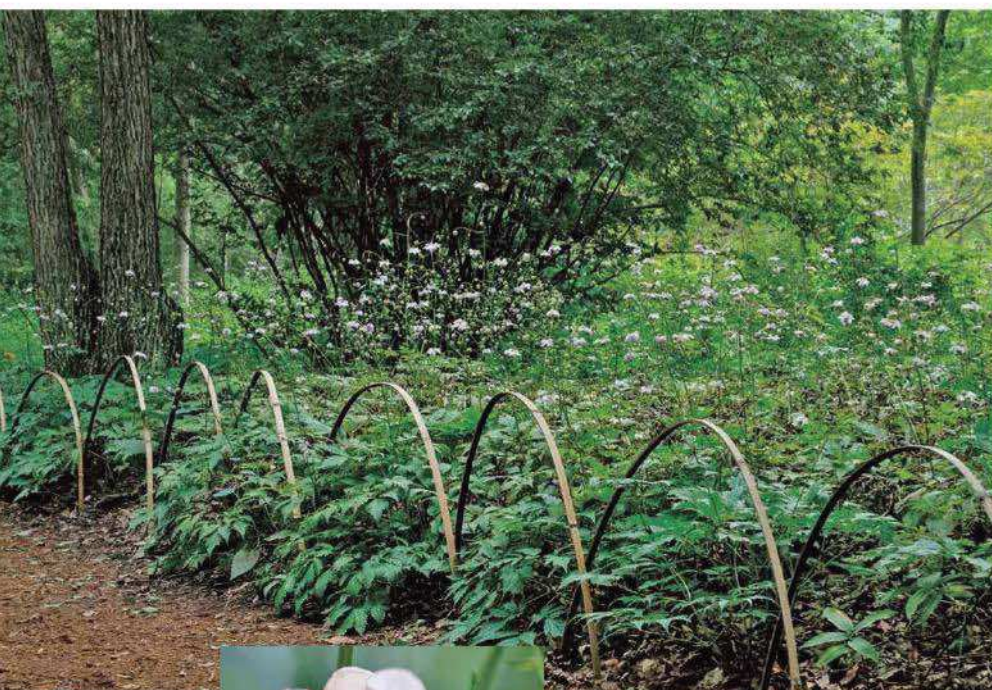
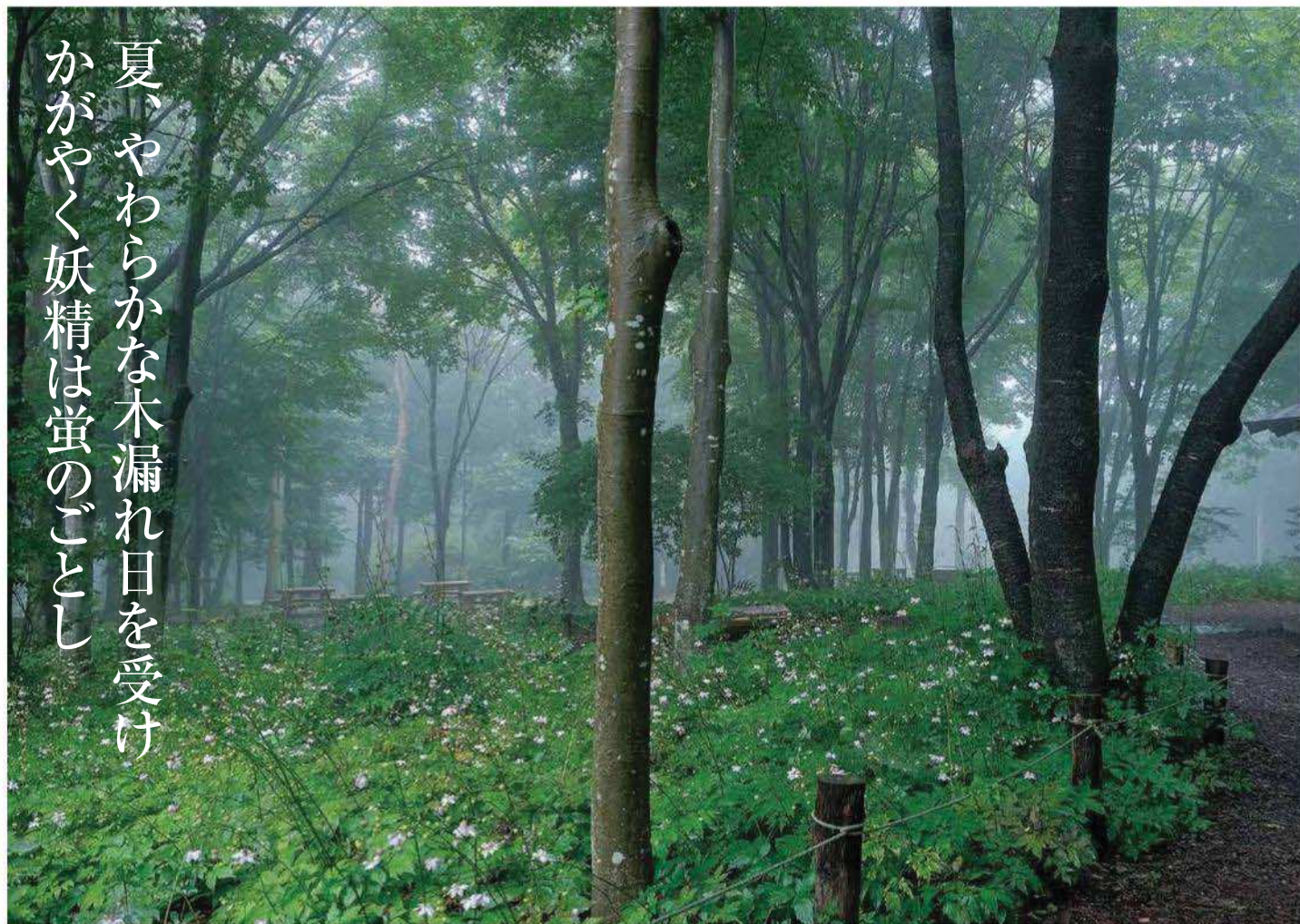
レンゲショウマ

蓮華竹麻

花が「蓮」に、葉が「サラシナショウマ」に似ているらしいが、
英名「アネモナシス」という属名は、「アネモネ」と「似る」
の合成語との事。人種、性別、見方が変われば、
何に下も見える。
径3~4cmの形、色、共に特徴のある花が、やや下向き
に咲く、そして草丈が50~80cmになり、そよ風でも
ユラユラ動く。カメラマンのグッドショットに恵まれる。
しかも今にも割れ出しそうな蕾は、かなりのもったいぶり。
忘れた頃咲いている。
ひどい乾燥に弱く、日当たり具合でも華と落としたり
花数に影響してしまう。けっしてワガママな夏の女王、といひ、妖精？



夏、やわらかな木漏れ日を受け
かがやく妖精は蛍のごとし



上／深い緑とマッチするレンゲショウマの大群落は、朝靄や霧の中では一層幻想的な雰囲気を出し出す 下右／毬のようなまん丸のつぼみから、やがてパラソルのように花開く。下からのアングルで撮ると、木漏れ日と木の葉が背景となり花を引き立たせる 下左／遊歩道のすぐ目の前で咲くものも多く、存分に接写が楽しめる



透きとおる白い花は、森の中で、森と共に楽しむ

木漏れ日の差し込む赤城自然園の森では、毎年7～8月になるとレンゲシユウマの大群落の花をつけます。深緑と、主張し過ぎることのない上品な白のコントラストは、近年なかなか目にする機会のない神秘的な風景。鈴あるいはボンボリのようにぶら下がり、うつむき加減に開くその花は、下から見上げると背後からやわらかな日の光が透過し、ろう細工さながらの透明感が引き立ちます。触れたら壊れてしまいそうなほど繊細な佇まいながら、深い森にしっかりと根を張り、溢れんばかりにたくさんのお花を咲かせて確かな存在感を放つレンゲシユウマは、まさに「森の妖精」と呼ぶにふさわしいでしょう。

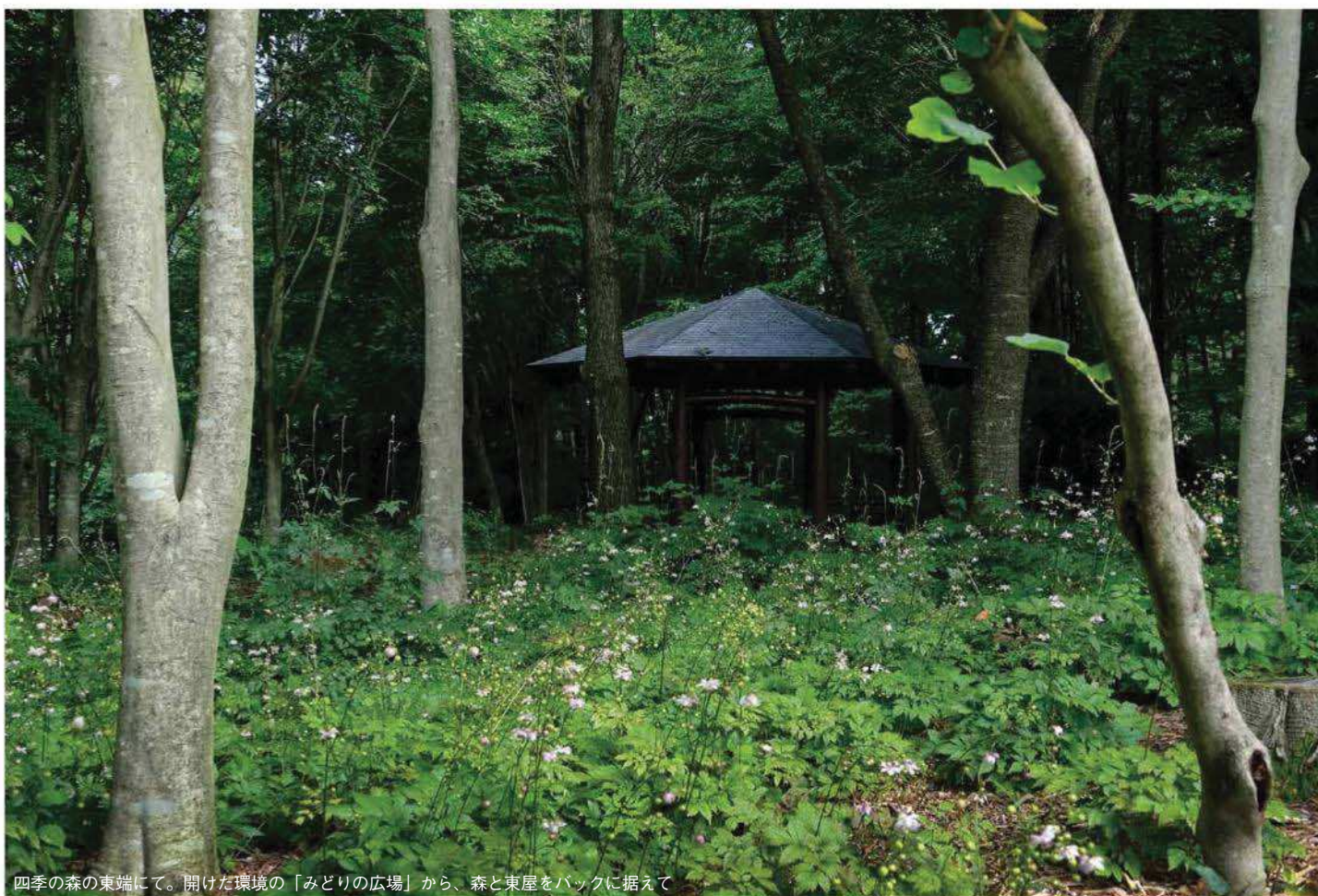
豊かな森が大半を占める赤城自然園では、株数の差はあるものの、園内全域でレンゲシユウマが見られます。これは偶然ではなく、意図的に散らして植栽されたもの。整備された花壇にたつぷりと植えてお花畑

にするのではなく、木々の間を縫うように自然な雰囲気咲き、森の風景に溶け込んでいるのが大きな特徴です。運営管理責任者の国兼貴行さんは「どんな角度や方向から花を見ても、ここでは背景にいつも『森』があります。レンゲシユウマに限らず、春のカタクリやシラネアオイ、あるいはツツジやシャクナゲなどもそう。単体で花だけを見せるのではなく、森の中を歩きながらたくさんさんの野の草花を見られる場所というのが、開園当時から変わらず守り続けているこの魅力です」と笑顔で語ります。

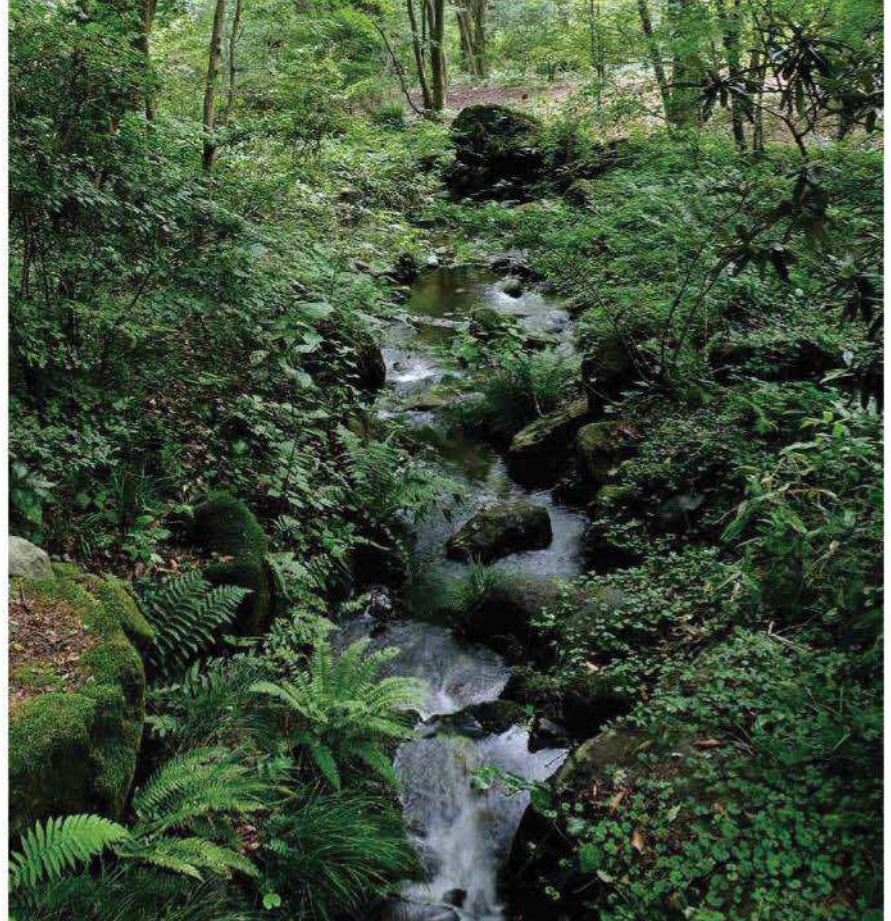
関東園でこれだけの数のレンゲシユウマを見られるスポットは、実は現在数えるほどしかありません。「清楚な雰囲気、きつと日本人なら好きな人も多はず。一人でも多くの方に、森の中の佇まいを見てほしいですね」と国兼さん。開園から約20年、最近では県外から毎年多くのファンが訪れるようになり、名所として定着しつつあります。



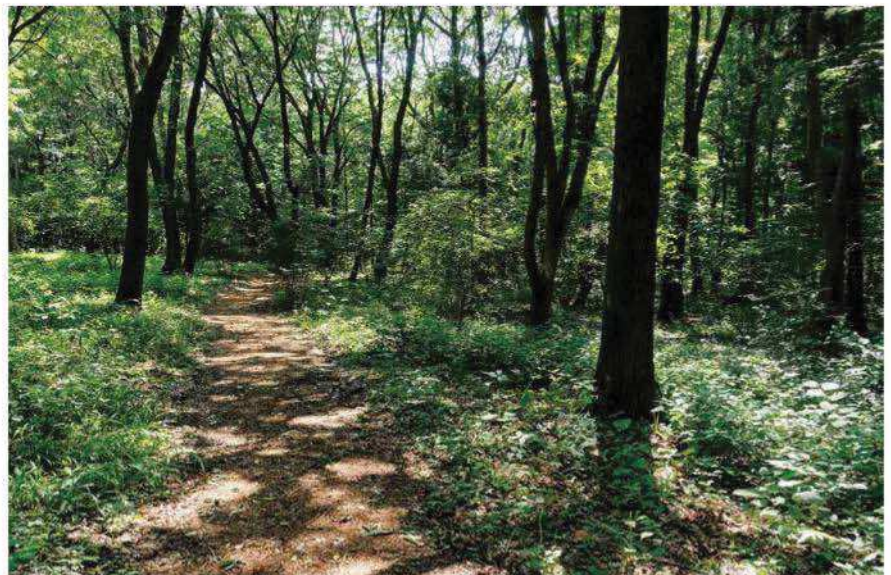
上／下から花と向き合うのが観察の定番だが、上から見下ろしてみても味がある 下／大きく成長したヤブキリが花にしがみつくと。蜜を求める小さな虫を狙っているのかも？



四季の森の東端にて。開けた環境の「みどりの広場」から、森と東屋をバックに据えて



流水とその周りの環境は、まさに奥まった山中の溪流風景そのもの



緑深まる中で木漏れ日がゆらめく、夏の赤城自然園。パークの敷かれた遊歩道は足にやさしい

〳中自然〴だからこそ 魅せられる自然がある

元々は日の差さないスギ林であったところを、約40年という歳月をかけて今の動植物あふれる環境へと育ててきた赤城自然園。国兼さんはここを〳中自然〴と呼びます。国立公園に見られるような手付かずの自然を大自然、手づくりされた住宅のお庭を小自然と捉えた場合、その中間に位置するスポットという意味。雑木林も、池も、山野草あふれる草原も、全て人の手で形作られたものののです。「元々数の少なかった山野草は株分けして何倍にも増やし、園内にバランすよく分けて植栽しています。まさにこの森は、人と自然による共同作品なんです。レンゲシウマの植わっている場所も、一つひとつ選別しながら雑草を抜いて、自然観を残しながらもきれいに整備しています」。レンゲシウマは夏に開花しますが、株が成長し始める春の間は、カタクリを始めとした早春の花が同じ場所で咲きます。その後も季節の花が代わる代わる咲くので、年間を通じた草取りやメンテナンスが必要不可欠。暑い日も寒い日も、腰を屈めて懇切丁寧に作業をするスタッフの皆さんには頭が下がる思いです。



四季を通じ、歩きやすい道の整備や草取りなどに勤しむスタッフの皆さん

光が差し、
風がさわやかに抜ける森
足下には、あふれんばかりの命の息吹

本誌No. 78 でもトップを飾った「ミズスマシの池」。春からの変化もまた興味深い。水面ではその名の通りミズスマシの泳ぐ姿も



右／森の中、地面から顔を出したばかりのタマゴタケ。まさに卵そのものの姿 中／タマゴタケは目を見張るほどの速さで成長し、顔を出した翌日にはすっかり大人になる 左／春の名物の1つとして森を彩ったヤマシャクヤクは、夏に実が爆ぜ、鮮やかな赤い種が見せる

咲き乱れる野の花々を、チョウが飛び渡る、 なつかしい山野の風景がここにある

赤城自然園の森は、光の差す明るい森。光があるからこそ野の草木が芽吹き、それを糧とする昆虫や鳥、小動物が集まります。

「植物園ではなく、あくまで『自然園』であるということがとても大切。自然地と同様に、きれいな花だけじゃなく、鳥も虫も当然ここには共生しています。春に森のあちこちで開花するカタクリも、今のうちに園内全体に分布させるのはスタッフの手だけではとても無理で、実はアリが種を運んでくれたおかげなのです。それは遡れば、アリの暮らしやすい環境を整えたからこそその成果といえます」と国兼さん。そもそも、色々な生きものが暮らす場としての森づくりを目指し、意図的に昆虫たちを呼び込む仕掛け

けをしてきた赤城自然園では、とりわけ夏になると小さな『命』がそこかしこで見られます。エノキを多く植えたことで、日本の国蝶 オオムラサキが毎年見られるようになり、クヌギやコナラなどには樹液を求めるカブトムシの仲間が。山積みにした木材にはカミキリムシの仲間がやっています。

「できれば、夏は多くのお子さんに来てもらいたいですね。自然を学ぶ……というより、命あふれる森の中で色々なものを『感じて』ほしいんです」。今年から中学生以下は入園料無料となった赤城自然園。老若男女、誰もが気軽に『命』に親しむことのできる森は、間もなく最も『命』豊かなシーズンを迎えます。



上／秋の風物詩である旅をする蝶 アサギマダラが一足早く姿を見せた 中右／アカハナカミキリ(赤)とコアオハナムグリ(緑)が、揃ってアジサイの花粉を食べる 中中／カブトムシは昼時でも目にする機会がある 中左／国蝶 オオムラサキは樹液が大好き。飛ぶと羽音が聞こえるほどの大きさは圧巻 下／独特の産卵をすることで有名なモリアオガエル



右上／鮮やかなオレンジがお花畑でも一際目立つコオニユリ 左上／最近では野生のものを見る機会がめっきり減ってしまったキキョウ 右中／オレンジの小輪がかわいいフシグロセンノウは、レンゲショウマと一緒に森に咲く 左中／夏の山野草でもとりわけ大きく香り豊かなヤマユリ。1輪でも存在感は抜群 下／標高約600mで都心の平地より涼しい赤城自然園では、アジサイも真夏に見頃を迎える

赤城自然園 Akagi Nature Park

群馬県渋川市赤城町南赤城山 892

☎ 0279 (56) 5211

Web : <http://akagishizenen.jp/>

★2018年度より1年を通して開園！



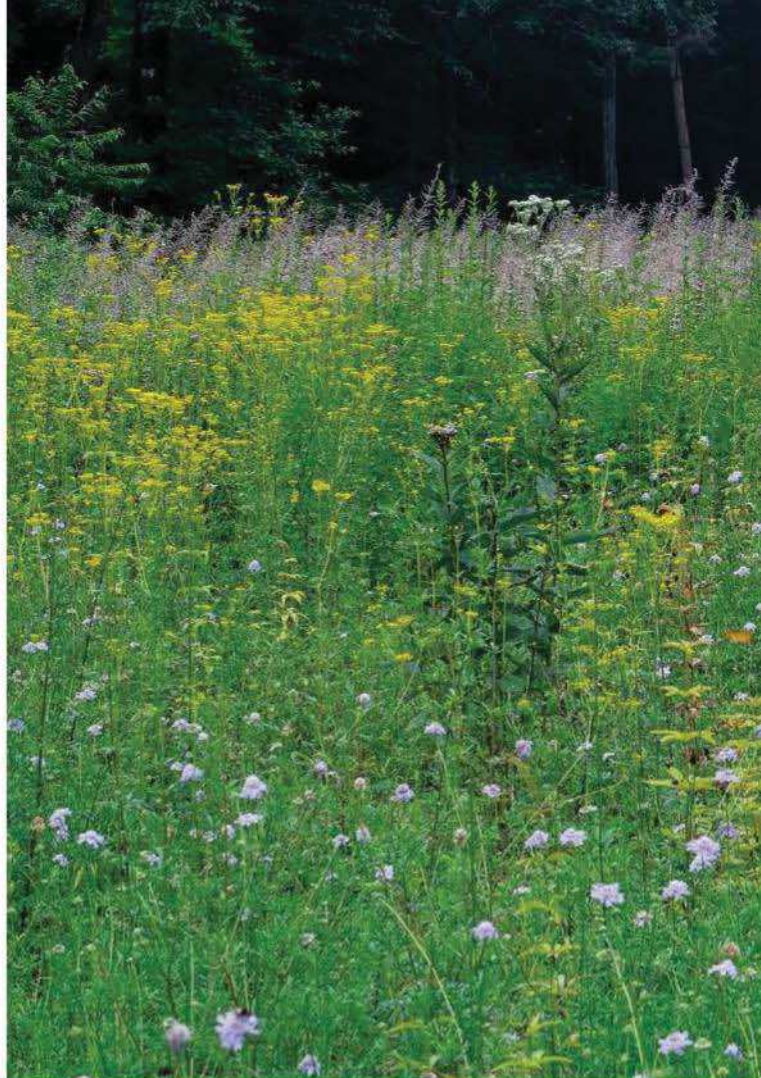
■開園スケジュール(2018年度)／
4～11月：火曜日定休(5月のみ無休)
12～3月：土日のみ開園(年末年始除く)

■入園料／大人(高校生以上)：1,000円
中学生以下：無料
※セゾン・UC カード提示で500円(本人のみ)

■駐車場／400 台(無料)

■アクセス／関越自動車道「赤城」I.C. より車で 10 分、
または JR 上越線「渋川」駅よりシャトルバス(4～11月の土日祝)かタクシーで20分

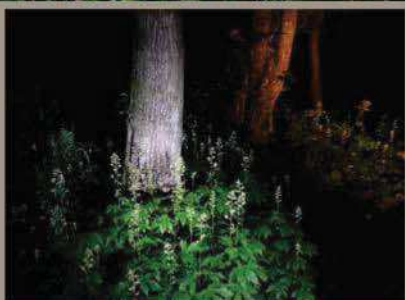
子供たちに
人気の探検
カード。散
策のお供に



「四季の森」のお花畑には、オミナエシやマツムシソウなど季節の野の花が



必要なのは市販の
懐中電灯とカメラ
のみ。光の組合
せ次第で、夜の
植物風景はガラリ
と変わる。レンゲ
ショウマは、妖し
くも美しく輝く。
(レンゲショウマ
開花期の夜間開園
は現在実施してお
りません)



暖色と寒色、2つの懐中電灯を使って
夜の赤城自然園の植物をライトアップ。
昼とはまた違う不思議な光景が広がります。

特別な機材は一切必要ないので
夜のお庭などで試してみましょう。



Night Flower Scape
夏、夜の植物を懐中電灯で照らしたら……

International Roses & Gardening Show 2018

【第20回】国際バラとガーデニングショウ

日本最大級のバラと園芸のイベントとして、世界中の美しいバラとショーガーデンを展開してきた国際バラとガーデニングショウは、今年でついに20回目の開催を迎えました。記憶に残る過去の様々なシーンを受け継ぎつつ、次の時代を見据えたさらなる進化の兆しを見せる……そんな節目のショウを振り返ります。

撮影・文責／編集部



エントランスには、西武造園がプロデュースするバラと緑と水の空間が。バラを活かした壁面緑化が華やかな会場へと誘う



ウェルカムガーデン

昨年のバラとガーデニングコンテストにおいて大賞を受賞した mement・森ほかのチームがデザインしたウェルカムガーデンは、過去最大規模の大きさで南仏の古きよき街並を彷彿とさせるノスタルジックな雰囲気が目を惹きます。バラを中心としつつナチュラルなトーンを両立させたガーデンは、歴史を感じさせる構造物と調和し、いつまでも佇んでいけるような心地よい環境を創出。展望ブリッジからは、隣接するセントラルローズパークを始め、会場を一望することができました。



もっとバラをたのしみたい

セントラルローズパーク

メインストリートとなる入口エリアは、河本バラ園のバラを中心として大野耕生さんが装飾を担当。ここではロザリアンの皆さんがおすすめするバラが一堂に会し、甘い香りと多彩な花色につつまれながらバラのトレンドを知ることができる至高の空間となりました。また、造園家である阿部容子さんが監修する2つのローズガーデン『心ときめくバラの庭』や、玉置一裕さん監修の『世界のニューローズベスト10 /トレンドローズ』など、多彩な仕掛けで多くのバラ好きをうならせてくれました。

【参加されたロザリアン(50音順・敬称略)】

アルノー・デルバール、大野耕生、小山内健、河合伸志、河本純子、木村卓功、後藤みどり、ドミニク・マサド、村上敏、ロブ・シャープルズ



『ライフスタイルガーデン』では、もっと気軽に植物を楽しんでほしいという二村昌彦さんの願いの下、暮らしに溶け込むグリーンを多数展開

ローラン・ボーニッシュさんが提案する『ネオ・ジャパニスム・ガーデン』。古民家や和庭といった日本独自の生活様式をヨーロッパのガーデン文化と融合させ、バラを織り交ぜた新スタイルの提案



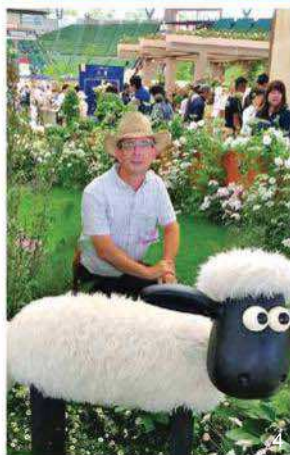


アニバーサリーガーデン

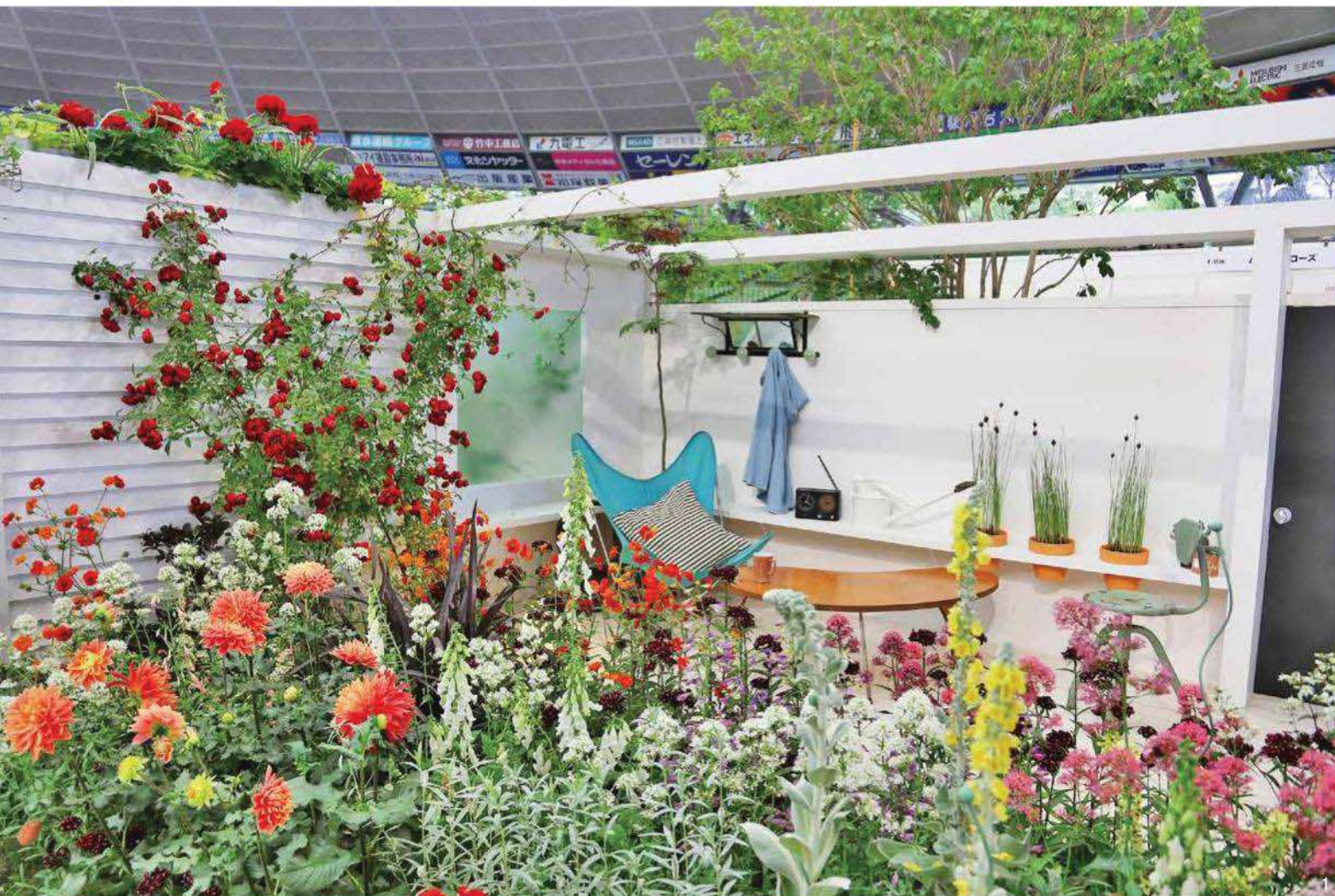
English Country Garden

マーク・チャップマンさん

20年にわたり本イベントに携わってきたマーク・チャップマンさん。今回は、過去に手掛けられてきたお庭の中からお気に入りの要素を選抜して凝集させ、あらゆる世代の家族が楽しみ、リフレッシュできるような空間を生み出しました。ナチュラルな雰囲気の中に、シェッドを取り入れたサマーハウスを導入するなど、洗練された庭づくりのノウハウが随所に散りばめられています。



1 / 小さな子供に人気の「ひつじのショー」が暮らす庭 2 / 踏み石の素材感や植栽とのコントラストにも注目 3 / 庭のフォーカルポイントとなるサマーハウス。中のシェッドは子供やペットたちの遊び場にもある 4 / マーク・チャップマンさん。ひつじのショーと一緒に 5 / 過去にマークさんが作ってきたガーデンのコンテンツが随所に見られる 6 / ウェルカムガーデンの展望ブリッジから見下ろしたところ



アニバーサリーガーデン

My Back Ground 1950s 昭和 30 年代に生まれて

吉谷桂子さん

日本で庭づくりを始めて約20年。節目の年を飾る吉谷桂子さん集大成の作品は、白い構造物をバックに無数の宿根草が花開く自然派のガーデンでした。建築家であるお父様がかつて思い描いた理想の庭に、吉谷さんが持つ植栽のノウハウをすべて投入。親子二代、約半世紀の時を超えて実現した理想の庭からは、幸せなガーデンライフが目に見えそうです。

1 / 色とりどりの花に囲まれたくつろぎの空間 2 / ジュンペリーの実がなる 3 / ウェルカムガーデンの展望ブリッジから見下ろしたところ 4 / 塀などの人工構造物は白を基調とし、草花の色を邪魔しない 5 / 宿根草の数・種類が多い中、アリウム・ギガンテウム（ネギ坊主）はとりわけ目を惹く



バラとガーデニング コンテスト

募集テーマ：「十人十色」～私の庭～



大賞

おだやかに暮らす
～庭とともに～

出品者／ Radiant Green Garden、
株式会社貝塚造園、Green Calm House
宮城県仙台市

Tel：022-392-9050

四季を感じ、風を感じ、香りを感じる庭。
時が経っても忘れずに思い出すのは、
この庭でおだやかに過ごしたみんなの時間

作品紹介文は公式ガイドブックより引用

写真／編集部

作品講評／榎原八朗（ガーデン部門審査委員）

以下同様

受賞作品講評

気取らず想いのまま、デザインして創ろうと思って造ったのではなく、使い古しの材料で何のこだわりもなく日常の生活を楽しんでいるうちに何となくガーデンになったような作品。庭のテーマが「おだやかに暮らす」。こんな雰囲気を感じさせる作品になっているところが素晴らしい。アート性を表現した抽象的なテーマが多い中で分かりやすさがいい。素朴な小屋を庭の左手後方に、右手前に食卓、この両者を敷地の対角にしているため遠近の構図となって深さを感じさせている。そして中央手前、食卓を囲むように大型の樹木を配してより近景を強調しているところが良い。デザイン構成と観賞の構図が考えられた作品となっている。





最優秀賞 (ホームガーデン部門)

From the cradle to
～庭と生きる人生～

出品者／相模庭苑株式会社
神奈川県茅ヶ崎市

受賞作品講評

ショップ風のお洒落なガーデンハウスとアウトドア。高度なデザイン性と精度の高い制作、木材一色で統一した構成は安心感がある。シンプルに見えて実は複雑な仕上がりになっている。バラの配色と色合いとその使い方も絶妙で建築物を引き立たせているところが素晴らしい。ガーデンハウスをほんの少し斜めに振っているが、思いきって30度ぐらいにすると建築物も庭も遠近効果が出て広さを感じさせてくれると思うが如何だろうか。

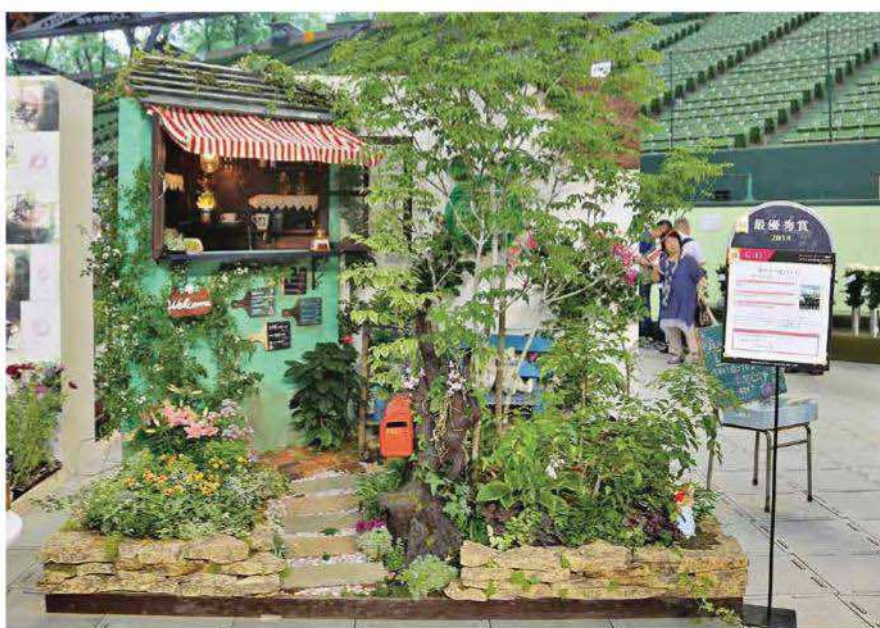
最優秀賞 (バルコニーガーデン部門)

繋ぐ庭

出品者／伊藤造園
埼玉県川越市

受賞作品講評

庭は小さいほど難しい、ややもするとミニチュア的になりがちだ。休養、憩い、団欒などを目的とした機能性と、見て美しいと思う美的面を兼ね備えている。この作品の構成は、向かって左側を強めに植栽し、右側に向かって弱めに植栽している。そのため右側の空間にゆとりができ、石敷きと芝生のテラスが広く取れるため、重点と非重点のバランスが取れた作品になっている。



最優秀賞 (フロントガーデン部門)

森の中の私のお店

出品者／熊谷農業高校
プロジェクトチーム

受賞作品講評

一瞬、可愛いと思えるガーデン。こんなお店は気楽で親しみ易く老若男女行きたくなるような出来栄え。まず現実から離れ、楽しく遊び、楽しい夢を抱き、思うままに意見交換し、良かれと思うものはすぐに創る。作った後に次の課題が生まれる。そんな繰り返しによってデザイナーとしての技術が備わる。そんな夢を抱かせているかのような作品だと思う。“がんばりましょう”

国際バラとガーデニングショウ20周年の感謝を込めて

開催日／2018年5月23日 文責・写真／編集部



ローズテラスにおける対談の様子

6日間にわたって開催された2018年の「国際バラとガーデニングショウ」。最終日の5月23日、ローズテラスにてバラの先生方が一堂に会する素敵なトークイベントが開催されました。20年間にわたるガーデニングショウを様々な形で支えてきた先生方が、思い出話に花を咲かせつつ、これからの展望、来年以降の開催に向けての思いなどを熱く語る、素敵なステージの様子をお届けいたします。

登壇者の皆さん



玉置一裕さん(司会)



小山内健さん



村上敏さん



後藤みどりさん



阿部容子さん



河合伸志さん

玉置一裕さん(以下、玉置)「まずは小山内さんにお話をお伺いします。会場の皆さんもご存知かもしれませんが、小山内さんは実は本日お集まりいただいた5名の中で、唯一この国際バラとガーデニングショウに皆勤で参加していただいている方です」

小山内健さん(以下、小山内)「そうでしたね。僕がこのバラとガーデニングショウにデビューさせていただいた時には、和風のバラを使ったテーマガーデンをつくらせていただきました。会場の真ん中に設置した和庭にバラを飾り、日本風の空間にもバラが合うのだということを紹介しましたね。」

毎年面白くやらせていただいていますけれど、バラの品種選定にしても庭づくりにしても、常に趣向を凝らして前よりも面白く新しいことをやろうと取り組んでいます。その分、

忙しくてなかなか動けないこともしばしば。時には開会から閉会の時間まで、1m四方くらいのエリアの中からずーと出られなかったなんてこともありました。それこそ飲まず食わずのこともありましたが、とても良い経験でしたね」

玉置「未来に向けて、これからこんなことをやっていきたいなどの希望はありますか？」

小山内「色々ありますけれど、基本はやはり育種に専念していきたいですね。ステージなどで散々しゃべってきましたし、ちよと黙々と作業する時間が必要じゃないかなと(笑)。自分なりの表現で色々なバラを作出してきましたが、自分ならこうする！みたいなこだわりを持ちつつも、お客さんのニーズを探りながら新しい品種を育てていきたいです。」

この展示会が終了してもやることはたくさんで、実は2週間くらいは大阪に帰れません。バラの咲いている期間は、それこそバラ前線に乗って大移動。流れ旅のような状態です。大阪に帰った頃には「一番花が咲いているんじゃないでしょうか」

玉置「来年のこの会でも、小山内さんの新作に大いに期待しています」

小山内「はいまた魅了するバラをご紹介したいと思います」



今年のセントラルローズパークより、写真撮影に応じる小山内健さん

玉置「ありがとうございます。続きまして後藤さんにお話を伺います。後藤さんには第1回の開催時からこのイベントにかかわっていただいておりますが、当時はちょうどガーデンゲームが始まった頃でしたね」

後藤みどりさん(以下、後藤)「そうでしたね。特にオールドローズが大人気でした。3月頃にロシアから航空便で枝が到着して、さっそく接ぎ木をしましたけれど結局会期中に花が咲かなかった……なんてこともありましたね。あれはちょっと残念でした」

玉置「昔はまだ、開会の時期にはバラが咲いていないということもありましたよね」

後藤「第1回開催の頃はまだ開花調整というものがなかなか難しかったです。でも、お客さんは「きつとバラが満開なんだろうな」と期待して会場にいらつしやるでしょうし、ポスターでもバラの祭典であることを謳っていましたからね……」

玉置「今年は全体的に、例年より10日から2週間くらい早くバラが開花してしまいました。それにもかかわらず、この会場ではよく初日からこれだけきれいに咲かせてなおかつ最終日まで花を保たせることができたと思います。バラを育てている方ならわかると思いますが、これはすごい技術です。基本的にバラの開花する時期ってなかなか揃わないもので、いっぺんに咲かせることはなかなかできません。そこで、株を温めたり、逆に冷やしたり、山の上にあげたりと色々温度調整をして開花期をあわせるんです」

後藤「4月、5月と会期が近づいてくると、毎年胃が痛くなるんです(笑)。ちゃんと咲いてくれるか心配になって、毎日朝昼晩と株をチェックしたものです」

玉置「色々苦労もあったかと思いますが、未来に向けて、後藤さんがこれからやりたいことなどをお聞かせください」

後藤「このイベントではぜひ、皆さんと一緒に楽しむ、あるい

は家族と楽しむというのがテーマにしたいと私は思っています。そして「バラのある暮らし」というものをより「層多くの方に発信していきたいです。できれば、ローズキャンプとかローズパーティみたいなこともやってみたいですね。あるいは夜にバラを楽しむ「ナイトローズガーデン」みたいなのも面白いんじゃないでしょうか」

小山内「それはいいですね。朝が弱い僕には、非常にありがたいです(笑)」

玉置「バラを通じた楽しみ方って、まだ色々あると思うんです。特に後藤さんは、バラのある暮らしのスタイルを色々提案されたいとのことですので、また来年以降が楽しみです。続きまして、京成バラ園のヘッドガーデナーである村上さんです。ご存じない方もいらつしやるかもしれませんが、実は第1回の開催時に京成バラ園のバラを担当されたのが村上さんでした。お1人で結構苦労されていましたよね」

村上敏さん(以下、村上)「そうですね。先ほど後藤さんも仰っていました、開花調整はもちろんのこと、その当時はこうした「展示会」というものがまだまだ定着していなかった時代なんです。こうした場を通して皆さんにバラを紹介するより、お店で苗を売るのが主流でした。そのため、当時新入社員でそこそこバラがわかるくらいの立場だった私が1人で会場に派遣されてきたんです。でも納品されてきた苗のいくつかは、まだ固いつぼみがいっぱい並んでいるような状態。「これ、どうすればいいの?」と言いたくなっちゃいましたね。

それでも、とりあえず納品された苗を並べなきゃいけなかったわけですが、数が多くていくら時間をかけてもかけても並べ終わらず、仕方ないから自分の車で寝て、また朝起きて作業していました。他に誰もいない以上、「俺がやらな

ければどうにもならない！」と思い頑張りました」

玉置「あの当時はまだバラの品種の数が少なかったですよ。品種が限られている分、お客さんの期待に反して、開会時点でもまだ蕾の状態なんでも多かったんです。そういえば村上さん、今回お庭を造られていかがでしたか？ いかにも京成バラ園らしい雰囲気になっているなと思いました」

村上「今回は、うちのローズガーデンから掘りあげた20年物くらいの大きな株を入れています。古木で、それこそ「バフツて「木」なんですよ」とすぐにわかるような大きなものを展示しています。これを機に、バラが樹木だつてことをわかっていただければ幸いですね。あと、最近は大きい花を咲かせるバラが少なくなりましたので、ガーデンに入れて、広い空間の中で存在感を発揮させてみました。花苗の数はたく



今年のセントラルローズパークより、村上敏さんの作庭。「ミツバチと共存できるローズガーデンがあったらいいな」という願いの下、丈夫なバラを中心にデザインされている

さんありますから、上から下までたっぷりバラで埋め尽くすような感じのガーデンになっています。

ちなみに今回、私は開花調整をほとんどやっていません。京成バラ園のラインナップの中から、この会期中に咲き続けるだろうと思われるものを厳選して使っています」

小山内「本当ですか？ うらやましい話です。我々のように遠方から来ている場合、1回バラを持つてきましたら、もうその手持ちの苗で会期を乗り切るしかありません。「ちようとバラが足りないぞ」と思っても、簡単に取りに戻れないんですよね……」

玉置「京成バラ園が提供するバラも立派ですし、日本バラ会が展示している鉢植え、そして切花なども、どれも技術がないとなかなか美しく咲かせられないものなんです。このイベントは、そうしたよそでは見られない美しいバラが見られるという点では、大いに自信を持っています」

小山内「海外から来られた方などは、今回も展示されているような盆栽仕立てのバラなどにとりわけ目を惹かれるみたいですね」

玉置「そうそう。特にフランスの方などは強く関心をもたれるようです。日本らしいバラの魅せ方だと感じているのかもしれません」

村上「あと、来年以降に向けての展望ですね。自分はバラだけでなく草花を色々育てていますが、バラの扱い方に慣れていない方の場合、お庭に植えても「バラって普通こういう所に植わっていないよなあ……」などと違和感を感じる方がいらつしやるようなんです。ですのでバラを含めて、それぞれの植物の性質にあわせたお庭というものをもちと充実させ

ていければなと思っています」

玉置「実は村上さんは元々バラから始められた方ではなく、もつと幅広く草花好き・植物好きというところからバラの世界に入つてこられた方なんです。例えば雑草を見つけても「これは通常葉っぱは3枚のはずだけれど、4枚ありますね」などと話されたり、植物全般に詳しい人なんです。そして、バラと草花を組み合わせた庭についても、非常に精力的に研究されています。こちらでライブガーデンに講師として出ていただいた時にも、草花との混植でのバラの楽しみ方などについて講演いただきました。

しかしとにかく、まずはぜひ京成バラ園に足を運んでいただければと思いますね。村上さんのデザインされたお庭もありますし」

村上「まだちょっとだけですけどね。まだバラには手をつけられていないのですが、園内の奥の方にアジサイと草花を組み合わせた新しいガーデンつくつております。2年後、3年後くらいを楽しみにしててください！」

玉置「ありがとうございます。では、続きまして阿部容子さんにお伺いします。阿部さんは第3回のガーデンングショーで実施されたコンテストで、見事大賞を受賞された方です。それ以降、特に最近バラに関心を持たれて、今回もバラと草花のお庭を会場で作庭していただきました。ちなみに阿部さんも昔は徹夜に近いことをやられていたと聞いておりますが……」

阿部容子さん（以下、阿部）「はい、徹夜明けにそのままこのプレスレビューのステージの壇上で寝てしまったことがあります。あれは今でも忘れられませんね。それくらい過酷だったんですけど、当時はまだ若かったので乗り



今年のセントラルローズパークより、阿部容子さん監修の「心ときめくバラの庭」。海外ブランドのバラが引き立つ庭(左)と、日本育種のバラを主役にした艶やかな庭(右)

切れました。

私が大賞をいただいた当時つて、ちょうどイングリッシュガーデンの全盛期だったんですよ。右も左もイングリッシュガーデンというような感じ。今、観覧席の皆さんの中にもうんとと頷いていらっしゃる方がいますね。そうした流行の中で、私は使うバラを二種類だけに絞り、ちよとアジアンテイストのガーデンを作ってみました。

ただ、この会場でバラの先生方と17年くらいお付き合いさせていた中で、だんだんと私もバラの魅力に引き寄せられていった気がします。一緒にフランスに行ったりもしましたね。そうした経験をベースに、そんなに肩肘を張らなくてもバラを楽しむようにと、庭づくりのお仕事の中でもお客様の庭で必ず数品種使わせていただくようになりました。でも、バラを植えて3年後くらいにお客様から呼ばれ、再

度お邪魔すると、数株植わっているだけだったバラが、いつの間にか30、50、多いところでは100くらいにまで増えていることもあるんです。「バラの力つてすごいな」と感じましたね」

玉置「1本、2本のバラから始まったのが、数年後にはどっぷりとはまってしまうたわけですね」

阿部「そうなんです。で、そうして増えたバラをどうしたらいいかわからなうてしまったというお客様から相談を受けるんですよ」

玉置「バラつて、はまり方が半端じゃないんですよ。最初には恐る恐る買うところから、ある日リミッターが外れたかのように衝動買いを始めてしまうといえますか……」

阿部「多分、今日いらっしゃっている方たちも、ここで買ってから「もう逃げられない」というところまで来ている方たちが大勢いらっしゃるんじゃないかと思っています」

玉置「ところで阿部さんはこの先、何かやりたいこと、考えていることなどはありますか？」

阿部「私の仕事は造園業です。本当にバラ二筋という方には怒られてしまうかもしれませんが、仕事の中ではあくまでバラは低木花木の1つとして見做しています。お庭をつくる1つの材料ということ。でも、やっぱり主役を張れる植物なんだろうなと思っています。」

来年以降の国際バラとガーデニングショウでやりたいことといいますが、かねがね思っていたのですが、バラの専門家の方たちと横のつながりがとても強くて、「僕はこう思う」「私はああ思う」みたいな形で色々な意見交換をなさっているじゃないですか。でも悲しいことに、造園の方たちがこうい

う場所で同様のスタイルで会話することってなかったんですよ。なので、今度は造園の方たちとバラについて語り合うようなことをぜひやってみたいと思っています」

玉置「なるほど、これは1つよい提案が出ましたね」

阿部「横のつながりが生まれることで、お互いに、色々な知恵をいただきながら広がっていくことができるんじゃないかなって思いますね」

玉置「現在はまだ、バラはバラの業界だけ、造園は造園業界だけ、ハンギングはハンギングだけ……といった形で分かれていて、なかなか横に繋がってつにまとまるんことができていません。阿部さんがおっしゃる通り、せつかくこういう機会があるのですから、個人的な交流はもちろんです。違う分野の方たちが交流できるような新しい場をもつと設けられたいですね」

阿部「ええ、もつと色々な話をフラットにできると面白いんじゃないかなと思います」

玉置「最後に河合伸志さんにお話を伺います。本日、河合さんは松葉杖をつかれています。これは横浜イングリッシュガーデンでの害獣(タイワンリス(特定外来生物))駆除の作業中に怪我をしてしまったためです。自然の景観を作っている、虫も集まれば動物も集まるもので、どうしてもそういった害獣が来ってしまうことがあります。それだけきれいな庭ということでしょう。そういえばこの会場も先程からチョウが舞つていたりしますね。ちなみに余談ですが、国際バラとガーデニングショウの会場では、特定外来植物が侵入しないよう必ず慎重にチェックをしています。」

河合さんですが、国際バラとガーデニングショウには数年

前からバラの育種家として関わられています。今回も入口から入つてすぐのところに河合さんの作出したバラが展示されていますね。河合さん、20回目の国際バラとガーデニングショウは如何だったでしょうか？」

河合伸志さん（以下、河合）「そうですね。自分が最初にここに来たのは20年前、プリンセス・オブ・ウェールズというダイアナ妃に贈られたバラを長野からこの会場まで抱えてきたんですよ。当時僕は種苗会社に勤めていたんです。

あれから年月が経ち、自分も随分変わったなあと思います。あの頃はバラに関してはまだ右も左もわからない状態だったんですけれども、今は大分見えるものが見えてくる歳になつて、何をやるにあたってもそんなに迷うことがなくなりましたね。

このイベントでは、毎回何かしらのバラを新品種としてお見せするようにしていますが、残念ながら今年は開花のタイミングが早かったこともあり、間に合いませんでした。改めてバラつて難しいな……と思いましたが、今

年この会場に来たら結構色々な品種が出ていて、すごいなと感じましたね。皆さん、本当によく頑張られたんだなあ……と」

玉置「ここで会場の皆さんにぜひお教えしたいのですが、皆様この会場で様々な花苗を買われると思うんですけど、毎年河合さんが最も多くの苗を買われていく「お客様」なんですよ」

河合「確かに、毎回会場で新品種のバラ苗をたくさん買いますね。なぜかといいますと、色々な育種家の皆様が今どこを向いてバラを作っているんだろう？というのを勉強するためです。直接お話しただかなくても、つくられたバラを見れば十分にわかってくるんですよ。同時に、世界のバラは今どこに向かっているんだろう？ということにも興味があり、それを探るという意味もあります。それと同時に、自分自身を見定めているんです」

玉置「最新品種もそうですが、この展示会は世界中のバラ品種が集まるという貴重な機会です。で、大体最新品種というのは数が少ないんですよ。それだけに見つけたら、考える前に財布を出して買ってしまおうというのはとてもよくわかります。ちなみに河合さんは、来年以降はどのようなことをやりたいですか？」

河合「私はガーデンで仕事をしているのですが、見に来てくれる方は結構いらっしゃるんですけど、バラを買って育てるとなるとどうしても「難しそう」と躊躇ってしまう方が結構多いんですよね。でも、最近新しく世に出てきたバラつて、病気に強くかなり丈夫なものがいっぱいあります。なので、まだ買われたことのない方にもぜひチャレンジしてもらいたいなあつて、そういう人たちの背中をそつと押してあげたいなつて思っています。

最近、ノックアウトという名前のバラがつくられてまして、すごく病気に強いということでこの名前がつき、注目されました。ただ、花が少々見栄えがしないんですよ」

小山内「バラというより、四季咲きの花木と思えばきれいなんですけどね。実際に育ててみるとわかりますが、ものすごく強健で丈夫です」

河合「強いことは強いのですが、ちょっと花が地味じゃないかなあ……と。ただ、ここ数年で生まれた品種の中には、香りがよくきれいな見た目でありながら丈夫だったり、「何でこんなにすごいのが揃ってきたんだろう？」と驚かされるほど優秀な品種がたくさん出てきています。ですからもう「そつと背中を押す」じゃなくて「後ろから突き飛ばす」くらいの勢いでもっとどんどんバラを普及させたいですね」

小山内「新しいバラつて本当に魅力いっぱいですよ。育て



河合伸志さんがスーパーバイザーを務める、緑豊かな横浜イングリッシュガーデン
(写真提供：横浜イングリッシュガーデン)

村上「何事もそうですが、入口はまず簡単なものから始めていいだと思います。でも、育てるのが簡単なものつて飽きやすいんですよ。「もうちょっと手ごたえがほしいな」と考え

るのにすごく楽ができると思いますか、そんなに根詰めなくても何とか育ててくれるものがあつたり、四季咲きで長期間花を楽しめたり、香りのバリエーションも増えて質も良くなつてきています。だからこそ皆さん、ぜひ新しいバラを買ってくださいね。

バラのすごいところつて、まず最初歩踏み出す(育て始める)のは大変だけれども、踏み出して、そこで決して完結しないところなんです。まださらに次の扉があつて、奥深さがあるんです。で、どんどんはまっていき、最後には壇上にいる我々ようになってしまつと(笑)」



荒川区・都電沿線に植栽されたピンクのバラ ノックアウト。強健さを評価され、街中に植栽されている (2017年5月撮影)

て、次はちやうと難関だけれどきれいなものをやつてみようかな……と思うようになる。そういう要望にどんどん応えてくれるのがバラなんです。何せ色々な品種が揃っていますからね。まだ始めたことのない方には、ぜひ簡単なものからスタートしていただいて、のめり込んでほしいと思います」

阿部「バラつて、やっぱり香りが大事なものです。バラの香りには、実はアンチエイジングの効果があると言われ、成長ホルモンが分泌されるようになるらしいんですよ。この会場は香りがたつぷりと満ちていますから、皆さんぜひ思いっきり嗅いでください」

小山内「この会場は何といつてもバラの渦に巻かれていますので、香りがとても豊かです。それだけに1日たつぷりこの会場内を歩き回っていると、心なしか皆さん、帰る時には顔に艶が戻つてきているような気がするんですよ」

後藤「何となくですが、20年間、毎年365日自分がこれだけ働いて、育児も同時進行して(後藤さんの娘さんは第1回開催時に9歳でした) 疲れないのは、バラと一緒にいるからなのかなという気がします」

玉置「皆さん、今日は貴重なお話をありがとうございました。会場にお越しの皆さん、この国際バラとガーデニングショウの会場に来れたからこそ、こういつたお話を聞くこともできますし、新しいバラなども見ることができ、ショッピングも楽しめて、そしてご自分のお庭をイメージすることもできるわけです。私もずっとこのイベントに携わらせていただいていますけれど、来年に向かって、新しいバラ、世界のバラを引き続きここで見せしていきたいと思っていますので、ぜひまた次回の会場でお目にかかれたらと思います」

第20回国際バラとガーデニングショウ



会場／メットライフドーム
会期／2018年5月18日(金)～23日(水)
主催／国際バラとガーデニングショウ実行委員会
(毎日新聞社、スポーツニッポン新聞社、西武鉄道)
URL／<https://www.bara21.jp/>



対談終了後は、皆さんで記念撮影



蓄電機「リバイド E500」を電源に電子ピアノによるライブ演奏。演奏者は、埼玉県で活動しヒーリング系の曲の作曲も手掛ける音楽家の Masaki さん



上／昨年も庭先を彩った銅葉色のパチュニア 左／例年よりやや中央寄りに家屋を配置し、どの方角からでも写真映えするように設計されている

HONDA

Flower and Greens with Honda

Honda 製品がある ボタニカルライフ

写真・文／編集部

2018年のホンダが提案するのは、定年を迎えた夫婦が営むカフェと、雑木とバラのあるガーデンスタイル。フランス・プロヴァンスの自然に憧れる夫婦が、ボタニカルで育てた野菜で自給自足を楽しみつつ、「軒家をカフェとして展開。豊かな草花に囲まれるナチュラルな庭にテーブルを置き、音楽を聴きながらコーヒーを……。そんな、素朴ながらも優雅なライフスタイルがありありと目に浮かびます。

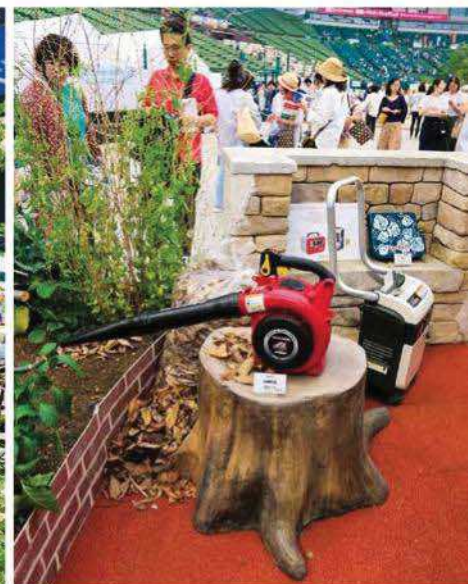
「今回の家の外壁には、アニスローン新色である淡い緑のチョークペイント『Lemlem』を使っています。それに調和させる形で、緑を中心とした自然な雰囲気を持つ色の花を多く使いました」と語るのは、庭のデザインを監修したガーデナー 伊藤きみえさん。ちなみに『Lemlem』はアフリカのある村の名前で、現地に生えていた黄緑のアリウムの花色を再現したものだそうです。そんなグリーンの家屋を囲うように、モミジやアオダモといった四季折々の表情を見せる樹木や山苔を使い、日本の環境にも適した庭となっています。また、「決して珍しい草花ではなく、誰でも目にすることがあるようなありふれた植物を使って、新しいガーデンスタイルを魅せられるように意識しています」とも語る伊藤さん。なるほど、よく見かけるお馴染みの植物がいろいろありますが、それらが組み合わせられていく庭には新しい発見がたくさん。カフェを訪れたお客さんが「この花でこんなデザインができるんだ！」などと関心を示してくれたら、家主さんとの会話も大いに弾みそうです。また、例年同様に展示後の植物や部材は、ツインリンクもてぎ「ハローウッズ」に還元され、無駄になることなく長く生き続けます。



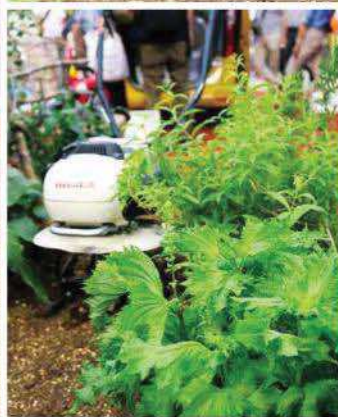
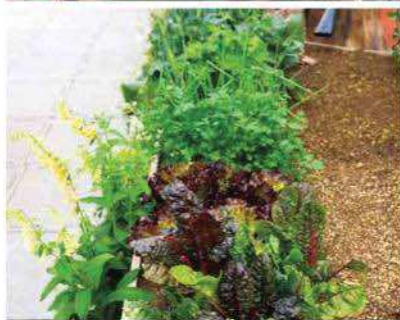
屋根や壁面には一部モルタル造形を使用。実物の瓦や石と見た目はほぼかわらない



「希望・機会・自然・夢・技術」。この庭にあるものと来場者をつなぐ納得のキーワードを掲示



ポタジェには畝をつくり耕うん機を配置。直接ハンドルを握って菜園の雰囲気を感じることができる。落ち葉を飛ばすブロワもあり、集めた落ち葉は堆肥にしてポタジェに還元…という一連の流れが表現されている



ポタジェではナスやミニトマトの他、エンドウ、ワイルドストロベリー、ハーブ類など、様々な種類のものを少しずつ植栽。「晩御飯のおかずやお庭でちょっとつまみなど、自宅で食べるにはこれくらいの分量がちょうどいいですし、彩りもきれいになりますね」と岡井さん



最大傾斜25度まで対応可能なロボット芝刈機「Miimo」が動き回る芝生広場。ポイントに見られるバラは白色系が中心で、庭景観によく調和する



ガーデニングショウ節目の20年目もコンビ健在。ポタジェをプロデュースする岡井路子さん(左)と、本田技研工業株式の香川信さん(右)



バラはもちろん、柵に這わせたクレマチスなど、白～緑を基調とした花が組み合わさり、優しくガーデンを彩る



新発売の乗用芝刈機「HF2417」。乗車撮影可能な写真映えスポットに

ファンケル 銀座スクエア 10F ロイヤルルーム

銀座・天空の庭で

色香に包まれ

安らぐひと時を

写真〃牛尾幹太

デザイン〃白水奈緒美

文〃編集部



(上) 写真右下から始まる恋物語は一気に燃え上がり、写真中央のピンクと白のゾーンで結婚。そして家族ができ、子どもが独立し夫婦は変わらぬ愛を誓います。今回のローズガーデンは、右から左廻りという一方通行で巡ることがポイントでした。白を中心としたパステル調の淡い色から始まったガーデンは、一気に色彩を強めながらピンクを経てまた落ち着いた色彩になります。長年連れ添ったご夫婦の愛の形に重なります。(右) 花の名前と花ことばが楽しめる演出は大好評でした。

ファンケル 銀座スクエア/春のガーデンイベント

ローズガーデン 2018

～恋バラ・恋ばな・恋結び～

2018年5月4日～11日開催

デザイン/村上 敏(京成バラ園ヘッドガーデナー)
協力/京成バラ園





ローズガーデン2018 恋バラ・恋ばな・恋結び

5月の大型連休に開催されたローズガーデン2018のテーマは「恋バラ・恋ばな・恋結び」。デザインを担当したのは京成バラ園ヘッドガーデナーの村上敏さんです。京成バラ園の新品種「恋結び」にちなんで、「恋」にまつわる花ことばを持つ花たちにより、恋が始まり、結ばれ、そして幸せな家庭を築くまでの心の移ろいを表現しました。中には「恋に悶える（アンスリウムの赤）」という激しい花ことばも。それぞれの花につけられた花ことばは、どれも納得できるから不思議です。

でも花ことばって、ひとつの花でいくつもの花ことばを持つものもあります。その時の気分や環境に応じて、自分の都合の良い花ことばを信じてみるのも楽しみ方のひとつかも知れません。ローズガーデン2018のもうひとつの感動は、今回のガーデンのシンボルともなった巨大な「二重葉結び」。お守りで使われるこの結び方には、願いが叶うという意味があります。来場したお客様の願いが叶うようにと、村上さんがロープを使いご自身で結びました。大変な作業だったことは容易に察しが付きませんが、お客様に幸せのお裾分けを少しでも持ち帰りただけたファンケル銀座スクエア春のローズガーデンです。



お互いの想いが結ばれ幸せいっぱいの笑顔
が浮かびそうな結婚をイメージしたエリア。
中央の大輪が新品種「恋結び」。

Love Story



(上) 恋が盛り上がっているエリア
は赤を中心にした高揚感いっぱいの
ゾーン。(右) 子どもが独立し、
夫婦だけの生活が始まります。こ
こでは感謝（ダリアの白）、思い
やり（ピンクのガーベラ）、成熟し
た愛（ベージュのパラ）といった
花ことばを持つ花たちが落ち着いた
愛を表現します。



“ほのかな思い”という花ことばを持つオールラ グランディフローラ、“あなた
だけを見つめてる” ひまわりなどから始まる素敵な恋物語は色が導きます。

ファンケル銀座スクエアを彩ったバラの饗宴

ローズガーデン 2018 の主役
「恋結び」



(上段左から) アンズリウム「恋に悶える」、白いユリ「凛とした愛」、ピンクのガーベラ「思いやり」、サボテン「枯れない愛」
(下段左から) 白いバラ「純潔」、サルビア「家族愛」、サンスベリア「永久」、白のダリア「感謝」、



ファンケル 銀座スクエア10Fロイヤルルーム 2018 ガーデンイベントのお知らせ

入場自由
無料

- 初夏のあじさいガーデン
6月1日(金)～8日(金)
- 実りのオータムガーデン
～ハロウィンの庭～
10月5日(金)～12日(金)
- ローズガーデン[秋]
11月2日(金)～9日(金)
- 早春の女神の庭
2019年2月15日(金)～22日(金)



撮影 牛尾幹太

会場／ファンケル 銀座スクエア 10F ロイヤルルーム 住所／〒104-0061 東京都中央区銀座 5-8-16
☎ 03-5537-0231 (代表／11:00～20:00) アクセス／地下鉄銀座駅 A3 出口より徒歩 1 分 <http://www.fancl.jp/sq/>



深町貴子流

ハーブを使って

眺めるだけじゃない植物の楽しみ方

企画・構成Ⅱ深町貴子＋編集部 取材Ⅱ阿部民子 写真Ⅱ牛尾幹太 協力Ⅱ養命酒製造株式会社 デザインⅡ白水奈緒美

マイガーデン読者が体験する 「深町流」ガーデンライフ

人と人がつながったり、日々の暮らしが少し楽しくなったり…植物を育てるを通して、そんな提案を発信している深町貴子さん。今号では、毎日の暮らしをひと味違ったものにしてくれるハーブとの付き合い方をマイガーデン読者2名に体験していただきました。ちょっとした工夫で、家屋やお友達が笑顔になれるワクワク、ウキウキの「深町流ハーブとの付き合い方」のレシピを紹介します。



ミントティーを飲みながら庭遊びを楽しむ。



深町さん 自宅の お庭拝見

果樹、野菜、ハーブ、さらには昆虫用の植物まで。深町さんのガーデンはまさに多種多様。植物同士の相性を考えた組み合わせ、その場の環境にあった植物の選定など、どれも参考になります。元気に生きる場所を与えられて、植物たちがワイワイ、ガヤガヤと盛り上がっているようです。



深町家の庭はハーブの中に野菜が点在。実はぜんぜん作り込んでいないとか。自分の暮らしにあると便利なものを揃えるそうです。カモマイルやヤローの花は花粉症対策に、ラベンダーは野菜に有益な虫を引き寄せています。ここに植えているのは全部、ぱっと摘んで使えるもの。



シンボルツリーはユズリハ。常緑樹ですが、枝ぶりの面白さを活かした剪定で、光と影を楽しんでいます。野菜は成長が早く、食べれば消えるので、小さな花壇は常に変化します。



深町さんの 庭に育つ植物たち

(※印写真＝深町貴子さん提供)





食べたり、飾ったり、育てたり。 ハーブを取り入れて 自分らしく楽しく暮らす。

自分のお庭でもたくさんのハーブを育て、毎日の暮らしに上手に取り入れている
深町さん。深町流のハーブの楽しみ方とアイデアを教えてくださいました。

深町貴子 Takako Fukamachi

園芸家。有限会社タカ・グリーン・フィールズ専務取締役。東京農業大学短期大学
部農業科卒業。病弱だった幼少期に植物から「生きる」意味を学び、「園芸で人を幸
せにすること」が人生目標。NHK「趣味の園芸 野菜の時間」や「あさいち」などでも
おなじみ。主な著書に『ベランダですずなり野菜』（カンゼン社刊）など多数。

【ホームページ】<http://www.taka-greenfields.com>

【動画チャンネル】Youtube「horti」で検索



自分のお庭で育ったハーブをブーケにしてお土産に。香りだけでなく、楽しい会話のきっかけづくりにも。

ハーブを育てていると、そばを通ったときはもちろん、風が吹いたり、お水をやるときにフワッと香りが飛んでくるでしょう。それが楽しいので、眺めているだけでなくて、どんどん利用することが大事。毎日触れていると、目がよく行き届いて、いつも元気に育ちます。

何を育てるか迷ったら、まずは自分の好きな香りや味のものを選ぶといいと思います。好きな香りが生活の中にあると、気分の切り替えにとっても役立ちます。たとえばローズマリー。覚醒作用があつて、受験勉強のときや眠いとき、気分が沈んでるときにパチッと目が覚めます。お花も可愛いのでちょっとケークに添えたり、枝が折れたらクルッと巻いて箸置きやナプキンリングにしてあげるとか、リースにしてお台所に下げてもいい。サンドイッチやソーセージに添えるとお料理が生きてくるし、見た目も使い方もいろいろ遊べます。

暑くなるこれからの季節には、ミントもお勧めです。ミントの葉を摘んでハーブウォーターを。びつくりするほど汗が引きます。そうやって自分らしくハーブのある暮らしを楽しんでいると、ちょっと素敵に暮らしている気分になさてくれるし、心の余裕につながる。そんなハーブマジックは、誰もが簡単に体験できることなのです。



【上】 ミントの葉を1枚はさんでギュッと絞ったおしぼりで、香りのおもてなし。ローズマリーの枝をクルッと丸めて箸置きに。

【左】 右はミネラルウォーターにキュウリ、レモン、レモンバームで作ったデトックスウォーター。左はフレッシュな清涼感が楽しめるミントウォーター。



【上】 レモンバーベナの枝をノートやハンカチにはさんでおくと、カバンの中にもさわやかな香りが広がる。

【左】 フレッシュなミントに熱湯を注いだミントティー。清涼感のある香りと味わいで体の中からスッキリ。



お庭のお悩み、 教えて深町さん

読者のお二人が、それぞれのお庭の写真を深町さんに見てもらいながら、お悩みを相談。もっと楽しむヒントとアドバイスをいただきました。「お庭って自分の鏡のようなもの。植物が元気なら私も元気ということ。お庭も自分と一緒に成長すると思うんです。大事なのは、無理をしないで、楽しみながらやることね。ちょっとお庭に出たり、お水をやるだけで気分の切り替えになるでしょう。毎日植物とおしゃべりする気持ちで、自分の生活を楽しんでほしいですね」



A すばらしいお庭ですね！自分らしいものを少しずつ積み上げていって、早川さんならではのお庭になっていると思いますよ。ハーブのアイデアにしても、ご自分の生活に上手に活かしてらっしゃる。今日もお庭に咲いたお花を持ってきてくださって、そういう心使いや気配りもすごく素敵ですし、こうやってお花を通じておしゃべりすることが心の栄養にもなっているでしょうね。ひとつアドバイスするとしたら、お庭は足し算じゃなくて、基本的に引き算だということ。植物が必ず大きくなるし、どんどんにぎやかになって主張が強くなってくるんです。どこを引いていくかを考えながらお庭づくりをするといいですよ。

【Question】 早川すみ子さん
お庭を始めて20年余り。自分でレンガを敷いて、装飾物のドアなども全部手作りしました。キッチンの窓際にはハーブをハンギングして、必要なときに採れるようにする工夫もしています。ちょっとゴテゴテ気味かなという点が気になります。



A お子さんが小さいときは自由に遊べるように、たとえばガーデンモスのような柔らかいものや、うちの庭のようにクルミのチップを敷いておくと、お子さんが歩いても痛くないし美しさも保って雑草防除にもなります。緑が欲しければ半立性か這性のタイムを部分的に植えても良いと思います。伸びてきたらどんどん料理に使いましょう。リースにして飾っても素敵です。栽培に手間をかけなくてもよく育ち、家族の健康をサポートしてくれるハーブを育ててみない？ジンジャーなんかどう？。自家製はとても良い香りなの。料理も良いけれど、ジンジャーティーは発汗を促し、かぜをひいたときにもおすすめです。

【Question】 阿部寛子さん
子どもが小さくてまだ手がかるので、お庭をやりたくても、なかなか手が回りません。とりあえず前から育てたかったモッコウバラを植えたらすごく大きくなっちゃって…。何からやればいいのかも、よくわからない状態です。





深町さんに教わって ショウガを 植えてみました

お土産に、ショウガのプランター植えを用意してくれた深町さん。お二人に植え方レッスンも行いました。「プランター栽培に向くのは小ショウガ。まずはお家の中で濡れた新聞紙の上に置いてビニールをかぶせ、芽を出しておきます。プランターの内側には印をつけて(写真下)、1番下の印まで培養土を入れたらタネショウガを置き(写真上)、次の印まで土を入れたら、植え付け完了。葉が6~8枚になったら次の印まで、16~18枚になったらまた次の印まで土を足して水やりするだけ。夏には葉ショウガができますよ」のお話で、早川さんと阿部さんも大喜びでした。



【上】タネショウガは芽が出たほうを上にして土の上に置く。【下】プランターには、上から3cm、3cm、3cm、5cmの深さに印をつけておく。



早川さん手作りの夏みかんビールと、深町さんお手製の新ショウガのシロップ漬けをサイダーで割った自家製ジンジャーエールでひと休み。「お庭にあるもので、こんなふう楽しめるって素敵ですね」と阿部さん。

ハーブの香りを活用して心身のバランスを整えましょう

香りは本能的な行動や情動を支配する大脳辺縁系と呼ばれる部分に、一瞬でダイレクトに伝わります。さらに香りの情報が脳の視床下部に伝わることで、自律神経系、ホルモン系、免疫系という体の3大自動調節機能に影響を与え、気分をリラックスさせたり、ストレスを軽減したりして、心身のバランスを整えてくれます。

ハーブの香りの効果と症状に合わせた活用法

- ラベンダー / 筋肉を緩めリラックス効果⇒肩こり、緊張型頭痛
【使い方】キャリアオイルで精油を1%に希釈して首筋や肩をマッサージ
- ローズマリー・レモングラス / 覚醒効果、リフレッシュ効果⇒朝の眠気やだるさの解消
【使い方】浴室の床に精油を1滴垂らしてシャワー・精油を洗面器に1滴垂らして洗顔
- タイム / 抗炎症作用⇒のどの痛みやかゆみに
【使い方】乾燥したタイムを薄めに煮だしたハーブでうがい



香りの分子が鼻の奥の嗅上皮に付着、その情報が新皮質を経由せずダイレクトに大脳辺縁系に伝わる。(解説 = 養命酒製造株式会社)



羽村は、花と水のまち

「農家と市民の想いがつくる
チューリップまつり」

東京都羽村市、山の裾野に広がる市内唯一の水田が
春、色とりどりのチューリップが咲き乱れるお花畑に大変身！
農家の指導の下、小さなお子さんから大人、そして市外の方も含め、
約800人におよぶボランティアさんが球根を植え込み、
プロである農家の皆さんが維持管理を担い、一生懸命育てています。
羽村の皆さんが一丸となって支える『チューリップまつり』の魅力に注目します。



ここは羽村市内唯一の水田地帯「根がらみ前水田」。内3.2haという広大なフィールドでチューリップが開花します(*)

文／編集部 写真／編集部、羽村市観光協会*



【次年度に向けての「品種選び」】

花畑の一区画では、ちょっと独特な花色や形をしたチューリップが多く見られます。これは、次年度のチューリップまつりを見据えたテストのようなもの。これらの花の中から来場者人気はもちろん、開花期間や丈夫さなども考慮し、次のまつりの主役となる品種を厳選するのです。「常に勉強しながら毎年何かしらのアレンジを加え、次の年もまた来たいくなるような花まつりを目指しています」と清水亮一さん。

春の新緑をバックに、様々な色形のチューリップが咲き誇るお花畑。ここが実は田んぼであり、秋には一面金色の稲穂に覆われるとは想像がつかないですね。立川より青梅線で約20分、東京都西部に位置する羽村市では、毎年4月になると関東屈指の規模を誇る『チューリップまつり』が開催されます。色とりどりのチューリップは、子どもから大人まで地元住民の方々が農家と共に球根の植え込みをし、芽生えてからの草取りなどのお手入れは農家の皆さんが行います。まさに、羽村市民の皆さんの手づくりで育てられたお花畑！ 言うなれば、羽村市の皆さんによるオープンガーデンなのです。

あくまで「米づくりの裏作」として育て



何百何千とある品種の中から期間中に咲くものを農家の目で厳選し、色合いなども熟考。配色については、市の女性職員からアイデアをもらい、女性目線を取り入れるなどの工夫をしています

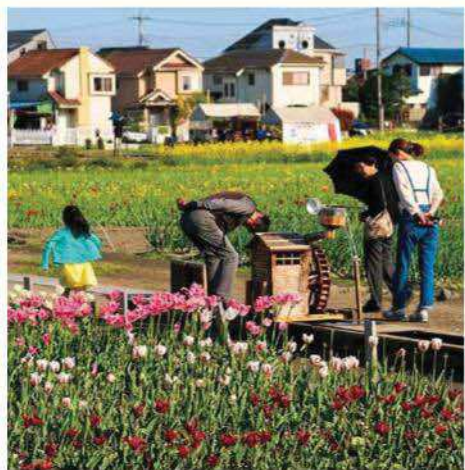
られるこのチューリップ畑ですが、植物のプロである農家の方が懇切丁寧にお手入れしているだけあり、毎年力強く美しく開花します。チューリップ生産組合所属の農家として長らくイベントを支えている清水亮一さん（チューリップ生産組合組合長、羽村市観光協会副会長）は「元々は街中にチューリップを植えていたのですが、球根を育てるために開花中に花を切ってしまうのが「もったいない」という市民の声があり、やがて羽村市からの援助もあつて今の形のチューリップまつりになりました。現在は1㎡あたりの最低限の株数を定めており、そのおかげもあつて花の密度は関東屈指の高さ。訪れた皆さんからいただける「きれいだね」の一言が何よりのやりがいですね」と語ります。その密植度の高さや来場者を飽きさせない品種選びなどの努力が評価され、昨年には東京都農業会議会長賞と全国農業会議所会長賞を受賞しました。

約20日間の開催で、近年では全国から毎年約10万人の方が足を運ばれています。

『皆で花を育てる』ことが財産

元々は昭和58年からスタートした市の『花いっぱい運動』の一環として始まったチューリップ栽培。平成13年から今の形でチューリップまつりが開催され、年々規模も来場者数もアップしています。長く継続し、毎年美しいチューリップを見せることができるのは、やはり市民の皆さんがガッチリと連携し、一緒に花を育てているから。地元の幼稚園や小学校の子供たちが球根の植え込みや掘り起こしを行い、農家の皆さんがお手入れし、市と観光協会がまつりを運営する……この横のつながりこそがチューリップまつりを支え、街を元気にする力の源なのです。現在は市外の方も参加できる「チューリップオーナー制度」が採用され、誰でも球根の植え付けや掘り起こしに参加できるようになっています。

また、毎年同じ場所で花を育てることで、卒業後も子供たちが顔を合わせる良い切っ掛けになり、植物を愛する優しい心を育むことにも繋がっています。花が人を繋ぎ、繋がり合う人たちの手で花はより美しく咲く……羽村のチューリップ畑には、理想のガーデンづくりのヒントがあるのかもしれない。



米つきや藁打ちなどに使う、水車の体験モニュメントも。水をかけると実際に回転し、来場者の皆さんも興味津々。田んぼならではの仕掛けです



水田では7～8月に大賀ハスも開花(*)



右/6月、チューリップが終わったら田植えを開始(*) 左上/青々とした水田と深緑の組合せも見事(*) 左下/10月の稲刈りにも子供たちが参加(*)



(一社) 羽村市観光協会

活動場所／東京都羽村市羽東1-13-15
羽村市観光案内書
Tel／042-555-9667
営業時間／8:30～17:00(土日祝休業)
Mail／info@hamura-kankou.org



貴重な水田であるとともに、一面に咲くチューリップがにぎわいを創出する『根がらみ前水田』。老若男女、市の内外から人が集まり、一面の花景観を楽しまれています(*)

羽村で見つけたすてきなカフェ

古本喫茶 まいまいず文庫

写真・文／編集部



喫茶コーナーで暖かいコーヒー・紅茶などを片手に、お好きな古本を楽しめます。冬には昔ながらの暖炉でポカポカ



お店の名前の由来は、すぐ近くにある東京都指定史跡「まいまいず井戸」から。かつて人々の集まる場であった井戸にちなみ、誰もが気軽に立ち寄ってつづげる場にしたいという思いが込められています。本はもちろん、幸子さんこだわりのインテリアもご覧ください

オーナーの羽村幸子さんは、以前からやりたいと思っていた古本喫茶を2015年に開店しました。
幸子さんが買い付けた古本と、地域の人から買い取った古本が並び、喫茶ではほっこりする飲みものと手作りクッキーを提供しています。
気に入った本があれば店内でゆっくりお茶を飲みながら読み、買うこともできます。（新刊も取り扱っています）
また、読書会など本のイベントや催し物会場としても利用され、楽しい持ち込み企画をいただくこともあるのだとか。
多彩な催しをお客様と一緒に楽しめる、地域密着のカフェです。

まいまいず文庫 Information

住所／〒205-0011 東京都羽村市五ノ神1-7-7
ヴィラ多摩ビル102

Tel・Fax／042-849-1058 定休日／火曜

営業時間／15:00～21:00（平日）、
12:00～19:00（土日祝）
※イベントなどにより営業時間が
変わることがあります。

アクセス／JR青梅線「羽村駅」東口より
徒歩2分（駐車場なし）

URL／<http://maimaiz.wixsite.com/maimaiz>



コーヒーと手作り塩ちんすこう。
本と共につづろぎの一時を



はむら
羽村 幸子さん

神戸出身。私の人生の三冊：
「チャップリン自伝 若き日々」
「二十歳の原点」「精霊たちの家」

“オープンガーデン前線”を追いかけて
**オープンガーデンを
たずねました**

取材：2018年4月19日

宮田司さんの庭

き ま ま ゾう か
木間々な雑花ガーデン

写真／編集部、宮田司*

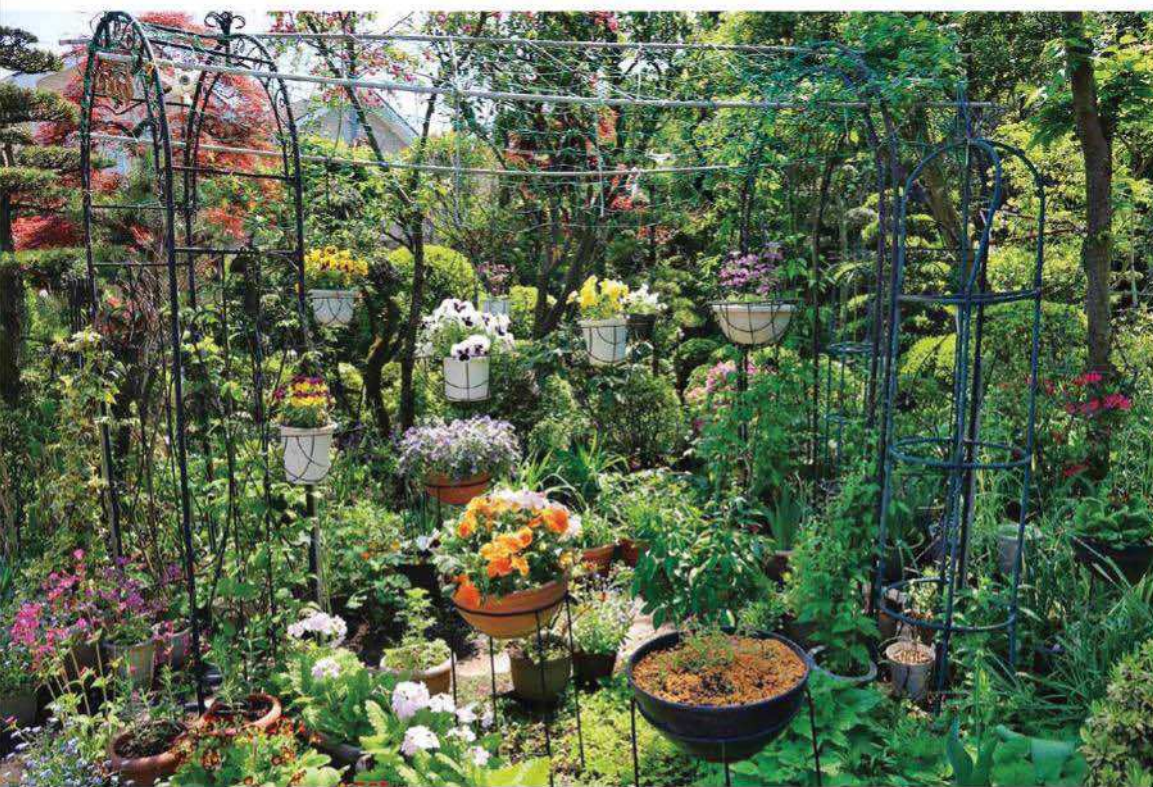
東京都羽村市「オープンガーデンはむら」

元羽村市観光協会会長からお誘いを受けてオープンガーデンを始めたという、現会長の宮田さん。今では、年間通じて季節の花が楽しめる素晴らしいお庭に。「雑花ガーデン」と自称する通り、数えきれないほど多種多様な植物が植えられています。

春、門をくぐってまず目に入るのは、パンジー・ビオラなどをたっぷり咲かせる花壇と、同じくあふれんばかりに開花した鉢植えやプランターたち。鉢植えは棚やアイアンを有効利用して縦に展開し、限られたスペースの中で立体的に花を魅せる工夫がなされています。足元に目を向ければ、ちよつと珍しい日本の野の草花の姿も。自生ランとして人気の高いエビネや、パステル調の小輪花を咲かせるサクラソウ、ユニークな形状のイカリソウなどが見られ、しかもその色や形のバリエーションが実に多彩！山

野草ファンも満足できる豊富なラインナップです。「ここは花の種類がとて多いので、鶏糞や牛糞などを配合し、それぞれの植物に合う培養土を自分でつくっています」という宮田さん。その笑顔からは、自然派ガーデンを心から楽しんでいることがありと伝わってきました。

上／宮田さんのお気に入り。居間から眺めるガーデン 下／所狭しと生える草花。樹木の隙間から差し込むやわらかな光が、一層ナチュラルな雰囲気を演出





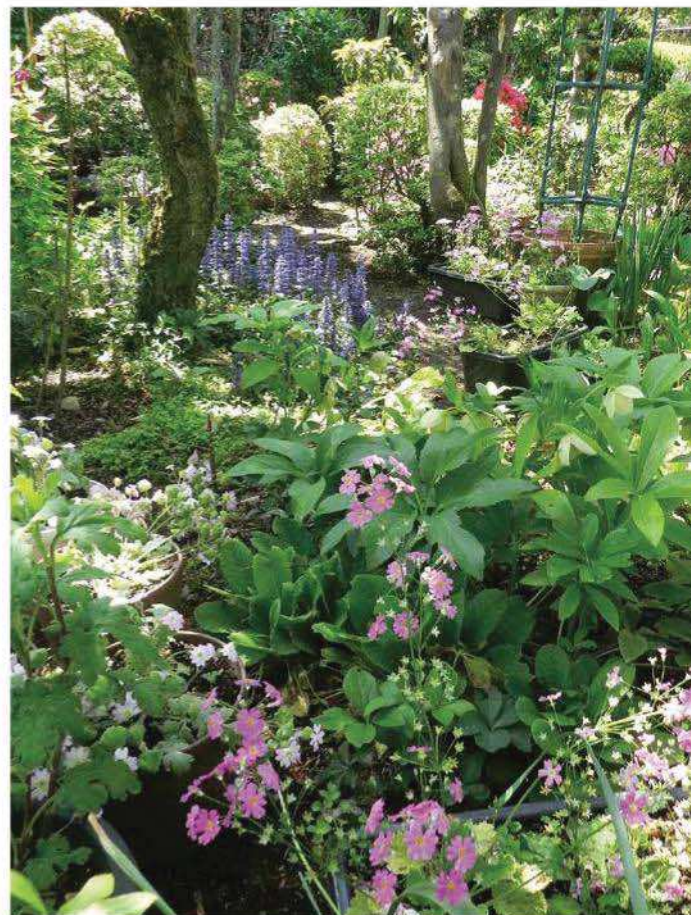
玄関前を彩る草花。構造物を活かして立体的に展開



現在、羽村市観光協会の会長を務める宮田さん



1/イカリソウ(左下)と共に咲く純白のサクラソウ 2/シャクナゲ 3/エビネは多彩な色が見られる 4/足下に群生するキバナオドリコソウ。ちなみに羽村市には「踊子草公園」という公園がある 5/王道のピンク色のサクラソウ 6/オダマキ 7/大輪のボタン(*) 8/お庭に華やかさと木陰をもたらす、満開のシダレザクラ(*)



木漏れ日の差す空間。まるで森の中にいるかのよう

島田弘道さんの庭

和の家屋を背景に 数多のバラが咲き誇る

写真／編集部、島田弘道*



公道に面した空間は、生け垣を取り除いたことでよりオープンかつ見応えのある花景観に

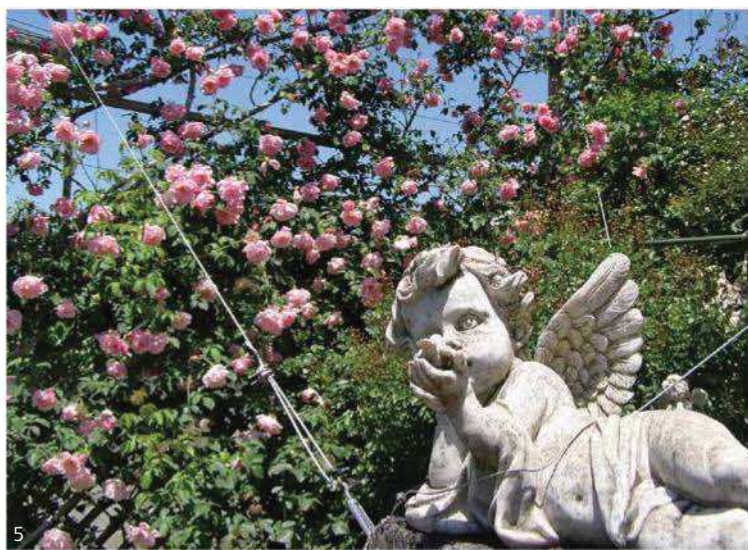
オープンガーデンはむらの発案者の一人でもある島田弘道さんは、和の趣が色濃かったそれまでの庭園に、つる・株立ちのたくさんバラを取り入れてリニューアル。昔から生えていた豊富な下草も活かし、ジギタリスやクレマチスなどのバラによく合う植物も植えて、華やかさと情緒の共存するガーデンを作り上げました。

ここには道路と庭を隔てる生け垣があったのですが、オープンガーデンを始めるにあたって取り払いました。庭の生け垣は心の垣根。道路から庭がよく見えるようにしたら、通りかかる人からご挨拶されたり、お声がけいただく機会が大きくなったのが嬉しいですね」と語る島田さん。キッチンガーデンで高さ約4mにまで成長した『スパニッシュビューティー』は特にお気に入り。バラで、高い所はやや苦手と言いつつも、今でも脚立に登って自ら花殻摘みなどに勤しんでいます。道路から覗いてみると、熱心に花と向き合う島田さんの姿をお見掛けするかも？



上／明治時代に建てられた島田さん邸。庭先にもバラを始めとして草花がたっぷり 下右／大きく成長して枝垂れる野バラは、香りも豊か 下中／かつての和風庭園の雰囲気も随所に見られる 下左／公道から邸宅へのアプローチは、春、バラでいっぱい(*)





1/ サクラソウの仲間 クリソソウが色々な所で見られる。「意外とバラに合うんですよ」と島田さん
2/ バラとの組合せでは王道のジギタリス
3/ 前回の東京五輪開催を記念し作出されたバラ「聖火」。島田さんのお気に入り(*) 4/ ゆとりとくつろぎの空間「ゆとろぎ」。同名の施設が羽村市内にある 5/ お庭でもとりわけ大きなバラ「スパニッシュビューティ」(*)

オープンガーデンガイドブック(2016~2018年度版) 在庫僅少です!

【オープンガーデンガイドブックとは?】

マルモ出版より好評発売中! 北は北海道から南は沖縄まで、花と緑にあふれる個人のお庭を一堂に紹介するオープンガーデンのガイドブック。265軒・224ページにわたり、日本全国のオープンガーデンの情報が1冊に詰まっています。
全国のガーデンや公園、花の施設などをまとめた「日本全国花めぐりの旅〜花の名所・施設めぐりマップ〜」も掲載!花を訪ねる旅行にはぜひお持ちいただきたい1冊です。

通常定価

¥1,200

特別価格

→ **¥1,000** (税込・送料無料)

※マルモ出版に直接お問合せ頂いた方限定で、特別価格でご提供します

【ご注文・お問合せは】TEL:03-3496-7046 E-mail:maru@marumo-p.co.jp



「できれば今後は、外堀をハンギングバスケットなどで彩っているような方にもオープンガーデンに加わってほしいんです。一緒に花であふれる街を作っていきたいですね」と島田さん

ターシャ・チューダーに憧れて ―夏編―


命の息吹を感じる

都会のオアシス

―森田さんちのオープンガーデン―

構成・文／阿部民子
写真／牛尾幹太





玉川上水のほとりに位置する森田さんちのガーデン。
武蔵野の豊かな緑と森田さんが何年もかけて育んできた
ナチュラルな草花が伸び伸びと茂るこの庭は
個人の庭でありながらもいつでも誰もが
自由に草花を楽しめる場所。
森田さんのおおらかな人柄が現れるような
真のオープンガーデンです。

家族や友人と一緒に楽しむ
誰にも開かれたガーデン

武蔵野の面影が残る東京・小平市。森田光江さんのガーデンには、いつも友人や家族、草花を楽しむに訪れる人の姿が絶えません。

「春になると、スイセンが咲いて、チューリップが咲いて、その後は真っ白なカモミールでいっぱいになるの。みなさんがフレッシュなカモミールティーを飲みに来てくれるのがすごくうれしいのよ」と森田さん。個人の庭でありながら塀や門は一切なく、誰でもいつでも自由に出入りして、豊かに育つ植物を眺められるのも、森田さんちのガーデンならではの特徴です。

子供や孫が自由に走り回れるように、と無農薬・化学薬品

を使わずに育てた植物は、どれも元気いっぱい。こぼれダネも自由に育つ場所を与えられ、生き生き、伸び伸びと自分らしい美しさを謳歌しています。

果樹が多いのも、このガーデンの魅力です。友人から譲り受けたグレイプフルーツは、20年目にして一昨年初めて実をつけ、今年も花がいっぱい。孫が給食で食べた実から育ったビワも、大きく枝を伸ばし青い実をつけています。ブルーベリーのなる時期は、お客さんに自由に摘み取りをしてもらい、ジャムなどにして楽しんでもらうのだとか。

「近くの養護施設の方たちにも、摘み取りに来ていただくの。みなさん、毎年すごく楽しみにしてくださっていて、カモミールのお茶を飲んで、笑顔で楽しんでくださるのよ」と森田さん。このガーデンと森田さんを中心に、暖かな人の輪が大きく広がっています。



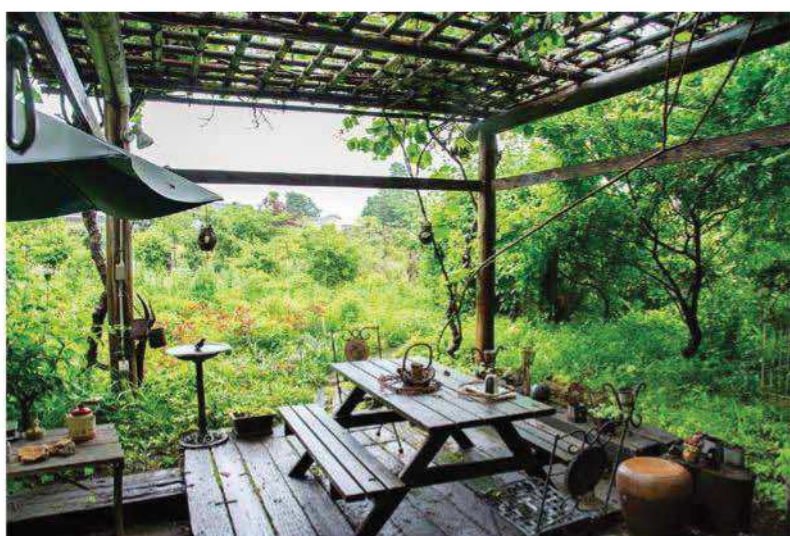
上／ひ孫の葉生ちゃん(2歳)は、このガーデンが大好き。庭仕事をする森田さんの後をついて草花の間を自由に走り回り、泥遊びや昆虫探しなどに夢中だとか 下右／今年、柱を新しくしたガゼボ。これからの季節はシラーやキバナコスモス、コキアなどが次々と顔を出す 下左／庭を開放し、友人たちに自由に楽しんでもらっている森田さん。陶芸好きな友人はそここに作品を飾り、オープンギャラリーのよう



ガーデンの一角にあるビニールハウスは、10年前に亡くなったご主人が建て、友人が毎年ビニールを張り換えてくれている。冬も35度の世界で、ボランティアをしている「花いっぱい運動」で交換する花の育苗をしたり、読書をして過ごす森田さんお気に入りの場所



淡いピンクのアグロステンマは、友人からもらった1本の苗から増えて見事な群生に



ガーデン奥にある友人手作りのパーゴラ。天井にはキウイを這わせ、冬にはたわわに実る



森田 光江さん(上: 森田さん提供)

小平市花いっぱい運動の役員として、地域の緑化などの活動をしている。

東日本大震災のボランティアでは、毎年花を植える活動や三陸わかめの加工場の手伝いや販売にも尽力。保護司として更生活動にも力を注いでいる。

1/香り高い花が紫から白へと変化するニオイパンマツリ
2/風になびく姿も愛らしいアグロステンマ 3/ターシャも大好きだったシャスターデージー 4/優しい紫色のカンパニュラ 5/純白のコデマリ 6/毎年たくさんの実をつけるブルーベリー 7/純白のシラン 8/うつむいて咲く姿が愛らしいシラン



友人がトールペイントで作ってくれたキッチンガーデンのシンボルにもなっているボードの周りにも、カモミールがいっぱい



リベイドE500の出力は1台で500W。2台を専用の並列運転コードで並列接続すれば、900Wの電気ポットなども使用可能

Happy Garden Life

ガーデンライフ in 小平

構成・文／阿部民子
写真／牛尾幹太

爽やかな戸外で家族と季節の花を楽しむ

4月から6月にかけて、小平市の森田さんちのガーデンは、ガーデンのシンボルフラワーにもなっている真っ白なカモミールで彩られます。散策して花に触れるたび、爽やかな香りが舞い立って気持ちまでスッキリ。フレッシュな花は、カモミールティーにして、オープンガーデンに訪れたお客様にふるまったり、家族や友人と楽しめます。

そんなときに活躍するのが、ホンダのハンディタイプ蓄電機「リベイドE500」。好きな場所で電化製品が使えるので、電気ポットでお湯を沸かし、爽やかな空気の中で花を眺めながら熱々のお茶をいただけます。

「デザインがおしゃれだし、ハンドルが大きくて持ち運びにも便利。カラフルな色も緑に映えるわね」と森田さん。家族や友人と、楽しい会話がさらに弾みそうです。



「耕うんって大変なイメージがあったけど、これなら楽しい!」と春菜さん

ガーデンの一角にあるポタジェで、季節の野菜を育てている森田さん。今日は、夏野菜を植えるために、孫娘の春菜さんが葉生くんを連れてお手伝いに訪れました。森田さんお気に入りの、フレッシュオリーブグリーンのホンダのガスパワー耕うん機「ピアンタFV200」を使えば、力のある耕うんもあっという間。「こんなに楽にできると思わなかった」と春菜さんも笑顔で耕うん終了。葉生くんのためのスイカをはじめ、ピーマンやトウガラシなどの苗を植え、夏の収穫を楽しみに待ちます。



白花と赤花のサヤエンドウ、スナップエンドウの収穫をする森田さん。支柱に人工物を使わず、ガーデンの木々を剪定した枝を使うのもこだわり

ピアンタ、リペイドのお問い合わせは
本田技研工業株式会社 お客様相談センター

0120-112010

ホンダ ピアンタ

検索

ホンダ リペイド

検索

1/カモミールはフレッシュなまま摘んで小分けして冷凍し、友人や訪れた人におすそ分けする 2/ほんの10分ほど摘んだだけで、愛用のアンティークの籠いっぱいサヤエンドウ 3/ポタジェの収穫物は、美味しい保存食に。右からコケモモのシロップ漬、サクラソノの焼酎漬、ラッキョウの酢漬 4/友人が管理に困っていた竹藪に出かけ、米袋11袋ものタケノコを収穫、友人たちに配って歩いたという森田さん。味つけて冷凍しておけば、好きな時にタケノコご飯ができる

HONDA

見て、育てて、味わう

ポタジェは自由に楽しむ ガーデニングスタイル

ポタジェとは、庭だから草花や樹木を、家庭菜園だから野菜やハーブを植えるといった固定観念にとらわれることなく、野菜やハーブ、草花、果樹など自分が好きな植物を選び、種まきから収穫までのすべてのプロセスを見て、育てて、味わうことを楽しむガーデニングスタイルです。

ポタジェに決まりはありません。食べてみたいと思う野菜やハーブを、育ててみたいと思う花を植えていけばいいのです。家庭菜園や庭はもちろん、たとえ軒下の狭いスペースやベランダのプランターであっても、きっとたくさんの楽しさに気づくはずですよ。

ポタジェの楽しみのひとつは、旬の野菜のほんとうのおいしさを、またお店で売っていない野菜やハーブを家庭で堪能できること。採れたての野菜やハーブでつくるサラダは、食卓を彩る極上の一皿です。

植物は、CO₂を吸収して酸素を供給し、荒地を緑の大地に変える、なくてはならない存在。私のライフワークであるオリーブがそうであるように、多くの植物が古代から人間の生活のあらゆる分野に深く関わっています。少し疎遠になった花や緑と、もっと親しく、もっと自由にお付き合いするライフスタイル、それがポタジェです。



ガーデニングカウンセラー

岡井路子さん

主婦の視点から毎日の暮らしのなかで、無理なく楽しめるライフスタイルとしてのガーデニングを提案しています。オリーブの研究者としても知られ、国際バラとガーデニングショウのHondaブースやHonda ハローウッズ ポタジェガーデンのプロデュースも手がけています。



Honda HELLO WOODS' **ポタジェガーデン**

Hondaハローウッズ ポタジェガーデン

Hondaは日本最大級のガーデニングイベント「国際バラとガーデニングショウ」に出展し、誰もが楽しめるポタジェスタイルのガーデニングを提案しています。そのコンセプトのもとで誕生した Honda ハローウッズ ポタジェガーデンは、ツインリンクもてぎ内の自然体験施設・ハローウッズに開設したポタジェスタイルの菜園です。

ポタジェスタイルのガーデニングをサポート Flower and Greens with Honda

ガスパワー耕うん機
ピアンタFV200
(カセットガス燃料)



サ・ラ・ダCG
FFV300
(カセットガス燃料)



ガスパワー発電機
エネポ EU9iGB
(カセットガス燃料)



ロボット芝刈機
ミーモ HRM520



Honda 製品のお問い合わせは お客さま相談センター ☎0120-112010

BERKLEY
GARDEN LIGHT

緑に溶け込む高音質。



**Bluetooth® 対応 屋外用
高音質フルレンジスピーカー**



屋外照明メーカーだからできた、屋外に常設できる耐久性と高い音質を両立した全く新しいタイプのスピーカーです。お庭やテラスで過ごすあなたの時間に、上質なBGMを加えましょう。

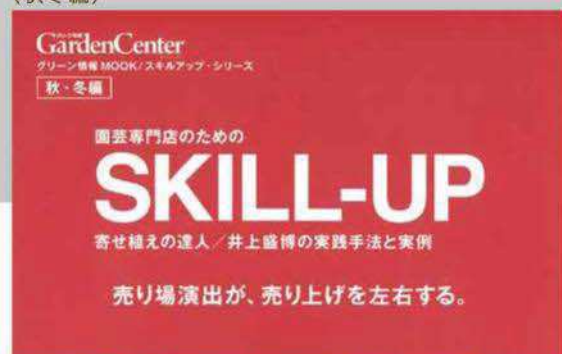
詳しくは下記HPをご覧ください。
<http://www.berkley.co.jp>



**ガーデンライトシリーズも好評発売中！
バークレージャパン株式会社**

〒102-0084 東京都千代田区二番町11-3 相互二番町ビルディング別館
TEL: 03-6261-3942 FAX: 03-6261-3943 Email: info@berkley.co.jp

〈秋冬編〉



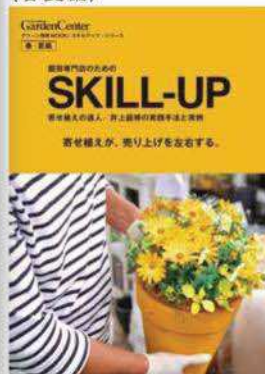
園芸専門店のための

SKILL-UP

寄せ植えの達人 井上盛博の実践手法と実例

大人気園芸専門店「オニヅカバイオシステム」の井上盛博店長による寄せ植え本が誕生！プロが作る寄せ植えのテクニックを事例を交えて分かりやすく解説。さらに、園芸店スタッフに向けて寄せ植えを使った効果的な売り場づくりも紹介。プロ・アマ問わずに楽しめる新しい寄せ植えの教科書です。 A4判／オールカラー 各¥2800＋税

〈春夏編〉



大人気園芸店に学ぶ
寄せ植え＆売り場演出



株式会社グリーン情報 名古屋市西区名駅 2-25-10 ヤマエイビル 4 階 TEL: 052-571-2200

こちらで販売中
amazon

【最終回】大使、大使夫人による

10カ国のガーデニング

文・写真／白砂伸夫
開催場所／ホテルオークラ東京

ホテルオークラ東京で2000年から開催されてきた大使、大使夫人によるガーデニングも今年で18回目、過日のゴールデンウィークをもって最終回を迎えました。



高円宮妃久子様を迎えてのオープニングセレモニー



各国の庭園を高円宮妃久子殿下にご案内する白砂



メキシコの建築家、ルイス・バラガンの庭をモチーフにしたアルマーダメキシコ合衆国大使夫人の「彩り豊かな庭園」



上・左下／ハガティアメリカ合衆国大使夫人の「友情の花」、青い花の海に架けられた花のゴールデンゲートブリッジはアメリカと日本の友好を結ぶ架け橋を象徴



チリキ高地のコーヒー農園と豊かな自然を表現した畑田パナマ共和国大使夫人の庭



ヴェアテルン ドイツ
連邦共和国大使夫人
の庭は花とハーブに囲
まれた「修道院の庭」



ベネデティ、イタリア共和国大使夫人の庭はバラやオレンジに包まれた「香しい庭」

チュニジア共和国ダラジ大使夫人の庭は「カルタゴの夢」。古代へと夢が膨らみます

バラの国、ブルガリア共和国コストヴァ大使夫人の庭は「バラの魔法」





ブマコフモルドバ共和国大使夫人の庭は、自然との調和を目ざした自宅の庭を再現



オーストラリア連邦のコート大使夫人の庭はパースにあるユーカリに包まれたコテージ



ラトビア共和国大使、
トレイア=マスィーの
庭は夏至祭の夜の魔法
がテーマ

会場のデザインについて

今までを振り返ってみると、84カ国180人の庭をデザインしてきました。庭園のデザインは大使、大使夫人と庭について語りうあうところから始まります。お話をしながらイメージを固め、1枚のスケッチを描き、このスケッチに基づいてイメージを具体化していきます。空間の構成は、それぞれの庭が互いに響きあい、会場全体が交響楽のような一つの大きな庭園になるようにデザインします。

同時に、ここに展開される様々な庭園のスタイルは、実際にガーデニングを楽しむためのモデルともなるようにデザインしています。花の選び方や組み合わせ方、色差の配色など、みなさまの庭のアイデアの1つとしてお役に立てたのではないのでしょうか。

高円宮妃久子殿下には18年間、毎回ご高覧頂きました。主催者であるホテルオークラ東京のスタッフの皆様、花の調達、ガーデンづくりを熱心にご担当いただいた皆様に心からお礼を申し上げます。



さかきばらはちろう

榊原八朗

1944年静岡県生まれ。1967年東京農業大学造園学科卒業。1967年～1972年（株）東京庭苑にて小形研三氏に師事、1972年～1975年米国オレゴン州ポートランドの日本庭園設計監理に従事。2004年～2014年、明星大学デザイン学科教授。代表作品は「東京ミッドタウン・檜町公園」「六本木ヒルズ・毛利庭園」「国営立川昭和記念公園日本庭園」「福徳の森（日本橋）」、住宅庭園多数。

榊原八朗さんのガーデンデザイン講座

第8回 観賞本位の蹲踞^{つくばい}②

文・資料提供／榊原八朗

建物の様式や庭の広さに関係なく、和風を表現できるデザイン素材と言えば蹲踞が一番人気と言えるでしょう。千利休が考案したと言われる蹲踞は茶庭に設けられましたが、当時は水道がなかったもので、その都度水鉢に水を注いで使われていました。明治期に水道が布設され、昭和初期頃から普及が進み「寛」が蹲踞に加わり現在の形になりました。青竹の寛から流れる水鉢の波紋と水音は自然の心地良さを感じさせてくれます。また、寛は水を注ぐためだけでなく自然の景色を想像させる要素も含んでいることに着目しましょう。「寛」と「役石」そして「鉢かまち石」等、マ

ニユアル化した役石の使い方に固執しないで自由で創造性に富んだ蹲踞造りに挑戦してみましょう。また、蹲踞は蹲踞に寄り付く為の飛び石や園路などの機能導線が必要になります。この導線は景観美としての優劣を決定的にするので、その用い方、線形のあり方、遠近の見方、そしてデフォルメなど、美的効果を考え豊かな創造力を養いましょう。

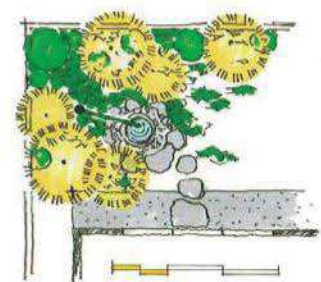
1. 山手と下手について

庭の構成で、景色を盛り上げる所と、そうではない所の関係を重点構成の形式と言います。その重点を左側におけば、「左勝手の構図」右ならば「右勝手の構図」であることは以前お話ししました。重点は山手側、非重点を下手側、いわゆる山手は高台で下手は平地と解釈して下さい。水は山手から下手に向かい、長い水路を経てやがて海に到達します。この一連の形態の中で美しいと思う自然の一部を切り取り、美的に表現する事がデザインの基本形だと思っています。それは、デザイン素材や庭の広さによって、山手だからと言って土を盛って高くするというのではなく、滝や溪流そして蹲踞など、添景物と植栽の濃さで山手を表現する事です。

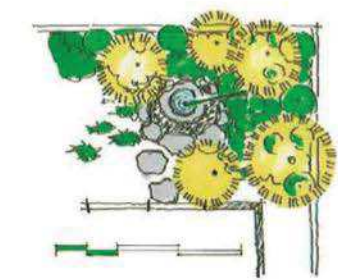
2. 寛の役割について

蹲踞に注ぐ寛は山手側に配し下手側に向かわせる事が理にかなった構成と言えるでしょう。上水や井戸水は配管次第で好き勝手にどこでも引くことができるので、寛と蹲踞だけに捉われないように庭の重点構成を考え、寛の向きと方向性に留意しましょう。例えば、右勝手の構図ならば右側が山手になるので、寛の位置と方向は山手側になります。寛の水源は山からの伏流水を引き込んでいるかのように見える事によって自然を

感じさせるのではと思います。



左勝手の構図：山手の伏流水を引き込んだかのように見える寛の位置と向きに留意



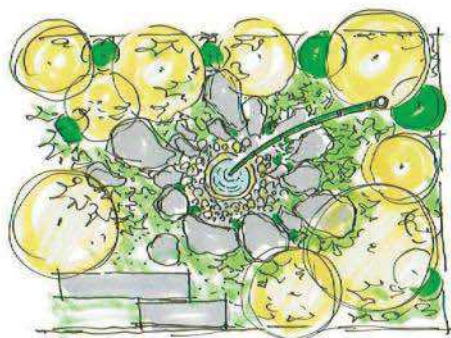
右勝手の構図

3. 役石

蹲踞は、水鉢を主に、前石、手燭石、湯桶石、鉢かまち石で構成したものを指します。これらを役石と言います。茶庭以外の観賞用であれば、特に湯桶石と手燭石のどちらかを大ぶりにして近景を強めると景色が深く見えます。

4. 鉢かまち石

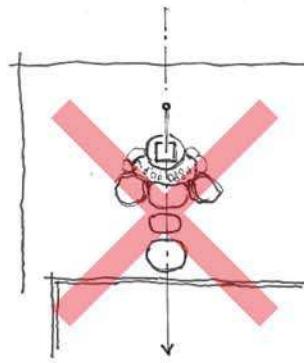
蹲踞の構成には、鉢かまち石の使い方によって、中鉢形式と向う鉢形式があることは以前お話ししましたが、この項では、中蹲踞の鉢かまち石の使い方をスケッチで表現してみました。



水鉢を中心に置き、全てのかまち石はこの鉢に向けて、すり鉢状の形にして鉢を象徴的に見せる表現

5. 蹲踞の構成で留意すること

建物に対して蹲踞と笕を一直線状真正面に向けた構図をよく見かけますが、この形は人工形に近く自然形ではありません。蹲踞は自然石を使うので同じ石はありません。また、役石も同質同大にしないので人工形になりません。従って、人工と自然いずれにも属さない曖昧な形となります。伝統的な蹲踞の形だけを模倣すると貧相になります。自然の形態を熟慮し、庭全体の景色の表現に留意することをお薦めします。



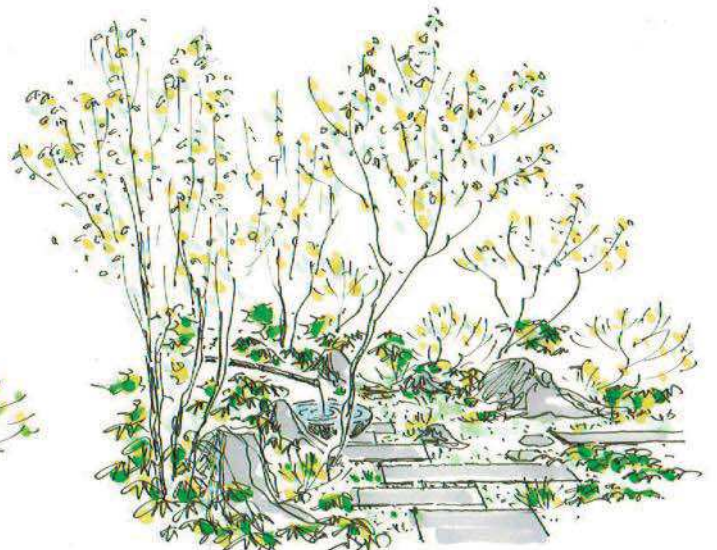
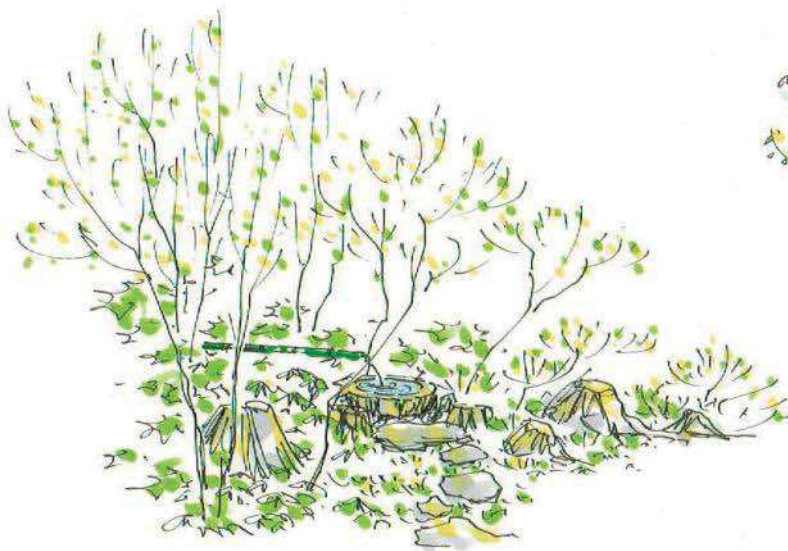
デザインの基本を逸脱している形

*イメージスケッチ

下の4枚のイメージスケッチは、雑木を主にした自然風の雰囲気表現しました。右勝手と左勝手の構図で、山手から下手に向かう樹木の幹反りと氣勢を強めた動的植栽を表現してみました。

6. 私の蹲踞の組み方

最初に前石を斜めに向けて据えます。次に、右勝手ならば前石右の役石を据えてから左側の役石を決め、最後に鉢かまち石を据えることが常道になっています。例外として大きな自然石の水鉢の場合は、水鉢の方向性があるので最初に水鉢を決めます。それから前石を据え順番に進めます。



* 蹲踞の表現事例（施工／ガーデンプラン赤池）



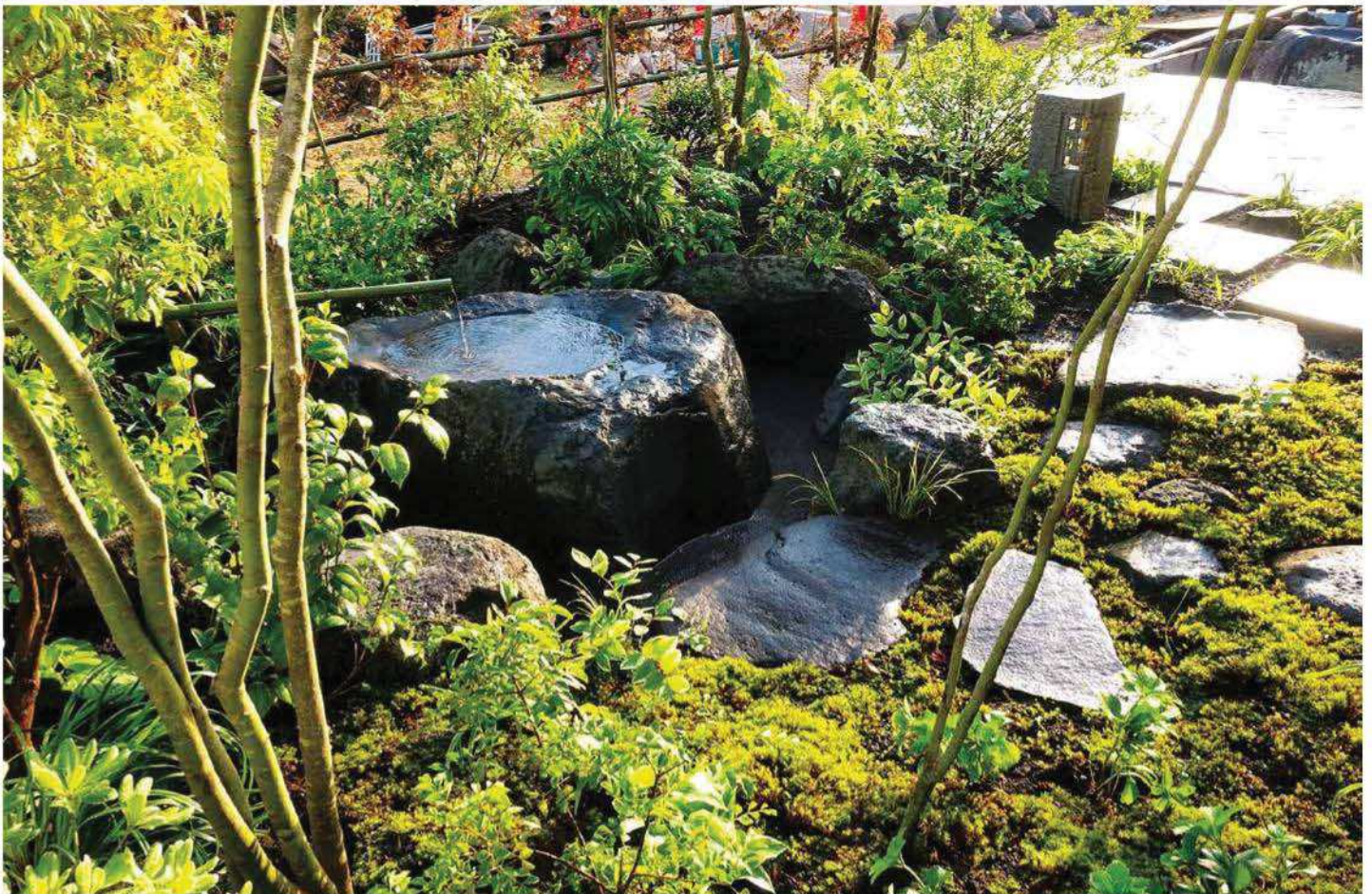
S邸



N邸



邸



邸

園芸文化をつくったひとたち——⑦

大隈重信は「花と緑の文明開化」の先導者、

園芸政治家

農学博士 近藤 三雄

日本園芸会を育み

「花と緑の文明開化」の先兵に

「江戸の園芸」に比べて時代は新しいにもかかわらず、維新後の「明治の園芸（因みに明治期の園芸は今で言う園芸と造園が未分化）」については、これまで歴史の闇に埋もれ、多くが語られることがなかった。現代の園芸や造園のあり様を考える上でも「明治の園芸」が時代の荒波の中、どう展開してきたのか。つまり、「花と緑の文明開化」の様相、その逸話を掘り出すことが、今の筆者の最大の関心事です。特に園芸や造園に関する様々な事象、例えば「屋上緑化」がいつ、誰によって日本で最初に試みられたのか等の「園芸・造園のはじめて物語」の探求に腐心しています。成果の一端は拙著『明治の園芸と緑化』に収載しています。

それらの情報源として、今、最も拠り所としているのは、日本園芸会雑誌のバックナンバー1600冊です。日本園芸会は、明治22年に大隈重信や榎本武揚らの元勲6名の賛成者の下、全国の園芸関係者165名を発起人として「発展の著しい欧米の園芸界。わが国でも有志が力を合わせ、団体が設立されなければ将来の隆盛は期待できない」という趣旨で設立されたものです。その会誌は、イギリス・ロンドンにある王立図書館によって、東洋における園芸の発展を知るには日本園芸会雑誌以外に無しとされた程、魅惑に満ちた「明治の園芸の逸話、秘話の宝宝箱」です。

因みに大隈は明治35年には二代目会長に就任し、その

後亡くなるまでの21年間会長職にあり、明治31年から43年まで早稲田の自邸を総会の会場に提供しました。大隈がこれほどまでに日本園芸会を物心両面で支えたのは、「日本に国益をもたらす、国民生活を豊かなものにする園芸の振興をはかるためには日本園芸会の発展なくして成し遂げない」と考えたためと思われる。明治38年に大隈邸で開催された第14回の総会の出席者は7000名に達したと言われています。当時の園芸会の組織の強大さを伺い知ることができます。

「明治の園芸の宝宝箱」を開けると、園芸趣味的な話から造園の国家的事業に至るまでさまざまな場面、事象で大隈の名が出てきます。本稿では紙幅に限りがあるので、その内容の断片だけ触れてみたい。ある意味、園芸・造園の分野における大隈の功績の紹介ということになります。

園芸にまつわる多彩な逸話

今、園芸関係者が2020東京五輪でのビクトリア・ブーケの復活を画策しています。このブーケ（花束）、一説によれば、明治中期まで、その概念はなかったと言われています。日本で最初に歓待や惜別の意を含め、ブーケを贈られ、贈ったのは大隈でした。明治23年、日本園芸会の重鎮10名が大隈邸の庭園見学の折、園芸学者でフランス・ドイツへの留学経験もあり、フクバイイチゴで有名な福



近藤 三雄
(こんどう みつお)

農学博士 造園伝道師
1948年横浜市生まれ。
東京農業大学造園学科卒業。
東京農業大学名誉教授。
「造園命」を看板に、造園技
芸の素晴らしさの普及啓蒙
に専心。
書籍：『香り植物の緑化デザ
イン』『生かせ造園の知恵』
他多数

羽逸人が土産として手製のブーケを大隈に進呈しました。大隈も外国婦人の訪問を受ける時には必ずブーケを作り、美しい紐で飾って贈るのを習わしとしていました。明治34年2月3日、盟友でもあった福沢諭吉の逝去の折には、その訃報を聞き、涙ながらに手塩にかけた温室の花を自ら切って花束として福沢家に届け、霊前に供えたといわれています。この花が何の植物であったかの記録はありませんが、おそらく自邸の温室には世界中の珍しいランの過半数を集めていたといわれることから白花のランの種類であったと推察されます。因みに大正5年には、帝国愛蘭会（現在の全国日本蘭協会）の初代会長も務めました。

大隈の菊花壇の素晴らしさは専門家も絶賛。毎年秋には皇族を始め各国の大使、著名人を招いて観菊の園遊会を催しました。外国人からは菊だけではなく、庭園や展示されている盆栽も称賛されました。

「全国菊花大競技会」の折には「菊は優美高尚にて正に日本的なものであり、欧米各国の優秀品を凌駕するものを作り出し、海外に輸出し、利益を上げることがひいては国民の幸福につながる」と演説しました。

自説の人生125歳説に絡めて長生きするためにはメロンを食べるのがよいと発言したことによりメロンが一般に広く認知されました。大隈邸で新たに作出された「早稲田（ワセダ）」という品種が大正8年に開催された日本の最初のメロンの品表会で一等賞を獲得しました。大正天皇にも献上されました。逸話は尽きません。

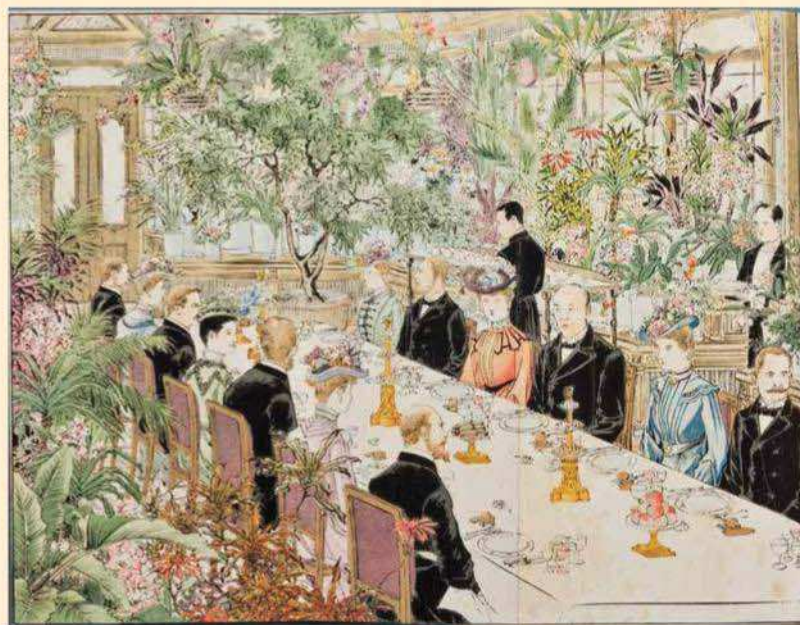


絵図と写真でたどる 明治の園芸と緑化

近藤三雄、平野正裕 著
誠文堂新光社 発行

B5判・192頁 定価：3,780円(税込)

図：「大隈伯爵邸花壇
室内食卓真景」『増補
注釈 食道楽 冬』村井
弦斎、報知社出版部、
1904 さいたま市大宮
盆栽美術館所蔵



数々の造園事業の先導者

明治5年の銀座の大火の跡、不燃建築の銀座煉瓦街の建築に関わり、日本における本格的街路樹の誕生にも寄与しました。明治6年には日本初の公園制度とも言われる太政官布達にも深くかわります。

自邸（雉子橋の旧宅、早稲田の新宅）の庭は、いずれも明治期を代表する自然風洋風庭園で広大な芝生地を有したいわゆる「芝庭」です。特に早稲田の新宅の庭の偉容さは内外の庭園関係者からも絶賛されました。庭園の詳細については明治26年に造園学者の小沢圭次郎が「早稲田庭園遊覧の記」と題し、日本園芸会雑誌で3回に分け、詳報しています。また、大隈の自邸には栽培温室だけではなく、日本で最初で最も華麗な鑑賞温室（コンサバトリ）が建設され、当時としては珍しい海外からの多彩な園芸植物で修景されました。その中では海外からの賓客を招いた晩餐会も催され、その折には大型盆栽も飾られました。時には観覧を希望する一般市民にも開放されました。

明治41年の日本園芸会第16回総会の演説では「主として衛生上の効果から都市に植木を植えること」つまり現在という都市緑化を始めて奨励しました。明治神宮の造営にあたっては「伊勢神宮のような森厳悠久の気を起させるスギ林とすべき」と主張。本多静六・上原敬二の造林・造園学者と論争。最終的には彼らの科学的説明を受け入れ、現在、見られるような常緑広葉樹の森とすることを承諾しました。

以上のように大隈は、今で言う園芸のみならず、庭園・公園・街路樹・都市緑化・森づくりに至るまで広範な造園事業の展開に関して先導的役割を果たしました。

究極の「園芸政治家」

大隈の一連の園芸についての功績や日本園芸会の総会等における日本の園芸あるいは園芸人を鼓舞する数々

の演説内容からすると、巷間伝えられてきた「園芸が趣味」の域をはるかに超え、まさに「明治の園芸維新」「花と緑の文明開化」の索引者であったとみなすことができます。彼の園芸への熱いまなざしの先にあったのは「日本を欧米並みの近代国家とする」「国を富ませる」「日本国民の文化度や資質向上を図る」という国土としてのたぎる思いがありました。また、本人がどこまで意識していたか解りませんが、園芸を人心掌握のための術として心得ていたようにも思えます。筆者なりに結論付ければ、「わが輩は百姓だ、植木屋だ」と自称していた大隈重信侯は唯一無二の「園芸政治家」でありました。最後に、病に倒れた大隈の枕もとを飾ったのは台湾から贈られた白蘭（胡蝶蘭？）。開花を待ち望んだが、在命中は咲かず、逝去した朝にはじめて美しい花が開いたという話を紹介し、本稿の筆を置くこととします。

Information

■セミナー「未来につなぐ朝顔文化～SEASON2～」参加者募集中 ※7/8(日)開催
アサガオ研究の権威三氏の話が聴けて、人気のアサガオ「團十郎」苗のお土産までつく豪華セミナーを開催します。

【開催日時】7月8日(日) 13:00～16:30

【会場】日比谷コンベンションホール（日比谷図書文化館B1）

【内容】①基調講演「朝顔図譜にみる変化朝顔の変遷～江戸から明治へ～」(園芸文化協会会長 小笠原左衛門尉亮軒) ②講演「変化朝顔の「芸」を科学する」(九州大学大学院准教授 仁田坂英二氏) ③講演「『曜白アサガオ誕生秘話』『午後開花アサガオの発見とその後』(静岡大学名誉教授 米田芳秋氏) 【定員】180名(先着順・定員になり次第締切)

【参加費】1,800円(アサガオ「團十郎」苗のお土産つき)

【申込み・問合せ】(公社)園芸文化協会 Tel: 03-5803-6340

Mail: enbun@soleil.ocn.ne.jp



丹羽理恵 (にわ りえ)

公益社団法人園芸文化協会理事・事務局長。グリーンコーディネーターの故光藤タカ子氏に師事。同氏の助手を務める傍ら、平成10年より園芸文化協会事務局に勤務。平成22年より理事・事務局長

園芸文化協会

検索



ご夫婦で永年かけて丹精込めて育てあげた見事な「バラ園」、限られた庭スペースを立体的に構成している。(千葉県・道林さん宅)

ウェルカム フェンスづくり

あまりにそっけない庭のフェンス。アットホームでやさしいフェンスに変身させる楽しいフェンスを作ってみましょう。



今、フェンスといえば、「金アミ式が主流」。

これまで本誌でもご紹介した「木製でナチュラルなハンガー式のフェンスカバー」ですが、多くの読者の方から、「わが家でも作れないかしら」と関心が寄せられ、急遽、簡単に作れる基本的な作り方をご紹介します。

まず、1枚あるだけで、ガーデンの印象が優雅に変えるウェルカムサインをぜひ親子一緒に思い出づくりのDIYとして挑戦してみてください。

本体の作り方

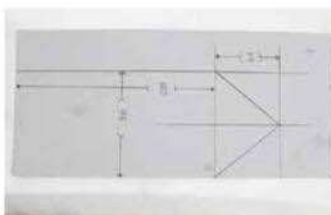
金属フェンスに「温もりを！」と考案されていたもので、“木製カバー”をネット表面に専用の金属フックで引っ掛けて並べ連ねるもの。まずは1枚から始めましょう。



(巾)9.5cm×(長さ)93cm(厚さ)15mm9枚使用



先端部、山切り部は5mm程を余分に



ボール紙で型紙を作る



板に当ててマークする



切断面の美しい「竹挽用鋸」で



小板を包んだ紙ヤスリでこする



山形にカットされた板(9枚)



板縁の下から15cmと70cmにマーク(横棧の位置)

フェンス横棧木の作り



横棧木板に端から9.5cm、3cmと順に線引き



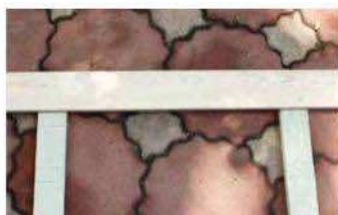
2枚目はサシガネで同じ位置に線引き



タテマークに合わせ、ビスを1本止める



サシガネ角度は正確に



上段の横棧もマークに合わせビス止め



これで骨部完成、角度は正確に



次々にマーク位置に合わせ止める



このタテ棧は上下部に専用フック用(左右)



裏面



表面

ペイント編



カンペハビオNEXT(白)水性



逆さに立てかけ、塗り難い所から



表に立てて、しっかり塗る



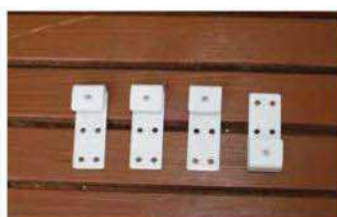
塗り残しがないようにていねいに



よく乾かす



アクセントに付けてみた(あり合わせ)



専用金具。上部ビス穴は外れ防止ビス穴

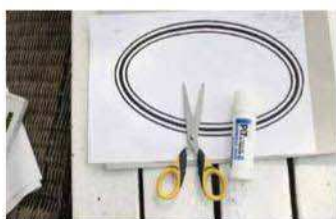


専用金具取付位置はネットの位置に

ミッキー・ミニー

みんなのアイドル、ミッキー＆ミニー！玄関ドアに貼ったり、
お部屋の壁に飾ったり、楽しい時も淋しい時もいつも一緒にいてほしい。

オーバルサイン の作り方



コピー紙をビットのりで厚紙に貼り



型紙を切り抜き、2×6板にマーク



ジグソーで切断する



オーバル完成



板の縁をこする



全体にグレーペイントで塗る(水性)

乾いたら



イラストをコピー



コピー裏にのり付け



板にていねいに貼る



カッターでシルエットに黒部をカット



濡れ布巾を軽く当てゆっくり剥す



できたー！アシスタントの成美さん



シルエット部以外はマスキング



白ラッカーを30センチメートル離して吹きつける



完成。可愛いから、ドアに貼ってもステキ



ムーミンの絵本をコピーして板にボンドで貼り、乾いたらクリアスプレーで仕上げる

ローズガーデン ウェルカムサインの作り方



アルスコポー製。竹挽専用の鋸



2×6板(長)32cmにカットする



全体にオリーブグリーンを塗る(水性)



コピー文字紙をビッド貼りする



カッターで黒字部分を切り抜き、マスキング



カンペのアクリ
ルラッカー(白)
と(黒)



40cm離れて黒スプレーを静かに吹く



文字中の隙間は



細筆を使い白をのせる



100円ショップのバラ造花使用



バラの基部を止める。
コード用「ステップル」



ステップルで固定



ネットに専用フック
4個で掛ける



ネット線の高さ
に合わせてフック
を上下させる



古城 大陸 (こじょう だいろく)

77年無表情に広がる「壁面砂漠に一点のオアシス」を」と世界初の水受け皿付きの「壁面専用植木鉢(パデュア)発表。(国際特許)以来、携わるインテリア、ガーデン誌に立体園芸の動機をする傍ら、市原市にある「ルネッサン荘ガーデンスタジオ」を拠点に無ければ作ろう「庭の家具を作ろう」をスローガンに日々、自ら参加してこそ楽しい庭づくりをテーマにユニークで新鮮な提案を発信している。
著書／素敵なエクステリア実例(主婦と生活社)
家族で楽しむ庭づくり(草土出版)

カンペ様から読者プレゼント

カンペパピオを5名様にプレゼント



3色セット

応募先／〒661-0964 兵庫県尼崎市神崎町33-1
関西ペイント(株)内 カンペパピオ営業企画部
「マイガーデン読者プレゼント係」

応募方法／FAX、ハガキにて
FAX: 06-6499-2172
住所、氏名、電話番号、年齢、職業を記入し
ご応募ください。(締切: 2018年8月末日)

※当選は発送をもって代えさせていただきます。

ハンガーフェンスシステムズの専用取付金具

4個セット 30組読者特別販売

※読者特別価格 1,600円(税込・送料別)



〒290-0007 千葉県市原市菊間3177
ルネッサン荘ガーデンスタジオ
ハガキかFAXでお申し込みください
TEL&FAX: 0436-41-1733
使用ビス、説明リーフ付き

「森の机」プレゼント

子供たちに木の温もりの学習机を贈りませんか！

教室が明るくなり子供に笑顔が生まれます

私たちは子供たちに『津久井の森にある広葉樹の集成材で作った学習机の天板』を贈り、地域の森を守る活動を行っています。



今までの合板の天板の学習机



コナラ（広葉樹）の集成材で作った学習机の天板



2016年12月1日朝日新聞に掲載される



天板ができるまでを子供たちに教えています

2012年から相模原市との協働事業で、広葉樹の天板を5校で約500枚設置。2017年度から相模原市教育委員会の事業として全小学校（72校）の児童約3万6千人に設置を予定しています。



MORIMO 「森の机基金」

地域の小学校や子供のいる施設に「森の机」をプレゼントする基金を募集しています。団体・企業や個人の方も歓迎です。詳しくは下記までお問い合わせください。

■お問い合わせ先／一般社団法人さがみ湖 森・モノづくり研究所
〒252-0171 神奈川県相模原市緑区与瀬2 6 9
Tel：042-684-4729 Fax：042-649-0222
<https://morimo.amebaownd.com/>

未来を担う子ども達に 「森の恵み」を贈りませんか！

森と人をモノづくりでつなげてワクワク循環させるラボ
それが一般社団法人 さがみ湖 森・モノづくり研究所 **MORIMO** です

日本が誇る里山文化は、森を敬いそして守ることで「森の恵み」を享受してきました。「森と共に生きる豊かな暮らしの智恵と高い技術、それを次世代に繋ぐために地産地消と地方創生に活かしていきたい」というのが MORIMO の想いです。森を活かして地域の木材を豊かな暮らしのために活用し、安全安心で高品質な製品づくりに努め、未来を担う子ども達に引き継いでいくために「森を保全・再生」する事業に取り組んでいます。

3つの基金のご案内

1 森の机事業

子ども達に木の温もりの学習机を贈っています。

2015年から相模原市との協働事業で広葉樹の天板を5校で約500枚設置。2017年度から相模原市教育委員会の事業として全小学校(72校)の児童約3万6千人に設置予定。



合板の天板

広葉樹のコナラの集成材天板



相模原市内小学校での設置事例

2 森の体験学習事業

子どもたちの森林体験学習を通して地域の森を守る活動を支援しています。



相模原市との協働事業で、森の机事業とセットで小学4年生に、NPO法人緑のダム北相模の活動基地「相模湖嵐山の森」で間伐などの体験学習を実施



MORIMOの木工品「ミウルの森の積み木」と「森のパズル」

3 森の暮らし事業

大切な森を守るために、地域の森で働く人、地域材でモノづくりをする人を守り育て、地産地消の家づくりを支援しています。



相模原市の藤野にある MORIMO の集成材工場。天板のほか無垢のフローリング材などの建材、木工製品を制作



地域で集材したスギ・ヒノキ・クヌギ・コナラ



地域のY邸での納入施工事例



製材・乾燥したラミナ材

MORIMO 基金のご案内

MORIMOは、大切な森を守り、この「森の恵み」を次の世代に繋ぎ、未来を担う子ども達に引き継いでいくため、MORIMO 基金を創設しました。ご支援をしてくださる仲間を募っています。

基金にご支援いただいた方への特典
一口 5,000 円～

- ① MORIMO の事業への参画
- ② イベント・フォーラム・講習会にご招待
- ③ オリジナルグッズプレゼント

【振込先】

ゆうちょ銀行 相模湖支店
記号 10280 番号 88420661
一般社団法人
さがみ湖森・モノづくり研究所

■一般社団法人さがみ湖 森・モノづくり研究所

〒252-0171 神奈川県相模原市緑区与瀬269
Tel : 042-684-4729 Fax : 042-649-0222 <http://morimo.amebaownd.com/>

新刊

2018年2月12日発行

Growing Playgarden for Starting Well

物語の生まれる 園庭づくり

株式会社アネビー／編著 (株)マルモ出版／発行

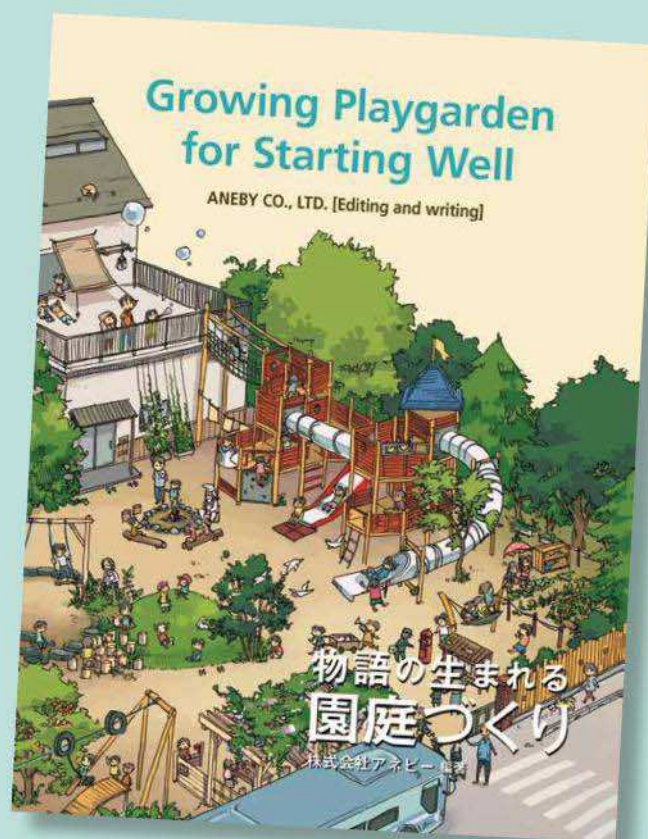
今までなかった！日本独自の園庭づくり実例集。
幼児教育・保育の質が問われる今、
世界最高水準の教育を実践している
施設を紹介いたします。

価格(税込)

2,500円

A4 変型
(W225mm × H297mm)
オールカラー 本文：176 頁

ご注文・お問い合わせはマルモ出版まで！
〒150-0036 東京都渋谷区南平台町 4-8 南平台アジアマンション 708 号
TEL. 03-3496-7046 FAX. 03-3496-7387 E-mail: maru@marumo-p.co.jp



ステップ・バイ・ステップで学べる

キッズのための50のガーデニング

こどもからおとなまで楽しめる理想のガーデニング入門書

キッズガーデンの待望書

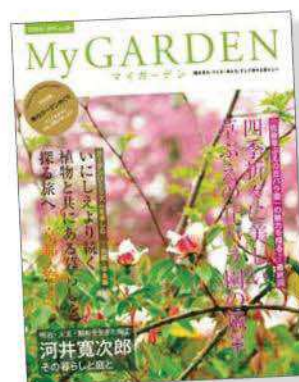
『50 Gardening Projects for Kids』の翻訳本。

四季を通して50のキッズガーデンを親子で楽しむための、
絵本のようなガイドブックです。マルモ出版から好評発売中。



■ A4 変形 96ページ オールカラー
定価：1,890 円
発行：マルモ出版
Tel:03-3496-7046 <http://www.marumo-p.co.jp>

富士山マガジンサービスより
マイガーデンの定期購読をお申込の方は



2号連続
50%OFF
期間限定！

半額

詳細・お申込みはこちら

マイガーデン 半額 検索



0120-223-223 (24時間年中無休)
Fujisan.co.jp カスタマーサポート cs@fujisan.co.jp

※月額払いの場合、クレジットカード番号、メールアドレスをお伝えください。
※定期購読の契約は Fujisan.co.jp との契約となり、お申込みは Fujisan.co.jp の利用規約に準じます。

庭の掃除と草刈りを快適にするコードレスツール 2 種セット

18V ナイロントリマー+ブロワー スターターセット



セット価格 / 23,000円前後(税別)

世界最大の電動工具メーカー ブラック・アンド・デッカーが4月より新たに発売を開始した、初心者向けの電動芝刈機とブロワーのセット。金属よりも軽いナイロン刃で女性にも扱いやすいトリマーは、ワンタッチ操作でパワー調整もでき、使い勝手は抜群。また、別売りのワゴン装着することで、より広い面積の芝刈を効率的に行うことができます。ブロワーは重量約1.5kgとコンパクトながら最大風速209km/h(従来比約10%増)と強力で、秋からの落ち葉掃除では大いに活躍することでしょう。

スタンレー ブラック・アンド・デッカー

TEL : 03-5979-5677 FAX : 03-5979-5788

URL : <https://www.blackanddecker-japan.com/>

優雅なエントランス空間を演出する門扉&フェンス

アルミ鋳物外構シリーズ「SHALONE」



YKK AP の外構シリーズ「SHALONE」は、ロートアイアンさながらの洗練されたディティールと、アルミ鋳物ならではの味わい深い質感を両立させたエクステリア商品。伸びやかな曲線や伝統的な装飾の施されたエレガントデザインは、気品と風格を演出し、住宅にアクセントを与え、門扉とフェンスの相乗効果で住まいの印象をより高めます。従来、こだわりのデザイン要望に対しては現場ごとにオリジナル商品をオーダー対応する形でしたが、上質でお洒落なデザイン性や質感を損なわず、規格品ならではの安定した品質とローコスト、かつ早期納品が可能になりました。

YKK AP(株) Tel : 0120-20-4134 (お客様相談室)

URL : <http://www.ykkap.co.jp>

たねダンゴ®を試してみたい方にピッタリな栽培用ツールセット

たねダンゴ® おためしキット



キット内容 / 専用培養土180ml、肥料(マグアンプK)5g、栽培説明書、給水用ポリ袋 価格 / オープン価格

全国都市緑化よこはまフェアで活躍し、本誌No. 85でも紹介した新しい種まき手法「たねダンゴ®」は、簡単な栽培で色々な花を楽しめる一方、個人では土や肥料などをそろえるのに手間がかかるという課題も抱えていました。しかしこのたび4月より、専用の培養土や肥料などを少量ずつ取り揃え、栽培説明書もつけたお試し用キットが発売開始(種は別売です)。あとは種さえあれば、初めての方でも気軽にたねダンゴづくり挑戦できるようになりました。ご自宅のお庭でも、各種イベントでも早速試してみよう!

株)サカタのタネ 神奈川県横浜市中区仲町台2-7-1

Tel : 045-945-8904 (営業第3部 法人営業課)

URL : <http://www.sakataseed.co.jp>



四季の野草リース

世界文化社 発行 辻典子 著
B5判・111頁 定価 / 1,512円(税込)

春のタンポポや秋のススキ、冬に見られる小さなかわいらしい木の実、そしてお馴染みの猫じゃらし(エノコログサ)など、どこでも見られる“野草”を使ったリースづくりの指南書です。身近すぎるがゆえに時に雑草扱いすらされてしまう野草や草原の植物も、アイデア次第でおしゃれな飾りに早変わり! 季節ごとの野草を素材とした、多彩なアレンジのお作法が綴られています。本書を読んだら、ぜひ外に出かけてみましょう。思わぬところで良い材料が見つかるかもしれません。



コンテナで育てるハーブと野菜

西東社 発行 深町貴子 著
B5変型判・192頁 定価 / 1,380円(税込)

テレビ・雑誌・ラジオなどでおなじみ、深町貴子先生の菜園指南書です。人気の高いハーブから、おすすめ野菜まで全178種類を紹介。コンテナ栽培なので、テラスやベランダ、庭先……小さなスペースで誰でも手軽にはじめることができます。野菜は、自然のチカラを利用するコンパニオンプランツについても詳しく解説しています。「料理に使えるハーブを育てたい」「野菜を自分で作りたい」そんな園芸ビギナーの方におすすめの一冊です。



失われたバラ園

はかた たん 著 さわだまり 絵
日本地域社会研究所 発行
B5判・30頁 定価 / 1,512円(税込)

かつて、福島県に『双葉ばら園』というローズガーデンがありました。園長の岡田勝秀さんが一代でつくりあげた園内には約700種・7500株ものバラが咲き誇っていましたが、東日本大震災による原発事故で閉園せざるを得なくなりました。この絵本には、かつての華やかで賑やかだったガーデンの思い出と、立入が禁じられ荒廃していく様子が、柔らかなタッチの絵と、園を代表するバラ「クイーンエリザベス」の視点による詩で綴られています。寂しさ、悲しさの中に、幾ばくかの温もりを感じる……そんな1冊です。

国立歴史民俗博物館 暮らしの植物苑 特別企画「伝統の朝顔」開催のお知らせ



左／青斑入桔梗渦輪鈴葉白地赤吹掛紋桔梗咲 右／青渦柳葉江戸紫采咲牡丹

朝顔は突然変異を起こしやすいという特徴から、葉と花の変化や組合せを楽しむ「変化朝顔」が多く作出され、長らく愛好家にもてはやされてきました。このたび千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館では、江戸時代以降に作出された60系統以上の変化朝顔を含む計約100系統・約700鉢を暮らしの植物苑内で展示するほか、朝顔に関する近代の研究内容等についてのパネル展示などが行われます。

■会場／国立歴史民俗博物館 暮らしの植物苑
(千葉県佐倉市城内町117)

★佐倉草ぶえの丘より車で約10～15分

■開催期間／2018年7月31日(火)～9月9日(日)

※毎週月曜は休苑(祝日の場合は翌日休苑)

※8月13日(月)は開苑

■開苑時間／9:30～16:30(最終入苑16:00)

★8月13日(月)～19日(日)は8:30開苑

★開花の特性上、午前中の早い時間が見頃。

■入苑料／100円(高校生以上)、小中学生無料

20名以上の団体は50円 ※その他割引等はURL参照

■問合せ／TEL: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

■URL／<https://www.rekihaku.ac.jp>

日比谷公園ガーデニングショー 2018 ガーデンコンテスト作品募集中

10月に開催される第16回日比谷公園ガーデニングショーに向けて、ガーデンコンテスト作品の募集が行われています。

■作品募集期間／2018年8月3日(金)まで(必着)

■募集部門・募集サイズ・募集数(予定)／

①ガーデン部門：幅4m×奥行3m、20作品

②ライフスタイルガーデン部門：幅3m×奥行2m以内で
最少2～最大6㎡、20作品

③コンテナガーデン部門：幅1m×奥行1m以内で

コンテナ鉢を使用、50作品

④ハンギングバスケット部門：縦80cm×横70cm以内で
壁掛けタイプ、重量20kg以下、100作品

※複数部門への出品可(1部門につき1作品のみ)

■申込方法／公式サイト(下記URL参照)または下記コンテスト専用窓口より入手できる応募用紙に、応募部門、住所、氏名、TEL等の必要事項を明記し、下記窓口まで郵送またはメールで申込。※他、詳細は下記URLを参照

■イベント開催期間／2018年10月20日(土)～28日(日)
10:00～16:00(最終日は15:00まで)

■会場／都立日比谷公園内(屋外)

■問合せ(ガーデニングショーコンテスト専用窓口)／
〒136-0073 東京都江東区北砂6-27-14(緑ランド内)

TEL: 03-5635-9955(受付10時～16時 ※土日祝除く)

FAX: 03-5635-9956 Mail: hibiyags@land.ne.jp

担当者：矢部(携帯 080-7002-2271)

■URL／<http://www.hibiya-gardening-show.com/>

グリーンアドバイザー認定講習・試験 受験申込受付中(6月末まで※予定)

植物の育て方に関する正しい知識や園芸・ガーデニングの楽しさを伝える知識・技術を有する方を認定する資格「グリーンアドバイザー」の認定講習会および資格試験が今年も8月末～9月にかけて実施されます。グリーンアドバイザーは(公社)日本家庭園芸普及協会が認定を行うものであり、20年以上の歴史を経て、現在は約11,000人の有資格者が全国で活躍中。資格取得後も協会主催の様々なイベント・行事等に参加できるほか、様々なアフターフォローも充実しています。また、園芸 CPD 制度に登録(無料)すれば、活動報告を申請することで「グリーンアドバイザー園芸ソムリエ」等の各種称号を習得でき、経験や実績をさらに広くアピールすることもできます。

■2018年度会場・日程(予定)／東京A: 8月21日(火)・22日(水)、大阪: 8月27日(月)・28日(火)、東京B: 9月5日(水)・6日(木)

■申込期限／2018年6月末まで(延長の可能性有)

■受講・受験料(税別)／一般: 37,000 円、再受講・受験(過去5年以内に受講・受験経験がある方): 27,000 円、学生(学部・学科は不問): 18,500 円

■主催／(公社)日本家庭園芸普及協会

※講習・試験のより具体的な内容や、取得者のメリットおよび特典などについては下記 URL 参照

■問合せ／TEL: 03-3249-0681 FAX: 03-3249-0683

Mail: jga@kateiengai.or.jp

■URL／<http://www.kateiengai.or.jp/greenadviser/>

マルモ出版&東京シティアイ共同企画 トークイベントのお知らせ



東京シティアイ

8月2日：テーマ「東京の緑さんぽ」

マルモ出版と観光案内所東京シティアイ(KITTE地下1階)の共同企画による東京の緑を考えるトークイベントを開催します。「実は東京のオフィス街は緑がとても多いのです」。今回、丸の内周辺の緑の事例を取り上げ、わかりやすくスライド交えて設計者にお話していただきます。また、生活に緑を取り入れる雑貨や書籍の販売を終日実施予定です。

※詳細は下記お申込みまたはQRコード参照



■日程／2018年8月2日(木)

■時間／11:00～19:30

※トークイベントは18:00～19:00を予定しております

■参加費／1,000円(お土産付、資料含、お一人様)

■参加人数／30名(定員になり次第締め切り)

■場所／東京シティアイ パフォーマンスゾーン
東京都千代田区丸の内2-7-2 KITTE地下1階

■アクセス／東京駅丸の内南口より徒歩約1分

■主催／東京シティアイ+マルモ出版

■お問い合わせ／

03-3217-2054(東京シティアイ 営業開発課 長谷川)

03-3496-7046(マルモ出版 松田)

■お申込／<https://www.tokycity-i.jp/event/4576/>

MyGARDEN 取扱いショップ Information

58口ハスファーム



栃木県矢板市の元ゴルフ場にできた「58口ハスファーム」(左)において、6月2日(土)・3日(日)の2日間にわたりマルシェが開催されました。10回目の開催となる今年のテーマは「花と香り」。出展数250店舗、来場者は回を重ねるごとに増え、約12,000人のお客様ににぎわいました。マルシェではマルモ出版の書籍も販売されました。マルシェ終了後も、クラブハウスにて引き続き取扱いいただいております。

※その他、マイガーデンを始めマルモ出版の書籍は各書店・ショップ等でお買い求めいただけます。

まいまいず文庫



※本誌P95参照



Kikki+



有数の森林資源を有効活用することで地域の活性化を図っている「まちなか交流・活動拠点 kikki+」。ファミリー世代を中心とし、カフェ、ショップ、イベントスペース、キッズスペースがあります。多世代に気軽に利用してもらうことでまちなかにぎわいを生み出すことを目指しています。

MyGARDEN 主要取扱いショップ

★はバックナンバー取扱店

★宮城県	せんだい農業園芸センター みどりの杜 仙台市若林区荒井字切新田13-1	☎ 022-288-0811	★東京都	まいまいず文庫 羽村市五ノ神1-7-7 ヴィラ多摩ビル102	☎ 042-849-1058
★宮城県	ザ・ガーデン中山店 仙台市青葉区中山台西1-1	☎ 022-277-8711	★東京都	グリーンギャラリーガーデンズ 八王子市松木15-3	☎ 042-676-7115
★宮城県	グリーンサム 石巻市恵み野 6-4-4	☎ 0225-96-8722	東京都	office 夢空館 西東京市柳沢1-7-16	☎ 0424-68-2814
★群馬県	ガーデンカンパニー 太田市東矢島町202	☎ 0276-49-2611	★神奈川県	ヨネヤマプランテーション本店 横浜市港北区新羽町2582	☎ 045-541-4187
栃木県	58口ハスクラブ 矢板市安澤2180-1	☎ 0287-41-0001	神奈川県	ヨネヤマプランテーション港北NT店 横浜市都筑区茅ヶ崎南2-1-1	☎ 045-942-5050
埼玉県	グレイス オブ ガーデン 川口市東川口4-20-29	☎ 048-299-0045	長野県	ホテルグリーンプラザ白馬 北安曇郡小谷村千国乙12860-1	☎ 0261-82-2236
★埼玉県	ガーデンハウス庭屋 白岡市太田新井278-2	☎ 0480-91-2085	静岡県	アカオハーブ&ローズガーデン 静岡県熱海市上多賀1027-8	☎ 0557-82-1221
千葉県	京成バラ園芸 八千代市大和田新田755	☎ 047-459-0755	愛知県	豊明花き資材種苗課 豊明市阿野町三本木121	☎ 0562-96-1193
★千葉県	ローズヒップ&プランツ 袖ヶ浦市蔵波2887-1	☎ 0438-63-4008	滋賀県	ローザンベリー多和田 米原市多和田605-10	☎ 0749-54-2323
東京都	東京テクノ・ホリティ園芸専門学校 千代田区神田小川町3-26-1	☎ 03-3292-0954	★京都府	サンフラワー・サービス まつおえんげい 京都市西京区大枝西長町3-70	☎ 075-331-0358
東京都	オザキフラワーパーク 練馬区石神井台4-6-32	☎ 03-3929-0544	★兵庫県	あいあいパーク 宝塚市山本東2-2-1	☎ 0797-82-3570
東京都	村田永楽園 世田谷区粕谷3-9-21	☎ 03-3300-8342	★兵庫県	陽春園植物場 宝塚市山本台1-6-33	☎ 0797-88-2112
★東京都	kikki+ (キッキプラス) 八王子市八日町3-15	☎ 042-686-0317	★島根県	日本庭園 由志園 松江市八束町波入1260-2	☎ 0852-76-2255

2018年8月発行

MyGARDEN

2018年夏号「マイガーデン」No.87

編集・発行人

アートディレクション 丸茂 喬

編集長 丸茂 喬

編集次長 松田清江

編集管理・デザイン 中村桂祐

丸茂弘之

営業・広告企画部長 小林哲也

営業・広告 中村桂祐

販売部長 一ノ瀬健介

ゲストエディター 阿部民子

ゲストデザイナー 白水奈緒美

編集・発行

(株)マルモ出版

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町4-8

南平台アジアマンション708

TEL. 03-3496-7046 FAX. 03-3496-7387

E-mail: maru@marumo-p.co.jp

URL: http://www.marumo-p.co.jp/

MARUMO PUBLISHING CO., LTD.

Room708, 4-8 Nanpeidai-Chou

Shibuyaku, Tokyo 150-0036, Japan

印刷・製本

(株)ローヤル企画

©マルモ出版

本誌掲載記事の無断複写・転載を禁じます。

ISSN 1343-4217

MyGARDEN は書店、各地域取扱ショップ(P127)、マルモ出版でお買い求めいただけます

MyGARDEN定期購読のご案内

年間4冊発行 [発売は3・6・9・12月の各16日です]

●定期購読は**送料無料**でお届けいたします。

(メール便で発送いたしますので、ご到着まで多少日数をいただく場合がございます)

●定期購読・バックナンバーのお申し込み方法

本誌巻末の払込取扱票の通信欄に、必要事項をご記入の上、郵便局にてお振り込みください。

※バックナンバーには送料がかかります(ただし5,000円以上は送料無料)。事前にお問い合わせください。

●問い合わせ

株式会社マルモ出版 TEL.03-3496-7046 FAX.03-3496-7387

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町4-8 南平台アジアマンション708

マルモ出版のホームページからもお申し込みができます。

検索サイトから

マルモ出版

検索

バックナンバー好評発売中

86 いにしえより続く植物と共にある暮らしを
探る旅へ～京都・奈良～

85 南国の自然と人の温かさに癒される。
高知・花と植物の旅。

84 バラを心ゆくまで楽しむ岐阜・浜松の旅

83 やっぱ北海道!!

82 「風の丘しいある」と歴史と文化が薫る
避暑地「軽井沢」を巡る旅

81 山下公園 未来のバラ園／
ガーデンカフェTimeで心を癒す旅

80 バラを訪ねてニュージーランド講演の旅
／香りのバラを楽しむ

79 安住の地で作る庭

78 花の山・赤城と山麓の百花繚乱

77 多摩・三浦丘陵 人と自然の原風景
春、夏、秋を旅する

76 阿蘇山麓 水と火と神話の里に花と景観を訪ねて

次号
発売

MyGARDEN

2018年9月16日発売

「マイガーデン」No.88 秋号

◎福島を元気に!! (予定)

◎バラのナーサリー紹介

※内容が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

肥料は、**ココロのエネルギー**
……にもなります。

写真＝牛尾幹太



【ペンタガーデンシリーズ】
販売元＝日清ガーデンメイト(株)

“ココロも満タンに”コスモエネルギーグループは“ALA GARDEN”と“ペンタガーデン”のふたつのブランドで、国内外の農業、そして園芸シーンで、皆様のお手伝いをいたします。



【アラガーデンシリーズ】
販売元＝清和肥料工業(株)



COSMO ENERGY GROUP
株式会社コスモトレードアンドサービス

〒105-8325 東京都港区芝浦 1-1-1

【お問い合わせ】ALA アグリビジネスプロジェクト TEL.03-3798-1225

道具にこだわる楽しさ



Webでのお申し込み
<http://www.rgc.tokyo>

Royal Gardener's Club

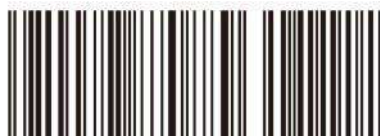
〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 5-24-4 eisu ビル自由が丘 1F
TEL:03-5731-6301 FAX:03-5731-6303 受付時間: 平日 10:00~17:00 (土日祝日は除く)



Royal Gardener's Club

定価1,200円
本体1,111円

雑誌 08287-08



4910082870889
01111



この印刷物は、E3PAのゴールド基準に適合した
地球環境にやさしい印刷方法で作成されています
E3PA:環境保護印刷推進協議会
<http://www.e3pa.com>